

預防法

一病菌の寄生したる葉を見るときは猶豫なく摘採して燒却すへし

但しペト病は獨り胡瓜、南瓜にのみ發生するものにあらすして其他の瓜類にも屢々寄生するものなるか故に直ちにこれと同様の法を以て撲滅するを要す

二ボールド液を未發若しくは初發に當り散布すれば能く其傳染を防止することを得

第七節 馬鈴薯の疫病及び青枯病

馬鈴薯疫病は通常秋季に於て多く發生すれども又早きは六月頃既に病徴を顯すものあり被害の葉は初の黄色の紋点を生じ其部は漸次褐色となり組織は軟化し乾くときは遂に黒褐色となり天氣濕潤なるときは此病斑点の周圍は稍灰白色に見ゆ之を凝視すれば葉面は恰も綿毛様のものにて覆はれたるか如き觀をなす葉の裏面に於て殊に然りとす是れ疫病菌の葉肉中より無數の擔子梗を抽出して胞子を結ふにり其甚きときは葉の滿面盡く此擔子梗を以て覆はれ恰も霜の降りたるか如き觀を呈することあり之れかために葉遂に全体枯れて捲縮し黒褐色となるなり葉亦同様の害を被り

て變色す

病葉に生したる病菌の胞子は風の爲めに飛散して健全なる葉に附着し濕氣を待て發芽し葉肉中に侵入して又前記の如き病斑を生ずるなり其地上に落ちたる胞子は遂に塊莖に達し之を侵害す被害の塊莖は全体或は一部分其固肉の色澤を失ひて暗褐色となり少しく硬質となる若し之を濕潤なる處所に貯蔵するときは遂に全く腐敗するに至るへし又此病塊莖を種薯として栽培すれば病菌は芽より嫩葉に傳はり遂に葉に蔓延するに至る

本病は濕地に栽培したる馬鈴薯に最も多く發生し天氣濕潤なるときは其蔓延甚だ速なりとす而して我邦に於ては從來馬鈴薯作に一種の被害あり此れ疫病と同一く濕地に栽培したる馬鈴薯に多く見る所にして往々甚しき損害を生ずることありこれ即ち

青枯病

と稱し細菌の寄生によりて起るものにして被害の馬鈴薯は其莖葉日中に至りて俄に水分の欠乏したるかの如くに葉は凋みて垂下す而して一兩日間には蒸生恢復

して健全なるか如く見ゆれども二三日を經は全体枯死して褐色となる其葉の凋みて未だ褐色に枯死せざる以前に葉を裂きて内部を検すれば髓部の腐敗軟化せるを發見すへし而して病毒は遂に地下の塊莖にまで侵入して之を腐敗せしむるなり斯の如く疫病と青枯病とは其病狀を異にするを以て栽培者は兩者を混同せざる様注意すへし

豫防法

右病害を豫防するには左の諸件に注意するを要す

- 一 種薯は充實して少しも病の徴候なき良好のものを選びて栽培すへし若し截斷して内部に瑣少にても變色を認むるときは決して用ゆへからず
- 二 種薯に病菌の寄生せる疑あるものは華氏百四度（攝氏四十度即人間の体温よりも少しく高き温度なり）の温湯を以て四時間乾熱消毒法を行ふへし（乾熱消毒法とは消毒せんと欲する薯を罐内石油の空罐を利用するも可なり）に入れ之を華氏百四度の温湯中に四時間續けて湯煎をなすへし（風呂桶に湯を沸して其中にて行へば便利なるへし）

- 三 圃地に於て馬鈴薯の發芽生長後莖葉に疾病を發生したるときは其圃地からざるに先ち速にホルト液を莖葉に注射して其蔓延を防ぐへし若し初めより發病の恐ある地方に於ては發病に先つて之を注射し豫防すへし
- 四 莖葉に病害の發生したるときには直に塊莖（地下の薯）に傳染するを防ぐか爲め厚く覆土をなすへし
- 五 被害の莖葉は刈取り焼却すへく薯を收穫するには被害の莖葉を除却したる後數日を經て天氣乾燥の日に之を行ふへし
- 六 馬鈴薯は濕潤なる地所を避けて栽培すへし又濕地に於ては適宜の排水法を行へたる後に栽培すへし
- 七 種薯は無病地より得て之を用ゆへし
- 八 貯藏するには收穫後薯を乾したる後之を箆に盛り木灰一升水三四升の灰汁中に數分間浸漬し取出して乾し後貯藏すへし
- 九 病害に罹りたる塊莖は地中に深く埋むるか又は焼却して病菌の散逸を防ぐに注意

すへし

馬鈴薯の腐敗病

馬鈴薯の貯蔵せるものと又圃場にあるものとの間はず根塊し一部軟化し其腐敗せし部分より黄色若くは白色の粘汁を出し一種不快の悪臭を放ち遂には全く液汁を變ずることあり是れ即ち本病にして病菌の寄生により然らしむるものなり

豫防法

一此病を避くるには空氣の流通に注意し又排水を能くして常に土地を乾燥ならしめ過度の濕氣を保たぬ様になすを要す
二種薯には傷痕キツアを存せざるものを選び目つ粗抽すへし

第八節 山葵ワサビの腐敗病

山葵の腐敗病を被りたる部分は常に一種の臭氣を放散し又粘液を漏出し其色黒褐色を呈せり此病は其葉柄に發生すること殆んど稀にして主として植部若しくは葉部を侵害するものなり

豫防法

一凡てバクテリア類は陰濕を好むものなるを以て前者の豫防法の如く能く空氣の融通及び排水を良くするを最も肝要となす

第九節 葱の病菌

葱の病菌は重に氣候の陰濕なる年に發生する性あるものなるか陰に常に能く陰地に生して傳染するものなりこれに侵されたるものは最初其葉部に灰色の小点を現生すへしこれ所謂菌糸の群生するものにして此者漸次傳播して害を加ふるものなり

豫防法

一被害の葱は直ちに焼却するを肝要とす又一説秋日に播種せはこの病害の發生することなしと云ふ

第十節 葡萄のウトン粉病

此病は六月頃發生し俗にシブと稱すシブとは葡萄の莖葉殊に未熟の子實面に白粉の如きものを附着し次第に蔓延し遂に其熟實を妨げ大害を興ふるものなり其の最もシ

ブの蔓延甚しきときは多量に附着する。花房は果實萎縮し終に成熟せずして落下するに至る。

莖葉は全く其の成長を阻害せられ又其花房は子實の外皮裂け或は萎縮して皮固り終に成熟すること能はざるに至る殊に陰濕なる年にありては其害最多しと云ふ。

其病質の白粉は即ち一種の病菌にして桑の白シブ菌と同族の種類なり此菌は専ら餌食植物の外部に寄生し其部は蛛巣の如き菌網を蔓延し菌糸の下面より吸胞を出して表皮細胞の内に入れ其養液を吸収す其の吸器を出す處は菌糸稍膨長し周邊に數箇の括れを生ずるものなり。

此芽胞牛熟すれば風の爲めに散亂し他の健全なる莖葉子實に附着し益其蔓延を逞するものとす蓋しシブを被れる果房を振搖すれば白粉の飛散する皆此の菌子の飛散するに外ならざるなり。

豫防法

一總てシブ菌の蔓延を妨ぐには硫黃花又は硫黃の粉末を散布するを以て最効ありと

す其法は最初開花前に施し次に開花後直ちに施し最後に七八月頃に施用するにあり但し硫黃の粉末は微細なる程効驗あるものなるを以て硫黃花よりは寧ろ硫黃を極めて細末として施す方奏効顯著なるへし。

二凡そ菌茸類の蔓延は重に陰濕の地に多きものなれども就中此の病菌の如きは斯の如き處を好むか如し故に其の蕃殖を防かんには第一栽培の位置及び其種子を撰擇するを肝要とす空氣の透過して乾燥なる山陵の高地を最も良しとす海邊若しくは濕潤なる所は不可なり。

四他樹の爲めに隠蔽せらるゝは病に罹り易きか故に能く注意すへし又莖葉非常に繁茂して空氣の透過充分ならざるは宜しからず故に其の枝葉を摘み取るを要す。

第十一節 桃のウトン病

此の病菌も前述の葡萄の如く其果實に寄生する時は其成熟を妨げ漸次萎縮して葉も又變す此の病患の發生は恰も六月上旬頃より八月頃を常とするか如し。

豫防法

前述葡萄のシブ病豫防法と同様にして可なり

第十二節 桑の膏藥病

本病は微菌寄生より起るものにして重に高木仕立の桑の幹或は枝に生ず其病狀恰も紫色の班紋を現出し膏藥を貼付したるか如し此もの猖獗激甚ならざる時は桑樹の發達上著しき影響を及ぼさざるも其の被害部次第に擴大して幹枝を包圍するに至らば爲めに桑樹内の養液を吸収し遂に其上部は非常に衰弱を來し又は被害部著しく細り又は回みて異様の成育をなし其の寄生を受けたる部分以上は終に全く枯死するにいたることあり

豫防法

- 一これを驅除するには鐵篋テツペラ若しくは小刀の如きものにて枝梢より膏藥体を掻き落し其跡へ酒精、醋又は木灰汁を塗抹して菌糸を殺除すへし
- 二其の發生部より切斷して焼き捨つるを好しとす然るときは新芽を發して再び完全の株を作ることを得へし

桑樹の結核病

重に桑樹の高木仕立のものには夥しく果實を結ぶものにして其の實粒中白色又は紫白色等のものを生ずることありこれ即ち結核病と稱する病患にして一種菌類の寄生により起るものなり元來桑實は熟するに従へ紫黑色に變すへきものなるにかく白變するは病菌の作用に原因するや明かなるへし本病は例令其發生の猖獗を見るも桑樹をして著しく衰弱せしむるか如き害を及ぼすものにあらすと雖も本病に罹りたる桑實は之れを播下するも遂に發芽することなきを以て桑苗を種子にて仕立つるには甚た害あるものなり

而して桑園内に俗にキツネノワン又はキツネノヤリ杯と稱する茶碗狀若しくは棍棒狀をなせる小菌茸を生ずることありこの小菌は即ち病實の落下して生したるものにして此もの能く熟するに従へ多數の芽胞を生み再び害中に放散して又桑樹に寄生するなり

豫防法

一本病を發生することおらは丁寧に採收して糞糶等と共に焼却するを要す
 二菌茸即ちキツネノワシキツネヤ等は直ちに採りて等しく焼き棄つへし

桑の菌縮病

本病は近年各地に蔓延し至る處これか害を被らさることなく桑病中最も有名なる病
 患なりこの病害を受けたる桑樹は其の根部漸次萎縮しこれに伴ひ莖細り又其の葉も
 次第に縮少して綠色を減却し終に黄色に變して枯落するに及ぶ元來本病の發生は如
 何なる原因によるや目下吾人のしきりに研究する所なりと雖も未だ其の完全なる一
 定説なきか如し即ち甲は微菌の寄生によりて起るものなりとし乙は桑樹の種類に起
 因すると云へ丙は土地の不適に依ると云へ又は降雨の際これを刈り採るによると云
 へ又は苗木の取扱の粗末より其の心部の腐敗するに起因するなりと云へ各自其意見
 を異にし何れによるや實に農家の等しく迷ふ所なり然れども其最も能く人の唱ふる
 處は微菌原因説の如し此の説によれば初め微菌の桑樹の根に寄生するや重に本樹よ
 り漸次細根に及ぼし終に全部に普及す故に其被害部を檢せは其の寄生を受けたる部

分悉く膨起しさなから瘤形をなし其の皮下には紫色の細粉様のものを存す此の粉末
 には無数の孢子あり即ち病菌の種子にしてこのものより糸狀体を生して漸次皮間に
 蔓延しその養液を吸害するものなり故に其初めて發生するも初年には其害を被る極
 めて少く次年より次第に其被害を増加するものなりと此説稍信するに足らんか
 其他數説に就ては殊更らに列記せずやかて其の原因の確然するを待ち本節を増補す
 ることゝなすへし

豫防法

一 濕潤地は常に能く排水に注意し土地を乾燥ならしむへし
 二 秋蠶又は夏蠶を飼育するに葉を摘採する其の宜しきを得は著しき害なしと雖も過
 度に摘取るは最も宜しからず
 三 本病の發生せし桑根は直ちに掘り取りて焼却し其跡は能く寒氣に曝露すへし
 四 桑園の耕耘は俗間のよく唱ふる土用ヌノコに寒カタビラと稱する方法に注意すへ
 し則ち夏日は土を株際に寄せ掛け冬季は之れに反して株邊の土を株間に盛り返す

にあり

桑の赤錆病 アカサビ

本病も又一種の病菌の寄生によりて發するものにして則ち桑の嫩葉又は嫩莖に淡赤色の斑点を現はし殊に嫩芽ワカメにありては其の寄生最も多くそれか爲めに遂に其葉は捲縮して枯死するに至るものなり
元來本病の所屬は未だ明瞭ならざるか故に之を豫防することも極めて至難なることなりとす

豫防法

- 一被害の桑樹は直ちに切り採りて焼き棄つるを良しとす
- 二重に病菌類は濕の充分なるとは陰地とを好て殊に繁殖するものなるを以て空氣の透過に注意し且つ排水を能くするを肝要とす

桑の紋羽病

本病は桑樹に最も普通なる病害にして其所在は専ら根部にあり其老成せるものは莖

の地面に相接する部分に厚き紫色の果托を出す其形狀宛然紋羽織に類似せり故に其名あり

此病はヘリコバシヂエムモンバと稱する一種の菌茸の寄生によりて起るものにして此菌は菌糸束によりて根より根に傳播するを常とす或は土質の如何によりて此病を發生すと云ふ説をなすものありと雖も決して土質は其病患の根源たるものにあらず但し地味か潤なる所にありては此病を生ずること多きか如し元來此病菌は激甚なる損害を興ふるものにあらずと雖も一度發生するときは次第に増殖して桑樹は遂に枯死するに至り之を除滅する中々容易の業にあらざるへし

又此の病菌は適宜の濕氣を有するときはその植物の存在せざるも只地上に蔓延して能く生存するの特性あり又其の發生は獨り桑樹のみならず他の大根、胡羅、薩摩芋及び楮、三椏ミツアズミ、松、杉等の如き多肉根に寄生して桑樹と同様の害を加ふることあり

豫防法

一之れを防ぐには能く地中の濕氣を去り桑園をして常に乾燥ならしむへし

二五六月の頃注意して根邊の厚層を除き之を焼却すへし

三其の蔓延の最も甚しき時は止むを得ず悉く病桑を掘り取り能く根部を洗滌し其病菌の菌糸を除去し木灰汁若しくはボールド液を以て洗ひ他所に移植すへし又溝を穿ち地中の濕より根に傳はるを防禦すへし

四海草類を施す時は獨り肥料として有効なるのみならず其害を防ぎ且發生を豫防するに効あり又は食鹽水、灰汁等を注下するも大に其害を除去するに効ありと云ふ

第十三節 桑及び茶、葡萄の根腐病

此病患は夙に歐洲各國に發生し其被害甚しかりしも本邦にて最初發見せしは去る三十三年長野の桑、西ヶ原の茶、甲斐の葡萄等に認めしを嚆矢となす

本病も等しく病菌の寄生により起るものにして其末た枯死せざる病樹にありては菌糸が根の周圍に纏着して恰も棉を被れるか如き狀をなす而して其の寄生を受けしものは次第に衰弱を來し之に伴ひ開展せる葉は萎凋し從て其の芽の發生を滅却し終には之を枯死せしむるを常とす元來本病の濕種は其初の鬚根の細端より感染し夫れ

より漸次本根に傳はり形成層を枯死せしめ菌糸は又道管に入り水道を妨ぐるを以て樹木も遂に枯す死るに至るものなり

豫防法

一本病を防ぐには常に排水を良好ならしむるを第一とす

二又本病は傳染の速かなるものなれば其猖獗せざるうちに無病樹と被害樹との間若しくは其周邊に深溝を掘り其蔓延を遮斷すへし

第十四節 麥角病

本病も一種の菌類の寄生により發生する病害にして多く開花の際白色の小塊を以て其花を包圍し此の菌糸が其の種々の内容に蔓延し次第に錯綜して宛然織物の如く厚層をなし遂に種子を膨大にし即ち此の麥角となるものなり

此ものは中毒を與ふる一種の毒物にして之れを以て試に鶏を飼ふときは売なき卵を産すと云へ又人の之れを食ふときは恰もアルコール中毒の如き徴を呈して往々死に至らしむることありと云ふ

豫防法

一此の病の發生するを見は猶豫なく其の穂を抜き取るハし
 二常に排水に注意し専ら清潔に整地するを要す

第十五節 玉蜀黍の黒奴

本病も前者麥奴病の如く等しく一種の黒奴菌の作用によりて發生するものにして俗習之れを玉蜀黍のヲバケ杯と稱せりこの菌の寄生せしものを見るに初最花胞若しくは莖部等に芽胞を生し恰も粒状をなして頗る脹大となり中には終に掌大に膨起するものあり此の拳の内部は黒褐色にして皆芽胞の結合なり未熟なるものは粘濕を保てども其熟するに従て乾燥し終に細粉となりて散亂するものなり

元來の此の芽胞は一つの毒氣を含有するか故に本病を蒙りたる莖葉は畜類の飼用に供せざるを可しとす

豫防法

一前述麥及び粟の黒奴菌豫防法と大差なきを以て同様の方法を講して可なり

第十六節 莖莖の結核病(一名菌核病)

此病害は即ちスクレコチニアリベルチアナと稱する害菌の寄生に依りて發病するものにして或地方にては俗に之れをクサン腐枝杯と稱す而して此害菌の寄生するや莖の組織は菌網の分泌せる醱酵素の爲に分解せられて營養作用を失ふか故に其局部のみならず全体萎黄して遂に開花結實なることなく僅に其生を保つに過ぎざるに至る今被害の莖莖を仔細に檢すれば莖は皮部に於て處々脱色して斑紋を生し又葉の附着の下部又は枝の又部等に黒色の小塊粒の附着するを見る此小塊粒は發病の初期に於ては白色なりと雖き後に至れば黒色の硬き物質に變す又莖を開て内部を檢せば髓部は皆腐敗して空虚となり根部も亦然り而して此空虚部には莖の表面に見たる小さな黒境粒と同色同質のもの數多點在し皆其形狀一定ならず或は圓く或は細長く或は不正形にして長きは五分餘に達するものあり此塊粒は即ち前に記名せる害菌の菌網相集合して成れるものにして菌核と稱するものなり此菌核は病莖莖の取扱ひ不注意疎漏なるときは皆地上に墜落して其儘凌冬越冬し翌春三月頃に至れば喇叭狀をなせ

一種の擔子器を發生す此擔子器中には種子に相當すべき孢子と稱するものありて擔子器より脱出し風に吹かれて莖莖の莖に附着するか又は直に其根部を侵害して再び菌核病の起原となるものなり而して本度の發生植物は單り莖莖のみにあらずしてカブラ、ニンジン、アツキ、インケン、ジャガタライモ及び其他種々の作物にも往々寄生するものなり

豫防法

一被害甚たしく萎縮青黄色を呈するものは到底充分の結實を望むべからざるを以て菌核の成熟に先ちて早く抜き取り速に乾燥して焼却すべし若し多少の收穫を豫期すべきものは收穫の際菌核の地上に脱落せざる様注意して抜き取り焼却すべし
二本度の發生は元來早生種に於て最も甚しく晩生種には極めて稀なり故に中生種若しくは晩生種を擇ひて栽培するときは其發生を免るべし

第十七節 柑橘類の煤病

未病は柑橘類の莖葉及び果實の表面に生じて大害をなすことあり元來此はメリオラ

属の病菌の寄生より起るものにして此の菌は死物寄生の性質を有し莖葉及び果實の表面に堆積せる甜美の粘液より養分を攝取して生活するものなり而して此の粘液は木虱の寄生せし時若くは非常なる旱魃ヒデリに罹りたる時等に最も多く堆積す肉眼にて此病菌を視る時は緻密なる黒煤色の膜よりなりて莖葉果實等を被ふ之を顯微鏡にて檢するに夥しく錯雜重疊せる菌糸よりなれり其始めて寄生する時には菌糸は緩く交錯するのみなれども漸次多數になりて極めて緻密コメカなる膜を作り莖葉果實等を被覆するに至る然る時は重要なる炭酸瓦斯及び酸素の出入を妨げ且つ光線の映射を害し遂に同化作用を充分に行ふこと能はざるに至らしむ是を以て煤病に罹りたる時は其樹勢漸次衰弱し大木にありては稍抗抵抗力強しと雖も小木にありては動もすれば萎凋枯死することあり果實も充分に成熟せずして何時までも酸味を帯ひ甘味淡く果皮の色澤亦美麗ならざるを常とす而して空氣の流通日光の映射及排水悪しき所は大に介殼蟲の發生に適するか故に斯の如き所に栽培したるものは亦大に煤病の害に罹り易きものなり

豫防法

一非常なる早魃の如き天災より誘發したるものを除くの外は大抵不虱即ち介殼蟲の寄牛か木病の一大誘因となるを以て先づ第一に介殼蟲の發生を見は直ちに驅除するを肝要とす

二枝葉を日光及び大氣に常に能く觸るゝ様注意し且つ排水を能くし殊に伐枝法を充分に行ふ

三旱天等には屢々清水を注ぎて能く不潔物を洗ひ落すへし

四窒素肥料を多量に施與するは大に効あり

五被害樹の下に蕎麥稈を凡そ五寸位の厚さに敷き散らし且つ該稈を煮出し其の汁を枝葉に充分撒布するときは頗る効ありと云ふ

第十七節 竹の病害

苦竹株に往々麥奴様の病害を醸すことありこは即ち麥類の黑穂の如き一種にしてシントラクチと稱する黑穂菌の寄生により起りたる病害なり

本病は常に葉枝若しくは下部に多く發生し其最も猖獗の盛んなる時は屢々之れを枯死せしめ遂には抽生せし筈をして腐敗せしむることありこの病は常に藪下の掃除を怠り通氣光線の透射を充分にせざるときは殊に其の發生を誘導するものなり

豫防法

一未だ良法を聞かずと雖具寄生を受けたる枝を伐り取りて焼却せば大抵其の蔓延を豫防することを得へし

二常に竹林中の下刈を怠らすして草木の雜生を除去すへし

第十八節 李類のフクラミ病

本病も即ち菌類の寄生に原因して起るものなり其これに罹りたるものは頗る異様の發達をなし其内部は恰も豆類の莢の如く空胴となり其色も次第に白色と變し終に又黃變するものなりこの上部は發育せずして胚子附着す又本病の菌糸は樹枝木に入りて越年するものなり

豫防法

一被害の病枝を伐り採りて病根を除滅すへし

第十九節 櫻の天狗巢病

本病も所謂病菌の寄生によりて生ず此菌糸は樹枝中に入りて越年し翌年又新しき枝葉の發するころ發生して専ら蔓延するものなりこれを防ぐには其病枝を去り以て病根を除くにあり

第二十節 紫雲英の菌核病

紫雲英にも又菌核病と稱する一種の病害ありこのもの發生する時は獨り其收穫を減却するのみならず大に雜草の繁茂を補助して其害益し少からざるものなり其本病の發生するときは莖葉皆萎凋^{シボレ}して漸次枯死しそれより遂に腐敗するに至るものなり尤も其猖獗の甚しからざりし時は三月頃再び發芽して繁茂すると雖冬季温暖にして病勢の蕃殖に好適するときは實に青葉をして多く殘さざるに至ることあり其萎凋せる莖葉を点檢するに其初めは下部の無數の菌糸を蔓延し夫れより種々の状態をなし終に菌核即ち黒色の堅粒となるなり此菌核は粗造にして其様恰も鼠糞の如きものなり

ものなり

豫防法

一本病の發生したる時は猶豫なく木灰汁を撒布するを要す又ポルトー液も有効なり二已に菌核となりたる時は其被害作物を採集し燒却するを良しとす

第十一編 植物栽培

第一節 禾穀類

第一 稻

(種々の要項は第六編を参照せよ)

氣候、稻は禾本科に属する^{スゲチ}維根植物にして元來熱体地方の産物なれども漸次其性質を變して現今にては大抵の寒地にも發育するを得るに至れり而して其生育期は種類^ノの早晚及び天然^ノ若しくは人為的生育の境遇に應じて少しく差あれども概して五六ヶ月を出てす故に此生育に適合せる濕氣充分なる熱体地方にありては一年二期の收納を得へし

元來稻作の成育中に必要な温度の總量は其説種々あれども我日本に於ける生育期

節は五月より十月に渉る六ヶ月間にして左に掲ぐる表は即ち各地に於て其稻に供給せらるゝ温度の相量を示せるものなり

地名	五月	六月	七月	八月	九月	十月	合計
長崎	五二、一	六四、〇	七三、六	八二、七	七四、〇	五九、〇	四〇六、四
東京	五四、六	六〇、〇	七五、四	七八、三	六五、〇	四八、三	三九八、九
青森	三六、八	四八、〇	六二、七	七三、〇	五五、〇	三六、九	三二二、一
新潟	四七、二	五六、〇	七六、四	八六、〇	六五、〇	四六、一	三七七、二

要するに稻作に必要な境遇は其生育期間に於て全く降霜無く其主要なる生育期節にあたりては一定不變にして充分高き温度を受け且つ灌漑水の欠乏を來さざるにありとす斯くの如くんは半熱帶極端迄はよく之を耕種することを得るものなり
適地、凡そ稻は大概の土質に生育し得ると雖其最も好適せるは充分なる吸收力及び適度の透水力を有し並に適當の深さを有し粘硬に偏せず輕虚に失せず用水の灌漑に便利なるを良しとす然るに土地にして若し此等の状態に適應せされは例令施肥培養

等に充分意を注ぐと雖も稻の成育完全ならずして從て善良の收穫を得る能はさるへし

而して早生稻は中生稻及び晩生稻に比すれば其成育期短くして早熟するを以て所謂肥へ切れ早きものなれば兩種よりは概して耕土深く土質の輕軟なる所を適良とす種類、從來吾邦に栽培する稻を以て二種とす一を粳(ウツチ)と云へ一を糯(モチ)と云ふ尤も此二種の外に灌水を要せず畑地に耕種する一種陸稻(オカボ)なるものあり粳は其色澤稍透明にして光澤あり、糯は白色にして不透明なり、又陸稻は光澤少なく胚稍扁平にして比較的大なり此もの由來水稻と同種に類するものなるやはた變種せしものなるや未だ其考究査定せるを聞かず而して又此等の種類に無芒有芒及び早中晩等の區別ありて各これに又種々の品名あり然れども其の名稱に就ては地方の異なるにより大差なきにあらずと雖も近來各地の農事試験場に於て實驗上其各品種中最も好成績を得たるものは都、白芽、大和、信州、名取山、萬作坊主、神力、荒木、養老、常陸錦、關取、巾着等となす其他高砂、信州、富國、雄町、白玉等も亦著明なるものなりと

す然れども氣候風土の異なるに従へ適不適あるを以てあなからちこれをして一定すへきに非らず故に能く其の適不適を考査して其の最も適當なりと認むるものゝみを集め數年間これを實驗し能く其土に適合せるものを選びて培養するを肝要となす
 其他種類を列記するときには實に夥しくして一々これを枚舉するに違あらざるへし又參考として左に第四回内國勸業博覽會の出品中米質稍佳良にして其賞格に富りたるものゝみを掲記すへし

東京府	立川早種	田毎	小錦	大島
玉川錦	八幡	近江	伊勢早種	源藏
東錦	高砂	日本一	武井	豊吉
京都府	榮吾	白玉	撰穂	精玉
神力	萬作	大粒	大佛	天狗
末廣				
志村				

國玉	吉祥	都穂	宮錦穂	春日穂
管一本	都	虎尾	チヨエツ	檜山
東京	雄町	日本司	器量能	衣川
八ッ倉	政岡	撰出穂	白米穂	石白
白菊	豊岡	滋賀穂		
大阪府				
千石穂	大福穂	白玉	天神穂	高砂穂
溜穂	檜山	三羽穂	大和穂	世直シ
今津穂	清吉穂	八ッ倉	仲吉穂	三度穂
天美穂	伊勢穂	福粒穂	河内錦	眞力
天下一	筑前穂	小判穂	糯撰早種	義仲
上牧穂	金屋穂	西川原穂	江州穂	森川穂
神力	有馬穂	石川穂	六石穂	諭出

萬作	攝津穗	穗增	河內有馬	名取坊主
兵庫縣	古城	萬作	伊勢錦	荒神穗
雄町	三田穗	大黑	白玉	福助
奈良穗	改良政岡	山田穗	大谷	藍那
神力	大福	二重穗	都穗	天狗穗
房吉	溜穗	明治穗	伊勢錦	改良美穗
成田	信州金子	珍子	二本三	巾着
新潟縣	毛石田	穗白	大和白	信州早種
關取	能登	高宮	大左衛門	島穗
鳥本	越前			
金玉				
京大黒				
長崎縣				

白玉	生田房	國富	穗增	都
白糯	萬作坊主	大福壽	神力	
埼玉縣	白目	千本	大和	關取
八重成	吉川	早近江	撰一	細近江
荒木	瑞穗	埼玉錦	柿ノ木	棟上
近江荒木				
近江				
群馬縣				
關取	大和錦	長柄	日本	西國坊主
島坊主	千葉	常陸錦	吉川	千葉錦
高砂	埼玉丸	東荒木	讚岐	神葉
錦	玉光	雲州	島田	仙臺
吾妻	鶴田	房州中種	白餅	撰出

荒木	小川	茨城縣	大和錦	勸業	千葉錦	朽木縣	石白	鳥取	二疋鼠	愛知縣	根多良	撰出
腹殼	鎌足		鞘被	東錦	能登		新世帶	改良錦			甲方	三國
國富			常陸錦	種遠			白巖	姬錦			富國	味美
二本三			玉錦	豐年			目覽	都賀錦			稻川撰出	眼黑和尚
玉村			關取	三德			芳賀錦	荒木			丈成	大野

改良神力	日出	靜岡縣	神方	奈良縣	萬作穗	長州	一二三	天狗	忍坂穗	天一坊	和泉穗	博覽穗
關取	丸龜		翻		十宗穗	八幡穗	長樂寺	大穗	高砂	白玉	白玉穗	萬田穗
安城白			倒十		譽至穗	生駒穗	中畑穗	大和穗	丹生	岡山天狗穗	大佛	芋長穗
大和錦					國寶穗	大和錦	豐年穗	武井穗	加茂	玉好穗	稻妻	塚穗
白玉					山田穗	中好穗	伊勢錦	大寶	春日穗	治道穗	富國	獨枚穗

石塚	瀧井	八陳	都錦	天神穗
印度穗	白藤	大州穗	三羽穗	明治穗
八幣	都穗			
三重縣				
三國一	長者	大黒	關取	彌八穗
君川	直六根	祝	一本	伊勢錦
世界一	永福			
山梨縣				
荒木	伊勢大黒	甲斐錦	加智大黒	甲斐賜
山梨大黒	甲斐島	祇園	二穗掛	關取
高砂	京大黒			
滋賀縣				
白木本	岡田	浮嚴院	長門物	坂田善光

白玉撰出	薄皮	富永善光寺	淡海錦	能登物
富錦	小錦	政岡	豊前	腹白
名坂	澤山	新萬石	山中	岡山
栗鳳物	福祿壽	平松	都錦	金勝物
岡崎	日出	富錦	萬作	關取
白玉	身代起シ	長光寺	左近	土佐
ヒナツ	豊錦	肥後	天狗	大和錦
風不知	大野	伊勢錦	日月	角助
滋賀錦	大和物	出島	富永	俵物
春田	借金返シ	東京物	小鬚	長等
金吾	兩毛	シヤクデン	八幡	安岡
絹川	加田肥後	新善光寺	玉頭	小毛
大神山	先代撰子	沙汰無	國寶	傳生

長野縣	美濃錦	關取	萬福	石州	岐阜縣	撰寺	善光寺	豊臣	歩ミ戻リ	撰出	秀郷	大黒
		千石	須原坊主	日本一		萬足	神錦	小野	敦盛	山科	安垣	高山
		萬作	竹林	島坊主		大和	大物	奈良物	喜光	白木野	瑞穂	新萬作
		伊勢錦	尾張坊主	松薩		雄町	丹波	大關	巖	玉錦	新角座	大葉
		大關	白玉	日本			大島	戸野	日ノ光	重兵衛	谷川	玉鬚

壽老稻	三太	岩手縣	加賀姫	千葉錦	金光穗	福島縣	境坊	國益	宮城縣	田子穰	櫛田	信濃
	白		都種	耶摩錦	信州金子		涌谷	半坊主		日本	細穰	江州坊主
	立子			岩瀬錦	直三		國豊	豊後		毛強	木曾關秀	縞均子
	倉塞			白	高瀬魁		伊勢白	此州坊主			奥州	白玉
	鉈切			金生	赤芒		源六	ネレズ			弘法	珍子

青森縣

七 霜

秋田坊主

赤 沼

仙臺坊主

天 保

坊主白鬚

白 桂

金 助

カ 七

狐 一

ヤヨウガ

大 黒

金光寺

大丈白

甲熟金子

山形縣

肥 後

栢 岡

信州金子

大丈白

甲熟金子

秋田縣

由利ノ關

木境山

白 川

武藏野

尾 張

四海渡

勘九郎

白河内

寶 玉

稻 妻

杉 澤

白 鷺

久 保

大 垣

白

細 葉

街 道

豐 稔

大 垣

白

石川縣

大 嶋

巾 着

大 葉

石 白

大 豊年

福井縣

吉 平

反 故

金 茶

石 白

美 濃

今長者

加 賀

石原錦

雄 町

白 玉

砂 見

薄 皮

毛前澤

鍋 島

郡 益

富山縣

關 取

手 筋

毛早高

西 京

白 毛

石 白

成瀬見出

毛早高

西 京

白 毛

國 富

南保白

毛早高

西 京

白 毛

鳥取縣

福 山

玉 郡

温 澤

改 福

玉 結

島根縣

奈良原

坂 田

神 福

白 玉

新 四國

錦

眞 森

境 切

大 和

郡 益

川品	大社	新撰	豐國	天狗
岡山縣	雄町	亞垂	肥後	福山
房吉	都勝	美保	荒倉	
日吉	白玉	力助	白山	
壽		八反	白玉	
廣島縣		山代	柳玉	
穗積	日本一	三藏	成儀	
備前坊	鬚	弘法		
都	拾ヒ穗			
小町穗	白藤			
穗長	白玉撰			
和歌山縣				
大黒	高砂	九俵坊	瑞穗	白玉

山城	上田	白	稻荷	房吉
山口縣	清玉	白	撰豐穗	榮吾
白玉	振國	九上	白藤	砂鉢
新玉	三藏	新筑摩	二柱	
名取坊主	四國	山代		
神鈴				
德島縣				
撰金	白藤	阿波錦	德島	四國
一本撰出	兵庫神力	都	穗增	
香川縣				
日本撰	土地撰	尾張撰	端穗撰	蛭子
撰出	大黒	目利	小神力	房撰
伊豫撰	改良	白玉	神力	阿波

神谷撰	雄町	榮吾	神力	三寶
愛媛縣	稻荷	山城	赤早種	板
山中	宇和島	山城	赤早種	板
籾早稻	隈撰			
高知縣				
玉子干本	白穗	白中	小白坊主	大路
白坊主	二意	川場早種		
福岡縣				
原坊主	三國	小町	森田	小富士
白一本	今長者	大和	肥後坊主	勸業坊主
神力	若宮	萬作坊主	八ッ倉	白玉
御成所坊主	富國	豊前坊主	長者坊主	

熊本縣	國玉	滿願寺	穂増	白竹
白玉				
白藤	神力	京都早種	三徳	大坂早種
御前坊主				
大分縣	難波早種			
神力	白玉	今富	金井種	大坂早種
白鳥	ムラ	戦争坊主	白撰種	
佐賀縣				
日本	八ッ倉	奥州坊主	米ノ山	豊年坊
白玉				
宮城縣				
萬石	白玉	三徳	江戸稻	天品
神力	肥後坊主			

鹿兒島縣

神力	關取	國玉	石割	白藤
金德	白玉	新堀	八ッ倉	穗増
大坂早種	金華山	京都坊主	小關	

撰種 種子は肥瘠中庸なる稻田に於て完全に發育したるものを第一としてこれを撰ふには比重撰種法即鹽水撰種によるを尤も利ありとす其鹽と水との割合は左の如し
 水稻粳米比重一、一〇乃至一、一三（水一斗に付食鹽三升乃至四升苦鹽汁を用ゆるときは水を等分に混合使用す）

陸稻及水稻糯米比重一、〇八乃至一、一〇（水一斗に付食鹽二升乃至三升苦鹽汁を用ゆるときは苦鹽六升に水四分を用ゆる）

在來法により撰別したる種子は凡そ其三割は充實不十分即胚不健全或は營養分に乏しきものありて播種後發芽せざるものあり例令發芽するも苗幼の生育宜しからず或は針苗になるものあり故に在來法の撰種なれば一反歩に用ゆる種子量も従つて多きを要すれども比重撰種なれば一反歩二升乃至四升あれば十分なり現に茨城縣に於て

は一反歩平均八升八合を費すを以て是を悉く比重撰種し四升宛を要するとせば四升八合宛は殘量ノコリとなるなり田作付反別八萬六千町歩にして一反歩四升八合つゝ殘量を存せば其總額四萬千二百八十石なり之を五分摺ズリとすれば其玄米二萬六百四十石其代金二十萬六千四百圓（石十圓替と假定し）の巨量に達するのみならず撰種したる種子のみを以て苗を作り栽培したる各府縣農事試驗場の成績を案するに在來法に比して一反歩の玄米一斗乃至三斗の增收を見る今其平均一斗五升つゝの增收するとせば十二萬九千石代金百二十九萬圓の巨額に達すへきなり故に撰種を行ひたるの利益合計百四十九萬六千四百圓の富を増殖するの理なり

浸種 粳種は之れを苗代に播下するに先ちて豫め水中に浸すと常とす而してこれをなすには粳を一斗位宛俵に容れて緩く束オビし然る後河若しくは池に投し或は桶中に水を盛り之れに粳を浸して屢々水を交換するなり元來浸種の目的とするは只發芽を迅速齊一ならしめんとするにあるを以て其浸種の日數は敢て永きを要せず大凡そ十

日内外にして充分足りず其余も長きに渡るときは例令比重撰種をなしたる種子にては其種子中の營養成分漸次水に浸出して終に悪變するものなり故に浸種に就ては約一週間以外にして其種子の已に水を吸収し二割四分に達したるときを計り之を揚げ能く水を切りて播下するをよしとす然るに在來の浸種は其日數多きに過くるのみならず水より揚げたるの後之を苞の儘太陽に熱し或は蓆の如きものを覆へて温熱を與へ殆んど三四分に發芽せしものを播くを例とす然るに此の方法たるや獨り播種に際し其芽を損し易きのみならず播下するに頗る不便にして且つ發生後苗の生育完全ならずして又馬鹿苗に變するもの多きものなり故に農家たるものは力めて此等の不利は改良すべきを要す

今左に浸種するに注意すべき事項の要点を示すへし

- 一 日光の直射を受けしめざること
- 二 水は常に新陳代謝トリユネ 冷温の變化なきこと
- 三 浸種日數中一度は上下轉覆せしむること

四 種俵は可成細くして狭少なるを要し余り強く括らざること

五 浸種の場所は塵埃等の混入すを患なく且つ清淨にして汚濁腐敗なき水を選ぶと

六 槽中に浸漬せしときは度々に交換すること

肥料 稻田の肥料には人糞尿、堆肥、綠肥、過磷酸、魚肥、油粕、酒滓等何れの肥料を問はず養分の酌台に宜しきを得ればこれを施與することを得へしと雖分解の遅緩なる肥料は之を用ゆるも其効少きものなり故に其配合に就ては目下農家の一般に着目するところなれども各地其風土氣候又は耕種、土質等により一概に之を律すべからざれば今左に各農事試験場に於ける稻作肥料の標準を抄録し以て其摸範となすへし但し苗代の肥料に就ては第六編第四節を参照すへし

(一) 反歩宛の割合

農事試験本場(在東西ヶ原)

本田

大豆粕	十七貫六百六十匁
過磷酸石灰	六貫八十匁

藁灰

畿内支場(在大坂)

堆肥	七貫八百四十匁
真粉粕	二十貫匁
堆肥	五十貫匁

東奥支場(在宮城)
 厩肥 二百貫匁
 人糞 百二十貫匁
 過磷酸石灰 六貫匁
 北陸支場(在石川)
 人糞尿 一百六十貫匁
 骨粉 七貫五百匁
 山陽支場(在廣島)
 堆肥 百五十貫匁
 人糞 七十貫匁
 過磷酸石灰 五貫匁
 油粕 十貫匁
 四國支場(在徳島)
 人糞尿 六石
 大豆粕 七貫匁
 過磷酸石灰 五貫匁
 九州支場(在熊本)

菜種油粕 十六貫匁
 過磷酸石灰 七貫匁
 堆肥 二百二十四貫匁
 東海支場(在愛知)
 人糞尿 一石八斗
 大豆粕 十四貫五百匁
 糞灰 十貫匁
 過磷酸石灰 五貫匁
 陸羽支場(在秋田)
 厩肥 二百五十貫匁
 人糞尿 三十貫匁
 鯧^メ粕 三貫匁
 過磷酸石灰 四貫匁
 山陰支場(在島根)
 大豆粕 二十六貫匁
 磷酸肥 三貫匁
 糞 堆積消廢熱せしめたるもの 四十八貫匁

收穫及び其後の取扱 穂稈の黄變したるときに刈り取り之を稻架に掛け秋に至り後熟作用を營ましむるを要す其日數は一週間位晴天に晒らすなり亦稻は從來農家の説によるに晩刈^{チツカリ}を以て尤も收量ありとすれども是は大なる間違なり今参考として西ヶ原試験場に於て此事に付て行ひたる成績を左に示さん

	二十九年	三十年	三十一年	三ヶ年平均
早刈 籾の黄變したるとき	一、九七九	一、一七四	二、一三三	一、七五九
中刈 穂首の黄變したるとき	二、二二九	一、三四五	二、三〇八	一、九六一
晩刈 稈の黄變したるとき	二、〇九八	一、一七二	一、六四七	一、六三九

前表によれば早中晩種共に中刈即穂首の黄變したるときに刈り取りたるもの其收量尤も多きを知ることを得へし況んや品質の晩刈に於けるものより遙に優れるに於てわや後熟作用を遂けしめたるときは之を稻架より取り稻扱^{イテコ}にて扱き落し籾糞共によく乾燥せしむ糞は乾燥を終はれば牛馬の敷糞となるものなるを以て之を倉の二階に積み

置き使用すへし粃は食指と中指にて挟み力を極めて揉み皮の離れるを度として乾燥の十分なるを知る而るときは粃摺臼に掛けて摺り唐箕若箕を以て調製を丁寧にし赤青碎米其他砂秕の混入せざる様なすへきなり粃殻に稻作の副産物の一として貴重すへきものなれば之を貯藏し時々人糞尿等を注加するときには陸稻の下種後之を以て覆ふときは其發芽を整一にならしめ且つ肥料となるものなり

附稻田の養鯉

稻田の鯉を養ふは一舉にして兩得なるに似たれども稻作を主として充分の收實を望まば稻田は稻田とし鯉池は鯉池とし各適宜の管理に従ふこそよけれ然れども稻田によりては之に鯉を放つも必しも稻の害にもならずして果して一得兩擧の洪益を收むるを得へからされはしや群馬、長野等の諸地方にては從來此法を行ふものありしか近來鯉を放つも稻田に害なく收利亦た多しと稱へて漸く流行するに至れり群馬地方に行はるゝの法を尋ねて其の概要を擧ぐれば先づ五月頃に鯉兒を購入して水田の一侧に養ひ置き插秧を終れば即ち其間に放つを常とし間々又此際に稍や生長せる鯉兒

を購ひ求めて直に苗間に放つもあり却説水田の一方には深き堀を穿ち置きて鯉兒の隠處となし害敵を此處に避くるの用に資するを要し放養間は日々怠らず餌食エシキを給與し管理を等閑にせざるへし餌食に最も良好なるは蠶蛹にして群馬地方は有名なる製糸の盛なる處なれども近來養鯉者の多きを加へたるを隣縣なる長野へも輸出するに至りたるか故價格頗る騰貴し養鯉の業も稍や收利を減するの傾ありと云ふかくて年の九月に稻田の水を排し去る頃には鯉兒は長して八寸乃至一尺に達するか故に是に於て直に賣却するものあり又た之を他の池に移し保護し置きて翌年に重ねて稲田に放ちて更に長大ならしむるもあり抑も鯉魚は土壤を搔擾するの性ありて幾分か除草の効をもなし害蟲の類は好むて之を採食し其糞は肥料となる是れ鯉魚の却て稻田に益ある所以なりと云ふ

附言 本節に掲ぐるもの只撰種及び浸種、肥料、收穫等に過すして其最も必須なる播種、移植、苗代、手入等の事項を省略したるは即ち此等の要項は既に第六編苗代に於て詳細論述したるを以て其重複に渉るか故なり故に讀者は宜しく本節に

就ては第六編により参照すへし

第二 陸 稻

陸稻は主として人食に供し其需用水稻に異ならず、然るに其耕種の方法水稻に比し頗る簡易にして且つ培養上の勞費少なく然のみならず地味の肥瘠を撰はす能く山丘の高燥地にも發育し低濕にして往々冠水の害を受くる所に於ても稔熟し得へきを以て水田少く水米の秋收完からざる地方にありては最も將來有望の作物と稱すへし然れども之れを水稻に比較するときは概して其收量少く品質、糞料ともに劣惡にして風味も從て劣れるか故に從來之れか培養を試みるもの甚だ稀れなりこれ畢竟未だ該作物の性質及びこれか栽培法に熟達せしもの寡きに依るなるへし故に當業者たるものは今後益々これか栽培に意を注ぎ其改善の法を講せざるへからず

種類 種類甚だ少からされども世上最も好評を博し收量米質ともに他種類に優れるものを擧ぐれば久藏、翁、雀不知、凱旋、白鬚、早不知、六知梗、ダソゴ、ライラシ、ヤカン、シノブ糯、清國、勸業穂、博覽會等の數種とす

適地 陸稻は灌水を要せずして畑地に栽培せらるゝ作物なれども其性乾燥を嫌ふか故に濕潤に過ぐる地若しくは雨量多き年には多收あり故に畑作を培養するには卑濕に過き又水田となすには灌水の便なき場所等に於て殊に利ありとす

又往々乾燥せる輕鬆土に栽培することあるも動もすれば風旱の害を被り易きものなり

整地 陸稻を栽培すへき土地は可成前年度に於て深耕し且つ多量の塵芥及び荊草、厩肥等を鋤き込み勉めて地質を膨軟ならしむへし而して其整地に際しては畑地を三本鍬にて耕起し土塊を潰碎し平坦に均すへし又麥類、油菜等の間作として栽培する場合には畦肩を耕起細碎し足形を設へし其畦巾は大抵二尺を通例とす

播種 播種するには水稻の如くこれに先ちて豫め催種及び浸種を行ふを要す即ち水一斗に對し鹽凡を一貫目を溶解したるものにて攪み俵に入れ二三日間便宜水中に浸入し後三四時間水を滴下して播種の用に供す其の期節は地方の異なるに從て概言す

る能はずと雖も大抵五月上旬より中旬頃迄を好期となす又其の耨種の割合は一反歩に付早生種は九升晩生種は四升五合位を適度としこれを播くには畑の一端に平鋤にて淺く條を切り肥料を施し其上に種子を播下し細碎土を四五分被へ足にて堅く踏付くへし若し其覆土の濕氣に失するか若しくは強粘土なるときは軽く踏つくるを宜しとす

耕耘 稻の生長して五六寸に伸たるときは除草して株の左右より深く培ひ若し瘠地にして成長充分ならされは此の際追肥を施して培ふへし除草は尙出穂前に於て一二回行ふを可とす

肥料 肥料は土地の肥瘠如何によりて大に注意すべきことなり地味肥沃の處にては無肥料にて培養するを好しとす山上の瘠土若しくは粗砂地の如き瘠地に在つては播種の際其一分を施し中耕の際他の一部を用ゆへし其肥料の種類は人糞尿又は糞灰等の如き分解迅速の肥料を撰むへく又其溶解稍々遅緩なる種粕、魚肥等の如き肥料を與ふるときは反て分葉常なく後も穂秕穂を産すること多し施用量は普通の地味にて

人糞尿二石より二石五斗内外を宜しとす其の施用量餘りに多きに過くるは却て少なきに劣れるものなり

收納 粒實悉く成熟するときは頗る強硬となり稈葉黒變するか故に晴天を窺へ刈取り圃上に擴けて能く之を乾燥せしむへし

但し之れを收納する手續は敢て水稻に異なるなきも其刈株は容易に腐敗し難きを以て可成土際より刈採るを要す

第三 大 麥

麥は本邦重要作物中稻に次きて貴重なるものにして如何なる地と雖も全國到る處廣く耕作せられ従て其需用最も多く且つ營養の効他作物に勝り人類の食料としては一日も欠く可らざるものなり

種類 大麥の種類を細別するときは頗る夥しくして一々枚擧するに遑あらず然れども其中近來各地に於て最も好評を博せらるゝ品質の佳良なるものは白麥、三徳、信州、谷風、穂揃、白弘法、五畝四石、青備前、白備前、インペリアン、アープ(以上

二種外國種)等なり元來大麥は其穗に附着する條數によりて種類を大別す即ち二條麥、四條麥、六條麥これなり更らに之れを有皮と裸皮とに分ち又芒に長芒、短芒、無芒等の別あり即ち以上に示したる數種は六條麥にして又二條麥に於て著明なるものはメーレン、シバリュート、ゴールドンメロン(以上外國種)四麥には獨逸春蒔(外國種)御前、奴、太政官等なり又裸麥に在つては大粒裸、赤裸、長州裸、金川、豊年借金切、田代坊主等とす此裸種は概ね九州地方より中國地方の暖地に多く耕作せらるれども其收納に於て有皮種よりは稍劣れるの感あり然れども精白するに當り容易なるか如し

適地 大麥は何れの土質に於ても大抵之れを栽培することを得へしと雖就中排水良好にして水濕停滯の患れなき石灰質の壤土若しくは輕髮温暖なる砂質壤土等に適應す

撰種 麥類も粗種と同じく充分に成熟したる重き種子のみを撰んで播けは收量多く品質も優りたるものを生産し得るの利あるか故に單に唐箕撰に止めずして成るべく鹽水若しくは苦鹽汁を以て精撰し其中に沈みたるもののみを播種用に供することを要す大麥の撰種には水一斗に鹽四升位を溶解したるもの即ち比重一、二三位の鹽水(又は苦鹽汁に水を加へて稀薄となしたるもの)を以て適度となして可なり但し裸麥は最強は鹽水にても撰種し難きを以て比重一、二二位の苦鹽汁を以て之に供するの要ありとす

播種量及び播種季 播種の適季及び其種子量に就ては其處及年の氣候、施肥の多少地味の肥瘠、播種の方法及び種類等に従ひて幾分か異動ありと雖も大抵左表に準して不可なかるへし

季 節	播 種 量
早播十月廿日前後	三升五合一三升
中播十月下旬	三升五合一四升
晚播十一月初旬、中旬	五升内外

整地 大麥は其鬚根を側方に滋蔓するの性質を有するものなれば殊に深耕を要せさ

れども可成土塊を粉碎膨軟ならむを良しとす即ち之を行ふには前作の跡地を能く
鋤き起して大氣に曝らし後耙耨を以て細碎するにあり就中強粘土にありては反覆丁
寧になすを要す又馬耕法は大に利あるものなればこれを以て七八寸の深さに耕起す
るを便とす其畦巾は普通二尺内外を良しとすれども地卑濕に過き排水不良なる處に
ありては畦を高く築き稍廣くするを可とす

播種法 麥作には條播(畦播)と點播(株播)との別あるか關東に多き臺地の野土(第
四紀古層の壤土)の如き輕軟なる土地にありては點播の方幾分か條播に優れるか如
しと雖も其他の土質に於ては矢張り條播の便利なるに如かざるへし

又麥種を肥料の上に播くと肥料に混入して之を施すとの別あるか是れは何れの法に
從ふも敢て收穫上差違を來さざるか如し故に播種と施肥とを各別に行ふ二重の手數
を省くに如かざるへし

肥料 肥料は各地土壤の如何及其他の情況により一定す可らざるを以て左の如く範
圍を廣くしたり

三要素の割合左の如し

窒 素 磷 酸 加 里

大麥 一、〇〇〇—三、〇〇〇 一、〇〇〇—三、〇〇〇 一、〇〇〇—三、〇〇〇

小麥 一、〇〇〇—三、〇〇〇 一、〇〇〇—三、〇〇〇 一、〇〇〇—三、〇〇〇

又農事試験場に於て普通栽培に用ゐる肥料量を示せば左の如し

肥料名

一反歩常用量

堆肥

二〇〇

人糞尿

一〇〇

藁灰

五

過磷酸石灰

六

大豆粕

一〇

管理一斑 下種後二寸位に伸長したるとき一番中耕をなし同時に一同踏壓をなし尙
寒前に一回踏壓すへし其後春季に至り二三回中耕をなし踏み方は輕鬆なる土壤程其

回数を増すを良とす從來中耕を穂孕出穂後になすの傾きあれども是は宜からず必ず其以前に於て中耕をなし了するを要す春彼岸の頃より四月にかけて除草を一回なすへし

收穫及び調製 從來本縣下にありては晚刈をなすのみならず刈取後畑地に於て雨濕に逢はしむるの弊あるを以て従つて品質優良の麥を得ること能はず故に種梗黃熟したるときは莖葉尙青色を呈すとも直に刈取晴天三四日間に乾し後熟作用を遂げしめ而る後麥扱きにて穂を扱き落し亦二日間位席に擲けて乾し建枷を以て打落すへし火を以て麥を焼き落すか如きか廢すへし而して唐箕にかけて調製を丁寧にするは米に同じ

第四 小麥

小麥も又重要作物中貴重なるものにして其需用最も多く大麥に亞きて廣く農家の栽培する處なり

種類 此作物も又大麥と同じく其種類頗る夥し今これを大別するときには赤種、白種

の二種となす

又これを形狀より別つに芒の有無、絨毛の長短、穂の色澤等に因て種々の名稱を附す其中著明なるものを擧ぐれば赤白、達摩、坊主白、皮白、早生等の數種となす然れども現今人の好て栽培するものは大概外國種にしてトウスタラー、オレゴンベールベ、ットチャフブ、カリフォルニア、モルト、小麥等これなり之れ畢竟外國種は在來種よりも品質佳良にして本邦の土質に適應するか故なり然れども只憾むらくは其生熟期稍遅緩なるか故に幾分か後作物に影響を及ぼすの欠點あり

適地 小麥の適地と稱するは稍濕潤なる埴質壤土及び耕層充分深き沃土を最良とす然れども其品質の善良にして風味の佳美なるものを獲んと欲せば輕鬆なる砂質土に耕作すへし然しなから其收量に於ては前者より少きの感あるへし

栽培 元來小麥は硬土を好むの性質を有し且つ其根は側方に滋蔓するよりは寧ろ深く地中に進入するか故に整地際しては第一深耕するを肝要とす然るときは敢て大麥に於けるか如く殊更精細に耕鋤細碎するを要せざるへし

而して畦を立て終らは墾て鹽水により精撰したる種子を一反歩に付三四升内外の度を計り播下すへし(但し大粒の種子及び古き種子)惡劣の種子等は小粒のものより多量に用ひ又小麥は大麥よりも其量重きか故に鹽水の度を強くすること等を注意すへし又畦巾も大麥に異ならされども總して作物に於ける畦は排水不自由にして濕氣の多き地には稍高く築くを要するものなり其他發生後の手入は前種大麥と大差なかるへし

收納 黃熟の期節は大麥より後るか故に大抵梅雨ニウバイに際し諸般の不利を蒙るへし若し雨濕の害に罹りたる時は充分佳良の生育を遂けたるものと雖も非常に其品質を惡劣ならしむるか故に青熟にして未だ黃熟に至らざるも霖雨ナケヅメの模様ある時は此の患を避けて收納する方其利益し前者より多きものなり

第五 粟

粟は亞細亞西部の産物にして何れの頃より本邦に傳はりたるものなるか未だ詳かならず元來此作物は土地の肥瘠を厭はず氣候の寒暖を問はず性質頗る強壯なるを以て

何れの地と雖も良く之を栽培することを得殊に其培養極めて容易なるか故に多量の肥料を要せずして能く生育し能く繁茂するものなり凡そ農家の目的たるは勤勞少くして收納の多量ならんことを望むにあり實に此望みに適合するは恐らくは粟に如くもの稀れなるへし加之粟は貯藏の久しきに堪ゆること稗に次くを以て凶荒の豫備に供して實に最良なるものなり

種類 粟に粳糯の別ありこれ恰も稻に於ける粳糯あるか如し又其變種には秋粟と夏粟との二種あり而して早中晩の別ありて之に黄色なると赤白色なるとあり又これに種々の品名ありて其數頗る夥しきものなり今其中最著明なるものを擧ぐれば白玉、嶋原、玉の井、中早生、鎌倉、穗長、笹粟、白河、糯粟、風不知、孔雀、武州、市助、地車等の各種となす

今左に昨年著者か右數種に付試作せし成績の大要を記して以て讀者の參考に供すへし

(但し一畝歩宛)

種類	播種期	收穫期	收量
鎌倉粳	七月五日	十月十七日	二斗五升一合
地車全	全日	全日	二斗五升九合
玉の井全	全日	十六日	二斗七升三合
風不知全	全日	九日	二斗三升八合
白玉全	全日	十八日	二斗二升二合
孔雀糯全	全日	九日	二斗六升
狐穗全	全日	十三日	二斗二升六合
歳州糯	七月六日	十八日	二斗一合

適地 粟は淺根植物にして寒冷濕潤なる氣候に好適せざるも能く乾燥なる氣候に堪ゆるを以て表土淺しと雖も其栽培宜しきを得は收穫あるへし中嶺山野を新に開墾したる有機物に富める土地或は温暖にして地味深き膨軟なる土壤等なれば多量の結果を得へし晩近しきりに北海道及び奥州地方に於て盛んにこれを栽培し相應り收納あり

るは蓋し強性にして他作物の如く深く其の氣候風土を特撰せざる所なり
栽培 粟も又他の穀類の如く能く整地するを要す播種するには凡そ二尺位の畦を作も四月より五月頃に掛け下種すへし又其の早晚種の選擇に於ては地味氣候等の異なるにより自ら差異なきにあらすと雖も要するに早生は皮薄く結實多く晩生は皮厚、從て結實少し故にこれを栽培するには總して早生種を以て利ありとす
種子は一反歩に付約四合より五六合を以て普通となす土を被ふには能く土塊を細碎し足又は犁背にて軽く壓するをよしとすそれより發芽後大凡十四五日を経て耕耘間引して苗の濃薄なきように注意すへし又この者麥類の收穫後直ちに下種するときには循環耕作の利にかなへ二毛作を得るの利あるへし
四國地方に於ては多くこの法を行ふもの多しと云ふ
收納 粟は播種後大抵七十五日より百日位にして成熟し穂摘採後は直ちにこれを席の上に擴げ能く陽乾し連軸にて脱穀せしめ調製すへし元來粟は一圃内と雖も黄熟の期を遅へ一齊に收穫し能はさることあるを以て稈色の黄變したるものより漸次數日

に跨り採收するを良とす但し之れを採取するには鎌を以て根元より刈り取り然る後穂を適切するものと又其立てるまゝ直ちに^{ぐわ}穀を以て穂首より切り取るものとありこれは何れの方法を採るも其時の便宜によるへし

第六 黍(キビ)

黍にも稻粟等に於けるか如く粳、糯の二種あり粳をウルキビ(稷)と稱す此物は重に炊きて飯となして食し又糯黍は多く餅團子となして食ふよく俗間にて日本一の黍團子杯と稱へ其美味を賞するは即ちこれなり其撰擇、適地、栽培法等は夏粟と又異なることなきか故に總て之れに準して行ふへし

第七 稗(ヒエ)

(稗はオカヒエ又ノヒエ) 稗はミツヒエ又ヒエ)

稗は穀類中の最劣等なるものと卑まれ稗、稗ともに自然に野生しこれか栽培に従事するもの殆んど稀れなり加之ならず或地方に於ては雜草と共に取扱はれ其蔓延を妨ぐに至る云ふ嗚呼此の有益なる作物にしてかく世人に度外視せらる實に嘆かはし

と云ふへし然るに稗は助種粟の如く例年幾年を經るも害蟲腐敗等の虞なく凶荒の豫備として貯藏するには粟に比し殊に勝れるを見る故に今後農家に於ては益々これか栽培を奨励して其耕作を普及せんことを計るべきなり

適地 元來稗の性たるや生産迅速にして能く旱天、雨濕を忍び其收穫の頗る夥しきものなり且つ水陸共に容易に生熟するものなれば其適地の如きは他の作物の如く深く其旱濕を問ふ處にあらす故に山間若しくは低地にして到底他作物に適せざる所又は湖田、沼澤等の如き寒冷に過き若しくは卑濕に失する土師等に於ては宜しくこれを栽培し以て凶荒の豫備に貯へ或は家畜の飼料に施さば實に一舉兩得と云ふへし栽培 稗は前述せし如く極めて強健の作物なるか故其の培養の如きは故て充分の手数を要せざるも陸にあつては麥類に準し水にあつては稻作にならへて管理すへし此もの米麥の如く必要の穀物にあらざるを以て古來より専ら意を注ぎて栽培せしもの少しと雖も其効用に於ては以上の如き特効あるものなれば直ちにこれを劣等の作物として閑却せず漸次之か改良の途を講すべきなりさすれば其良種を出すことあな

ち難きにあらざるへし殊に其葉程は牧草に代用し頗る有益なるものなれば斯業の次第に進歩するに伴へ充分利益ある作物となるにいたらん

收納 收穫は稻粟等と又差なきものなれば適宜に黄變せしを見立て、苜採るへし

第八 蜀黍(モロコシ)

モロコシは高黍又は唐黍ともいひ其莖葉は恰もトウモロコシに似たれとも其子實は穗狀をなして幹の頂端に結ぶ此子實は重に白に搗きて外皮を除き之を挽き粉として餅に製し又は家鶏に與へ其伸寒晒し粉となして賣買す又其穗は売を去りて帚を造るに用ゆ

元此補物は支那より傳來したるものにして吾邦に古來より存在したるものにあらざる云ふ

種類 モロコシにも稻、粟、黍等に於けるか如く粳と糯との二種別ありこれに又早生と晩生及び色澤に於て黄色、紅色、黒色等の數種あり又其丈けにも非常に高きものと短きものとあり短きものは稍三四尺内外なるも其最も長生のものに至りては殆んど

一丈三四尺に達するものありこの者良種を擇ひ栽培宜しきを待は、種にて殆んど一合餘の多收を見ることを得へし

適地 此作物は水旱に遇ふも其害を被ること極めて稀れなるを以て普通の土地なれば大抵成育せざることなし殊に南直せる乾燥地若しくは肥沃なる壤土等に於ては最好生育を遂ぐ其他豆菽類の跡地又は開墾地等に栽培して多收あるものなり又畑の周縁に栽ゆるも宜しきものなり

栽培 先づ蜀黍を栽培するには苗床を作り二月下旬に垂りこれに播種し發芽後六七寸に成長せし頃木圃に凡そ二尺内外の畦を築き一尺より一尺四五寸迄の距離に移植するなり尤も此法は多く耕作する場合に於ては容易ならざるか故に畦を作ることにも直ちにこれに適宜の距離を保ち三四粒宛点播するを良しとす然して後土を被へ足にて踏みつけ置くときは大凡十二三日にて發生すへし苗已に二三寸に伸長すれば猶豫なく耕耘し且つ密生に過ぐる處を間引し其中強健のものを二三本宛を残存し其後も屢々雜草を除き中耕を行へ液肥等を施與すへし

又此者時として風の爲めに害せらるることあるか故に成熟の期節に近寄れば四五本乃至五六本宛を一所に結ね倒伏又は屈折を豫防するを要す
收納 成熟すれば恰も稻の如く故下垂し葉又黄變するか故にこれを見立て、刈採るへし

第九 玉蜀黍(トウモロコシ)

玉蜀黍は南蠻黍、高麗黍又は唐黍と稱し地質を嫌はず如何なる土地にも適しよく諸國に生し收穫の頗る夥しきものなり此子實は碎きて人畜の食用に供し又は酒精澱粉等の原料に用ゐらる然るに本邦にては只其半熟なるものは間食に供するにと、まり未だ専らこれを栽培するに至らざるか如しこれ實に農業上嘆息に堪へざる次第なり
種類 玉蜀黍は其種類極めて多く殊に變質甚しきものなるにより毎年新變種を生ずるを以て一々これを區別すること頗る難きことなり然れども高千穂、肥後、日向、甲州、小丁稚等の種類は其最良種なるものにして世人の夙に賞用する處なり就中甲州の如きは本邦第一 杯と稱す然れども收穫品質共に外國種に比し遙に劣れるの觀あり

故にこれを栽培するには外國種を撰ぶに如す就中「アンモ、ヌエート」「ブラツクス、ターチ」「ホワイトフリンツ」「アーリーエートロート」等は洋種中最著明なるものにして獨り收穫の多きのみならず風味も從て佳美なり

適地 玉蜀黍は卑濕地及び重粘土を忌むの外大抵の土質にはよく生育す就中其好適地と稱するに排水良好なる肥沃地又は表土深き壤土等とす又砂質を混しよく眞土にもよく佳良の生育をなすか如し要するに此作物は丈け頗る高く成長し從て其根毛を四方に張り地中に深く蔓延するか故に可成表土の深き地を撰ひて耕作するを肝要となす

又開墾地は多量の養分を富有するを以て殊更に施肥するを要せずと雖も久しく種々の栽培に疲れたる土地は其養分に欠乏せるを以て専ら廐肥の如き温漫性肥料を供給するを要す

栽培 玉蜀黍を栽培するには通例四月中旬頃より中旬頃迄に麥畑の中蒔として株間一尺五六寸乃至二尺の距離に四寸許の穴を穿ち原肥には落葉を廐舎にて牛馬に踏せ

し者或は普通の堆肥へ米糠、木灰及重過磷酸等を人糞尿にて練り交せし者を右の穴へ一掴宛置き其上へ精良種子三四粒を播下し細土を薄く掛け尚其上へ鳥害豫防の爲め藁等を以て薄く覆ひ置く時は十二三日にして發芽す而して發芽後三四寸に伸長せし時強苗一二本宛を残して間引し同時に除草を行ひ麥刈取後直に中耕除草を行ひ亦二尺位に伸長せし時第二回の中耕除草を行へ且中耕の都度稀薄人尿を施すへし
 收穫 凡そ八月中旬頃に至れば一本の株へ二房乃至三房位の實を結び後卅日位を経過すれば皮毛枯れ充分實のるを以て追々畑より收穫し皮を剥き日光に乾燥して其後臼へ入れ搗きて精粒となすものなり收穫量は大房六房乃至七八房にて一升充分なるか故一段歩にて連年精粒三石を降らす而して右の精粒を石臼にて挽き篩にて篩ひ細粉となして團子亦是糯米を少量混して搗き餅に製し食するを第一の良法とす

第十 慧苡(ハトムギ)

慧苡には朝鮮麥又は唐麥、四國麥杯の種々の方言あり其朝鮮麥、唐麥等と稱するは蓋し海外より舶來したるによつて名付けたるものにして又四國麥とは重に四國地方に

於て栽培し又は一反歩四石の收量ありと云ふ意義に於て名付けたるものなり

此者は頗る滋養分に富み人食に供する外傍ら藥用に用ゐらるゝを以て近年所々に之を培養するものあるに至れり敵形状態は恰も麥類に似程は麻に似花は白くして稻花に類似せり其丈け大凡四五尺に生長して數條の支枝コエダを出す其子實は重に粉と爲して菓子に製し又飯に混和して粥となし或は團子となし其他種々の調理に供して可なり且つ久しく貯藏に堪ゆるを以て凶荒の豫備に好適し又家畜の飼料に與へて益あり曾て農科大學に於て其子實を分析したる結果によると其蛋白質に富む到底他の穀類中にはこれに及ぶものなきか如し
 今左に之を掲げて参考に資せん

成分	新撰物百分中	乾燥物百分中
水	一一、〇九	
蛋白質	一七、五七	一九、九八
脂	五、八〇	六、六〇

可溶水酸化炭素

六二、三八

七〇、九六

澱粉

五四、五四

六三、〇五

内
デキストリン

一、七三

一、九六

糖類

三、九八

四、五二

未詳物

二、一三

二、一三

纖維質

〇、八二

〇、九八

灰

一、三〇

一、四八

合計

一〇〇、〇〇

一〇〇、〇〇

種類 ハトムキにて地方により種々の品名を附せるか如しと雖もこれを區別して三として鐵種となす
即ち一は淡褐色にして外皮深く種腎狭長く一は濃褐色にして外皮すこふる堅固に穂を以ても容易く打ち碎くること能はさるものと又他の一は圓大にして外皮又堅く重に陰濕地に適生するものこれなり

適地 此作物は土地の寒濕を問はず地質の肥瘠を論せずよく如何なる土地にも生長するものなり殊に霜、雨、旱魃ヒツリに遇ふも其害を受くる極めて少きか故に山谷の低地、丘の絶巔、海岸、樹蔭等の如き他の作物を栽培するも到底普通の收量得せる土地に於て耕作するを最も得策とす

栽培 これを栽培するには先づ整地ナラシを丁寧になし普通二尺幅の畦を設け其距離大凡一尺内外宛を置きて二三粒宛を点播し土を碎細して掩へ置くへし
而して幼芽凡そ二三寸に伸長すれば其梢を摘み取りて支枝を簇生せしむへし

又肥料耕耘等は取て小麦に異ならざるか異に總て之れに準して行ふをよしとす最も其生熟小麦より稍速にして磷酸分を用ゆること多きか故に之をも用するを要す
又播種期は四國若しくは中國邊の暖地にては普通三月頃を適期とすれども茨城縣地方にては四月中旬乃至下旬頃をよしとすへし

收納 子實完熟するときは少しく黒色を帯ひて正に地上に落下するもの、如く見ゆるか故に其期を脱せず採收すへし其收量は一反歩に付最高五六石に及ぶことあれど

も通常三石より四石なりとす

若し適期を過ぐるときは大に收穫に影響を及ぼすを以てよく注意し此の好期を逸せざるを要す

而して採收後は悉く乾燥 稈と實とを分離せしめ 數日間陽乾し後臼に入れて搗穀すへし

第十一 燕麥 (オー、麥)

燕麥は稿實ともに畜類の食用に供せられ最も効なるものなり殊に種實は粗粉となし調理して人食に供へ其風味極めて佳美なり

然れども本邦にては北海道を除くの外未だ専ら栽培するもの殆んど稀なり

適地 元來此作物は寒冷の地を好み暖地には余り適せず然れども土質は敢て撰ばず能く瘠地と雖も良收あり此を要するに水濕に適生するの性あるか故に高燥にして輕鬆なる土質よりは重粘土を好むとす

然れども雨天澇の年に於ては却て重粘土よりは寧ろ其輕鬆地を喜ぶか如し

栽培 整地栽培等敢て麥類の栽培に異ならざるを以て特に求めて記述するの必要なしと信す故にこれを略す

第十二 蕎麥

蕎麥は元と亞細亞中部の原産にして其需用頗る多し其丈は凡そ二三尺に達しこれに多くの莖枝を生ず莖の色は赤色又は紫色なり其葉は三角形をなすもの或は心臟形を成すものとありこれに白色又は赤白色等の花を開く其葉の生鮮なるものは肥料若しくは蒭草に供し種實は粉となしこれをこねて蕎麥を製し又は家禽の飼料等に用ゐらる

種類 植物家はこれを花及び葉によつて區別すれども普通農家には春蕎、夏蕎、秋蕎と稱し其の播種の期節によつて種類を分く然れども其種類にも形狀色澤等等しからずして種々あり即ち色に濃淡あり粒に大小等あり其家禽の飼料には褐色又は緑色なるものを良しとす故に此等の種類を用ゆる時は肥臘の力多しと云ふ又人食となすには小粒にして灰白色なるものを最良とす

十質 此作物は元來寒地を嫌ふか故に終始寒冷なる土地には佳良の生熟を遂げざるを常とす然れども發育迅速なるにより西比利亞及び我北海道地方の如き嚴寒なる國にありても相應の收穫あるものなり斯く此者は如何なる地質にも良く生熟すると雖も就中好適地と稱するは排水便利なる砂質壤土若しくは乾燥せる輕鬆地等とす又山野を新に開墾したる處に栽培して良果あり若しこれに反し之を最上地或は濕地に培養するときには莖葉のみ徒らに繁茂に過ぎ收穫却て少きものなり

栽培 これを栽培するには春季に至り畑を打返し土塊を碎き幅一尺七八寸の畦を作り八十八夜十日前後に播種すへし其種量は 反歩に付三四升内外を良とす肥料は一反歩に付腐熟廐肥九駄に人糞三荷と米糠五斗、草木灰三斗を等しく混交し兼て整地し置きたる畑地一面に撒布して後種子を下し又は同肥料と種子を混交し播くも良とす夫れより發芽後四五寸に及ぶ頃一回鐵耕を行ひ開花に至る頃向二回之を行ひ屢々除草をなすへし

收納 これを收穫するには花全く終りて黒粒となりし際刈取りて速に運搬し又日光にて乾燥する様三日程も束の儘直立し置きたるものを棒にて粒實を打落し篩にてふるいて莖を去り唐箕に掛て其粒實を全く乾燥して俵に入れ貯蔵すへし其收穫は一反歩に付三石乃至三石六七斗なり但し此者の成熟は下方より次第に末に及ぼすものにして過熟すれば種實脱落し易きか故に大半黒變したるときは猶豫なく刈取るを要す

第二節 荳菽類

第一 大豆

吾人か日々食ふ所の味噌、醬油、豆腐、納豆、菓子等皆之れに因て製せられ實に其用途の夥多なる事荳科植物中の冠たり就中之れより油を搾り其滓は牛馬の飼料に用ゐる或は肥料となす即ち輓近しきりに需用する大豆粕の如き皆之れなり
元來此作物は獨り栽培法他の作物に比し至概簡易なるのみならず從て肥料を要すること又少なく却て跡地をして肥沃に化せしむるか故に禾穀類の間作として極めて有益のものなり

種類 大豆には種類頗る多し就中品質佳良にして用途廣きものを選択し培養するを

要す其方今廣く栽培せらるゝ重なるものは赤莢、千成、久助、水潜、イタチ大豆、長五郎、イラヌ、鶏頭、錫枝、目白、旭等なり但し其色澤には綠色、褐色、黃白色、黑色、斑色、白色等の數色あり

適地 大豆は表土余り深からずして締りたる土質を好むものなれば可成適宜の濕氣を保てる埴質壤土又は壤質埴土を擇ふをよしとす但墟土若しくは輕鬆なる土質には良好の生育をなさざるものなり

栽培 大豆は前に述たる如く多量の肥料を要せず殊に栽培の手入甚た少きものなるを以て余り其培養懇到に失する時は只莖葉のみ繁茂して收穫に至り不完全なるものなり故に適地にありては只早生種は麥作の間に下種し晩生種は刈取後跡地を耕耘タガヤスして播くへし其下種の期節及び種子の用量は播種の早晚地味品種等の差によつて確定し難しと雖も余り晩きに失すべし不可なるへし其用量も概ね 反歩に付四升内外の割を以てせば大差なかるへし發芽後は直ちに耕鋤を行ひ雜草の發生を防ぎ夫れより大凡四周間を経て中耕をなすへし殊に注意すへきは開花の期なり此のものは大に早

天を忌むものなれば此期には根邊の土壤乾燥に失せざる様になさざる可からず

貯納 黃褐色を呈し葉悉く脱落せば猶豫なく拔取るへし若し好期を失する時は拔取し下部の莢實破れ豆粒の脱落する恐れあり但しこれを行ふには朝露の未だ乾かさる時を以て最も宜しとす

第二 小豆

種類 其種類少からずと雖も最も良く栽培せらるゝものは赤小豆なり之を通常小豆と云ふ之に尙ほ暗赤淡紅等の別あり又蟹眼小豆なるものあり之れ亦小豆の變性したるものにして子實長く蔓生なるを以て重に蟹眼豆と稱す外に綠豆と稱ふる種類あり此種は年内再度收穫するを以て別名二成とも名つけ或は八重成とも云ふ

小豆は以上の如く赤小豆、蟹眼豆、綠豆の三種に區別す又更に之を葉形、大、小、早晚、色澤等によりて細別す即ち柳葉、大粒、大納言等は其種類中の著しきものなり

用途は重に餡アズを製し或は飯に和し洗粉の原料等に供せらる

適地 適地は恰も大豆と同一にして大差なしと雖も殊に好める地質は溫暖にして適

當の水氣を保てる土壤なり此の者は元來溫暖を好む植物なるか故に寒冷にして濕潤に失するの地味は不可なるも地質壤土にありては佳良の生育をなすへし

栽培 凡て菽穀類は最好の適地へ耕作するも一種不明の理ありて年々舊地へ重作するを嫌ふものなれば成へく耕地を變換するをよしとすこれを栽培するには大小麥類又は油菜等の跡地を懇到に耕耘し一反歩に付二升五合位宛の種子量を以て下種すへし其栽培の法は大豆に大差なきが故にこれに準して行ふて可なり

收納 小豆は成熟にいたり大豆の如く齊一ならず殊に抜取るには容易に豆粒の脱落するの恐れあるか故に餘り不熟なるものは殘存し置き適宜に成熟せるものより漸次採收するをよしとす日收量は一反歩に付大抵一石位なり

第三 豌豆

種類 豌豆の種類は早、中、晚、莢の硬、莢、子實の形狀、色澤、皺縮等に由りて區別ありと雖も大別して紫花豌豆、白花豌豆の二種類とす紫花豌豆は蠶豆等の如く子熟のものを選び取りて綠肥又は畜類の飼料に用ゆる地方あれども主として實粒のみを食

料に供す又白花豌豆は莢柔かにして風味佳なるか故に莢實共に食用として賞用せらる俗に之をサトウマメと云ふ

適地 重作を忌むこと大豆小豆等と異なることなしと雖も殊に此作に於ては甚しきを見蓋し數年を経るに非らされは到底同地に於て生熟の完全を期すへからざるへし

これに適應せる土質は石灰質壤土若しくは輕鬆にして水濕適宜なる地味を最も宜しとす

栽培 豌豆の播種期は春蒔種にありては三月より四月頃迄を好期とし秋蒔種にありては九月より十一月頃迄もよしとす其畦巾及び距離は栽培の目的、土質、種類等により多少異なるも雖も大抵蔓生種にありては一尺五寸内外をよしとす矮生種にありては一尺二三寸をよしとす而して各々それに一尺位宛の距離を保ち一反歩三升前後の割合を以て下種すへし

又蔓生種にありては生長後其發育を自由ならしめ且つ倒折を助けんか爲めに樹枝又

は竹を交叉して支持纏繞せしむるを以て生長後は容易に中耕施肥等をなし能はさるか故に豫て整地を墾到にし又發芽後は直ちに丁寧に雜草を艾除し且へ耕耘を行ひ堆肥、木灰、人糞等を施し置くへし最も蕪生種、特生種を論せず栽培の目的子實を得んとするにあらば別に肥料及び土質等の撰擇を要せずと雖も莖葉を飼料に供し若しくは綠肥等に採收せんとせば可成沃饒の地味を選ひ且つ多量の窒素を含有する肥料を施すへし

收納 十一月頃下種せしものは翌年五六月に至り莢は大半黃褐色に變するか故に猶豫なく拔取り直ちに陽乾して收納すへし

第四 蠶豆(ソラマメ)

ソラマメは其實の完熟せるもの若しくは未熟なるものも熬り又は煮て食用となす又其幼稚なるものありて外莢とともに摘收して菜食に供するものなり其子實の大にして扁平なるものを俗稱オクク豆と云ふ
又莖葉は未熟のものを苜取りて綠肥に代用して頗る効あり

種類 蠶豆の種類極めて夥しと雖も現今専ら好評を得能く世人の栽培せるは大蠶豆金時、山城等の種類となす

又舶來種の中品質優等にして著明なるものはマゼゴン、ジョンストンスオングアフル、ウエドハオル、ロンアンピン等なり

土質 蠶豆は豌豆に比し稍寒氣に強く乾燥なる輕鬆よりは寧ろ粘重土を好む

栽培 これを栽培するには十一月頃丁寧に耕耘をなしこれに種子料凡そ一反歩に付八升乃至九升位の割にて方 尺二三寸宛の距離に二三粒の種子を播下し土を稍厚く掩へ置くへし

夫れより約二週間の後發芽するか故に二三寸に伸長するを計り懇切に第一回の耕耘をなし開花の頃心芽を摘除すへし但し摘心の際迄には能く雜草を艾除すると共に又兩三回の耕耘を施すを要す

收納 大抵六月中旬頃に成熟するものなれども能く完熟するを待つときは下部の莢破れて豆粒の脱落するの恐れあるか故に上部の莖葉は多少綠色なるも下部の莢皮黒

變するに至らば猶豫なく採收すへし其收穫は毎反大凡一石三四斗なり

第五 豇豆(サ、ゲ)

豇豆は一名大角豆と稱し重もに其實の半熟なるものを摘採して菜食に供す然れども能く成熟せるものによりては其効用小豆に類す

種類 には蔓生と矮生との別あり又これに金時サ、ゲ、綠豇豆、裙帶豇豆等の種類あり此他早生晩生等の差ありて品種の頗る夥しきものなり

栽培 これを栽培するには四月上旬頃より六月上旬にかけ凡そ一尺五六寸宛の距離に三四粒位の種を播下し後發するに至らば能く除草間引を行ひ又屢々施肥耕耘しそれより蔓生のものには竹又は樹枝の如きものを立て、これに纏繞させ其蔓延を補佐せしめ夏より秋季にわたり時々其成熟するものを採りて收穫す但し適宜に伸長せしころを窺へ其心芽を摘除するを要す

第六 菜豆(インゲン)

種類 菜豆は一名五月豆と稱し夏の初めより其幼莢を收めて種々の調理に供し最も

便利なる菜類なり此者の種類も又頗る多くこれに矮生、蔓生の二種あり其中最も著明なるものはホハイトワル、ホハイトクリウスバツク、ゴールデンクラスタ等なり此等は皆蔓生種にして粒實肥大に收穫に於ても頗る多きものなり

土質 菜豆は大に霜に弱きものなるか故に温暖なる處を擇ふを要す其最も適地と稱するは石灰質壤土若しくは稍や濕氣を含める沃土となすこれ等の土質を擇ひて耕作するときは收穫の多量なるのみならず品質の優等なるものを得へし

栽培 豌豆及豇豆等に比し敢て大差なきものなれば施肥培養等大方これに準して不可なかるへし

第七 刀豆(ナタマメ) 鵲豆(フヂマメ)

刀豆、鵲豆等の効用、栽培等も又前述したる數種の豆類と大同小異なるか故に大抵これ等によつて行ふて可なり

第八 落花生

種類 落花生は俗稱南京豆と云へ普通の荳菽類とは其性質を異にし莢を土中に結ぶ

此種に二種あり即ち一を小粒と稱し一を大粒と稱す而して此二種に又土質により適不適あり故に宜しく其土質に従ひ種類を撰擇するを要す種子は充分完實のものを能く乾燥して貯へ置き播種に先たち脱莢して下種すへし

土質 此作物を栽植するには高燥にして空氣の融通よく且つ日光充分に透射して温暖なる土地をよしとす土質の最も適地と稱するは輕鬆の砂質土を第一とし砂質壤土これにつく又小粒種にありては土質の如何を問はず大概の地にはよく成育す

栽培 小粒種は普通八十八夜前に於て播種す大粒種は小粒に比し稍晩生なるか故に少しく後るゝも妨げなしこれを播種するには可成深く耕起し土塊をよく打碎き約二尺七八寸巾の畦を作り株間一尺五寸乃至二尺位の距離に二三粒宛点下し稍厚く土を掩へ置くへし肥料は磷酸質を多含して有機物の少きを施すときは結實却て少きものなり

中耕は二回にて宜しとす一回は麥採收後直ちに行へ後一回は一ヶ月計りを経て行ふ他は只除草のみに足る而して此者は土中に質を結ぶものなるにより二度目の耕耘は

可成周邊の土を株際に寄せかけ其周圍を膨軟ならしむを肝要とす但野鼠の被害多き土地にありては温床にて發芽せしめ後植付くるを宜しとす又施肥は耕耘の際か若しくは下種の際株元に置くへし

收納 收納の期節は氣候又は土地の異なるにより又同しからすと雖も大抵十一月頃に至り莖葉既に枯燥して葉の七八分落下するか故に初め兩三株を試みに拔取り其完熟の如何を窺へ掘採るへしこれを掘るには萬能にて株の周圍^{マワリ}を打ちて膨軟ならしめ拔採るなり然して後莖葉の儘二三日間日光に曝し乾燥して調製すへし

第三節 蔬菜類

第一 蘿蔔(菜菔、大根)

大根は各蔬菜類中最も需用の多きものにして朝夕食膳の副食物としては一日もなかるへからざるものなり而して其根身は新鮮の儘煮て食し又は食鹽に入れて漬物とし或は切干となし其他各種の食用に供せらる其莖、葉も又幼軟の際煮食、醃^{ツケモノ}に使用せられ成熟すればこれを陽乾して人食若しくは畜類の飼料に供す

種類 大根の種類頗る多しこれを秋大根、夏大根、三月大根、二十日大根、時無大根等の五種に別つ又は等の内にも形状色澤等によりて種々の細別あり今左に其の各種類中從來各地に於て多く栽培する著明なる二三を示すへし。

櫻島大根、大隅國櫻島の名産なるを以て此名あり此種の中には早中晩の別あり其形早生中生は通常なれども晩生は極めて偉大なり其根は楕圓形にして短大なる紡錘状をなす又根の上部は淡綠色をなし肉質かなるも稍粗鬆なり

練馬大根、武蔵國練馬村の名産として世人の夙に好評する處なり此者の中其根尾の短きものを普通大根又はとまりと稱し又其長きものを長大根と云へ各根尾の形状によりて二種に分つ此内東京近在にて栽培する處のものは重に普通大根にして兩種何れも早熟なり

方領大根、此種は尾張海東郡方領村の産にして古來より有名の一種なり根の形状は尾端細小にして圓錐形をなし頭部大なり又根は雪白にして莖下稍綠色を呈す然れども又全く綠色を帯はさるものあり肉は柔軟にして頗る煮食に適す其大なるも

のに至りては長け二尺二三寸に達し周圍殆んど一尺六七寸に及ぶものなり

聖護院大根、此種は山城愛宕郡聖護院村の名産なりア此の種は尾張方領大根變性したるものなるか故に京都地方にては重にこれを稱して尾張大根と云ふ根は楕圓形にして頗る短大なり其の冠部は淡白色を帯ひ尖端餘り長からず肉質柔軟にして風味極めて佳なり

守口大根、此種は味噌漬又は粕漬等に適し煮食するには他の大根を以て勝れりとす其形状細長にして三尺以上に達し直径は僅一寸内外なり

宮重大根、此種は又尾張の名産にして根身長大にして頗る美味なるか故に煮食澤庵等に用ゆるに可なり

其他種類頗る夥たしと雖到底以上數種の右に出づるものなし又茨城縣にありては浮島大根(稻敷郡浮島村)青柳大根(水戸市在)等は根身稍長大にして肉質柔く風味の美なるを以て稱せらる

適地 大根は何れの地方にても能く良種を培養し得れども氣候の寒烈なる地方に於

ては生育不良なり其適地と稱するは排水良好にして有機物多く輕軟なる深土を第一とし砂質壤土又これに次く若しこれに反して粘重土若しくは低濕地に栽培するとき其風味の劣等なるのみならず收穫極めて不充分なるものなり

栽培 大根を栽培せんには豫め深耕して土塊を精碎し土壤を膨軟になすを要す整地終らば直ちにこれに畦溝を作り液肥を施し播種して土を掩ふ但し種子は固有の形状色澤を有する精色のものを撰ふべく種子惡劣なるときは生育澁滞して決して好結果あるものにあらず又肥料は能く腐熟せる厩肥、米糠、油粕等をよしとしこれに磷酸肥料、灰等を混用すれば殊に佳良の生育を遂く

既にして五六日を經發生し千葉を出せば直ちに間引を行へ一株二三本となすへし更に五六日を経て莖葉稍伸長するに至れば根部は地上に抽出して倒靡し又は屈折することあるか故に手にて一々根邊に土を寄せかけ後數日を経過して稀薄の人糞尿少許を施し中耕し又此の際即引きて一株二本位となすへし

而して下種後約三週間位を經て第二回の中耕及び補肥をなし又五週に至らば三回の

補肥中耕をなすへし其施肥の用量は六七倍の汚水に混和したる人糞尿一反歩に付一回は十荷二回は十五荷三回は二十荷を適度となす其他屢々汚水或は尿水等を施せば結果殊に良好なり

收穫 收穫は大抵十月上旬頃より下旬頃迄とす根充分に長大し葉猶青くして霜の始めて降りたる時節を最適の收納時期とす然れども櫻島の如き暖熱烈しき國に於ては翌年二月頃迄圃場に置くことを得

之を貯藏するには日當り好き乾燥の場所に少しく穴を穿ち之れに豪を敷き斜に並へ其上に又糞の如きものを掩へ更に土を盛りて以て貯藏するなり

第二 蕪菁(蕪、禾菁、加布良)

蕪菁は其形の愛すへきのみならず風味頗る恬くして煮食又は鹽漬として貴はる有名なる天玉蕪菁漬等これなり

昔神武天皇の御代には人頭を稱してカブと呼へり蓋し其形状恰も人頭に似たるを以てなり又持統天皇天下に勅を下して蕪菁を植ゑしめ五穀の助けとなさしむと云ふこ

と本邦の古史に傳はれりこれによつて見れば此蔬菜は極めて古くより栽培せられたるものなり

種類 蕪青は越年生食物にして其葉は恰も油菜に類似せり其形狀には圓くして大なるものあり或は長さ物あり又色澤には赤白黄色等あり從て其種類も極めて多く就中近江蕪青、日野蕪青、天皇寺蕪青、長薯青、珙蕪青、聖護院蕪青等は品質佳良にして收量多く和種の優等なるものとす其外近來各地に於て栽培せらるゝ洋種エキストラ、アーツレット、スウキートチャーマン等も各々有名の種類なり

土質 土質は大抵何れの土地にも栽培することを得然れども其最も好む處は肥沃にして膨軟なる沖積土にして又妙を混する土地にも適合す獨乙にては砂質地よりは寧ろ濕氣ある壤土に適すこれ蓋し獨乙は本邦に比較し雨量少を以てなり

栽培 栽培法は大根の方法に異ならされはこれに準して可なり然れども大根の整地に於けるか如く深耕するに及はす而して蕪青は多く覆土の厚きを嫌ふものなれば成るべく薄く掩ふを要す其播種期は八月下旬より九月上旬を通例とし十一月頃より十

二月に渡りて採改す畦巾は一尺七八寸より二尺五寸位を適度とし播種後の管理補肥等は總て大根に同じ只大根と耕耘毎に根土を盛り寄するものなれども蕪青はこれを嫌ふものなるか故に斯点に注意するを肝要となす但肥料も又大根の施肥に従ひて可なれども前作に多量の灰を施したくときは殊に佳良の生長をなす

第三 胡蘿蔔

種類 此作物は重に煮食するものにして其費消すること蕪青よりも多く其種類も又頗る多し此者獨り人食に供するのみならず家畜の飼養として最も滋養分に富むか故に歐米各國に於ては盛にこれを栽養す今本邦既に栽養する其著明なる種類を擧ぐれば金時胡蘿蔔、瀧の川胡蘿蔔、札幌胡蘿蔔、紫人參、白色人參等なり又洋種にありてはアールスカレットショートホーン、ルージュデミロング、インブルーブドラングラレンジ、大長人參等なり就中金時、札幌、瀧の川、アールスカレットショートホーン等は最好評を博せる種類なり左に其大略を示すへし

金時人參、此種は其名の如く頗る紅くして根身甚だ偉大なり

札幌人參、此種は根身肥大にして色赤色なり

瀧の川人參、此種も亦黄良にして根身長く殆んど三尺以上に及ぶ

紫人參、重に信州伊那郡地方に産す其色深紫色にして根身普通のものよりも稍長

し他の料理に副へて頗る美しきものなり

白色人參、此種は通常のものに比し風味頗る劣等オトレルなれども其珍奇メツクシキなるを以て賞用

せらの重に大坂府西成郡地方に於て産出す

アーリースカツレットシヨートホーン、此種は洋種中にて最も冠たるものにして

根身牛角形をなし色薄紅く肉質甚た柔軟なり

土質 胡蘿蔔は餘り寒暖を好悪せず大概北緯七十一度位迄は栽培することを得へし

其適地は稍濕潤なる砂質壤土若しくは少しく粘質なる土地にして若し心土か埴土若

は岩石にして表土か粘稠なるときは生長せず埴土淺薄にして排水の設備なきに於て

は其發育は到底望む可らざるなり抑も人參たるや形狀長紡錘形にして至根殆んど土

中に生育するものなれば深厚の土質を要するや當然にして充分其根身を生育せしめ

んと欲せば必ずかゝる土質を撰擇せざる可らず若し已むを得ざる場合に於ては人力

を以て深耕して土質を改善するを宜しとす

栽培 胡蘿蔔は前述の如く極めて深根植物なるか故に整地に際しては可成土壌を深

耕するを要す種子を播くには條播と條播とあれども雜草を除去するには條播を以て

勝れりとす其の種子の内國種と外國種とを問はず大抵五六月頃より八月下旬迄に下

種すへし其量は普通一反歩に付一升五六合とす(但し古き種子は發芽極めて悪しき

ものなれば可成新しきものを撰ふへし若し然らざれば其量を増すを宜しとす)而し

てこれを播種の六七日以前約二晝夜はかり水桶に浸し置き後これを取り出し莖又は板

の上に散布し種子の萌芽を促すへし天氣晴朗にして温暖なれば凡そ數日を以て萌動

の機發す若し發裂せんとする狀を呈するときは最早や播下に好適するものなるを以

て能く乾燥したる微細の砂を混淆して下種の用意を調ふへし其畦巾は本邦にては狹

きは一尺廣きは二尺一二寸なれども通例二尺以内を宜しとす撰種してより凡そ十一

二日を過ぎれば嫩芽發生するか故に漸次間引きて二三寸の株間となし爾後屢々雜草

を除去し且つ人糞尿の稀薄なるものを注ぐへし其耕耘手入等は葡萄若しくは蕪菁等に準して可なり

英國にては此元肥に海鳥糞を與へ甚た大効ありと云ふ

收納 早きは十月晚きは十一月に收穫すこれを採掘するには俗に人參堀棒と稱するものを根身に添へて土中に押入れ然る後手にて抜き取るなり又之れを貯ふるには乾燥の砂と混して蔽底の下又は三角堆をなし藁稈と土とを掩へ置くへし

第四 牛 蒡

牛蒡は由來古くより栽培し來りたるものにて本邦の蔬菜中有名なるものなり其根身は煮又は漬物として食し其風味頗る美なり殊に其子實は廣く藥品に供せられ種々の疾病又は痛疾等の鎮經劑に特効あり

種類 牛蒡の種類極めて多く従て品質善良にして味の佳なるものも少からず其中品質最優等にして廣く賞用せらるゝものは大浦牛蒡、梅田牛蒡、瀧の川牛蒡、大和牛蒡等なり今左にこれら數種の物を略説すへし

大浦牛蒡、下總大浦村の産にして最も古くより培養せらるる其形狀通常種と異なり

圓筒ならず概して不正形なり根身の最太なるものに至りて長さ三尺内外に達し周圍の一尺以上に及ぶものあり只惜むらくは内部に大なる空洞ありて肉薄しこれ其欠点なり

梅田牛蒡、此種は前種に比較すれば其形狀稍小なるも品位に至りては遙に勝れり

此者武州梅田村の産なり故にこの名あり

瀧の川牛蒡、此種は東京府下瀧の川の名産にして形狀は長圓錐形となし頗る美麗なり而して根身は大凡三四尺の長さに及ひ肉は充實にして品位頗る佳良なり

大和牛蒡、此種は大浦牛蒡に似て根身稍大なるものを生す重に京都近傍に於て培養す

栽培 牛蒡を栽培するには種子の新しきものを用ゆれば生育迅速なるも品質惡粗なるか故に可成古き種子を擇ひて播くをよしとす又圃場に於ても新圃は良質のものを産せざるか故に其耕地は更めすして年々連作するを可とすこれを播くには人參に於

けるか如く充分深耕して土塊を精碎し土地を膨軟ならしめ充分肥料を施すを要す此者春蒔けは冬に秋蒔けは翌年夏に採收するを得へし若し播種に際し甚しく乾燥すればこれに水を撒布して濕潤ならしむへし其他管理法は人參に準して可なり但し牛蒡は人參に比し稍重粘土を好む性あるを以て前種よりは懇到になすを要す又其種子量は一反歩の適量五六合とす

收納 播種後大凡二百二十三日を経れば充分に生長し其肉肥大なるか故に採收するに適す又採種するには其栽培せる處のものに付大中小形の良種を撰擇し後これに移植し八月頃に至りて採收するを良しとす

第五 瓜哇薯ジャガタイモ一名馬鈴薯

瓜哇薯は一名馬鈴薯と稱し亞米利加智利國の原産なり西洋の紀元千六百年の頃西班牙人の危險の航海をなし亞米利加に渡し歸路これを得て本國及び伊太利に移せり其後漸次歐洲諸國に傳播するに及び各國競ふて其栽培を奨励するに至れり元來本邦へ傳はりたるは十九世紀の初め外人ヒッピン群島より九州に傳へしを嚆矢とし今や

全國殆んど栽培せざるはなきにすれども其重なる用途は専ら畜ノ食料に供し又澱粉酒精等の原料に用ひ殊に洋式調理等に供するにあり

種類 瓜哇薯の種類頗る多し普通これを區別するには塊莖の形狀、色澤、肉色又は外皮の粗密等に依りて區別せらる然れども此者は其性質變し易くして年々多量の種變種を生ずるか故に一々これを數ふるときは殆んど數百に達 到底列舉に遑あらざらしむ就中現時廣く栽培せらるる薯則なるものゝみを舉ぐれば大方左の如し

- アーンソウロース アムモスピール テヤムピラン アービーユチー オフヘブ
- ロン ホワイトエレフアント スノーフォク ラレフラン ハントレットフォル
- ト ネムロ トンレン アカイモ

土質 瓜哇薯は氣候の寒暖に偉大なる關係を有せず本邦に於ては至る處栽培し能はざる處を見ず然れども其收量品質等は西南地方よりは東北部の方良好なるか如し故にこれによりてこれを見れば該作物は半熱帶植物と云はんよりは寧ろ温帶植物なりとす其最好適せる土質は輕軟なる砂交り壤土にしてこれに栽培するときは收穫多く

味ひ又良好なり若しこれに反して粘重の地に培養せは形状宜しからざるのみならず
 病患を發するの恐れあり強てこれ等の土質に耕作せんとするには樹木の小枝又は藁
 稈等を充分鋤き込み手入に意を用ゆるを要すすれば相應の收穫あるへし

栽培 これを栽培するには成るべく整地を丁寧になして土地を膨軟となし春なれば
 三月四月頃秋なれば八九月頃大凡二尺幅位の畦に作り株間七寸乃至一尺宛の距離に
 植ふ付けへし其植付法には直立法と横臥法との二種あれども横臥法に於ては蓋
 し此法によりた一方成蹟の優れるものならんか又肥料は他の作物の如く三要素を
 含有せるものを要す通常用ゆる肥料は人糞尿、堆肥、灰及磷酸肥料なりとす若し害虫
 の發生夥しき地方にてはグアノールを以て人糞尿に代用せは害虫を防ぐことを得へし
 中耕は土塊を能く打碎きて栽培すへし然れども強粘土にありては殊更に土を株際に
 寄せ掛くるは不可なり且幼莖二三寸に成長せる頃其中強健のもの二三本宛を残し他
 は除去するをよしとすすれば薯形大にして且止しと云ふ但此作物に肝要なるは排
 水にありとす若し水田裏作の場合には壤畦を可成高く築くを宜しとす

又種薯には毫も腐り目なき健全なものを撰ふべく余り大なるときはこれを切半し
 て其切口に灰を塗抹し桶ゆるも別して差支なきものなり

收納 收穫は地方により一定せされども概ね春作なれば六月下旬より七月にかけ秋
 作なれば十月下旬より十一月頃とすこれか微候は莖葉黄變したる時とすこれを採掘
 するにはホテトローブラウラを用ゆるをよしと云ふ然れども本邦にては藜を使用する
 に熟練なるによりこれを以てする方便なり而して採掘したるものは能く良否を撰
 ひ二三日陽乾し後土中若しくは土間の寒冷にして温熱の變化少き塲所に貯藏すへし

第六 芋

種類 夥多かりと雖も大別して畑芋及び田芋の二種別となす今畑芋の中優等なるも
 のを舉ぐれば

九面芋、此種は形状大ならずと雖も芋も數多く軟かにして其味佳美莖葉は長大に
 して淡紫赤色を帯ふ

唐の芋、形状長大にして肉充實す莖狀及び其色に至りては九面芋に大差なく味ひ

極めて佳なり

青芋、八つ頭より粗大にして青色を帯ひ其の根は大なり此類中莖の紫色なるものあり

白芋、此の種は莖を用ゆるものにして莖には小孔ありて蓮の如し皮を剥き干して食ひ又は生なるを揉み酢の物として食す

ズイキ芋、此種は専ら莖葉と共に食用とするものにして根部に存する芋は大ならず且つ味ひも美ならず莖状及び其色澤等は八つ頭と稍同し

土質 芋は何れの地を問はず山野大抵の所に培養し得へしと雖も元來熱体植物なるが故に極寒なる地方には生育不良なるへし肥沃にして稍湿润なる土質又は沖積土輕土砂等を可とす強粘土又は瘠薄地は發育悪しく收穫少なり然れども乾燥なる地より出つるものは品質佳良なり

栽培 四月下旬頃圃場をよく耕鋤し麥畦の間に淺く畦を作り豫て貯藏し置きたる種芋を掘り出し日に乾かし或は少しく發芽せしめるよし而して畦の巾は二尺乃至二尺

二三寸位にして株間は各一尺より一尺五寸を隔て可成多量の肥料を施し植ゑ付くへし五月下旬土寄をなし六月中旬麥刈を終りたる後再び肥料を施し耕鋤をなしそれより二三回同法を行ふへし蓮芋は同法によらずして屢々糞を施すへし

收穫 芋を採收するには先づ其の莖を採斷し然して後小芋に傷を附せざる様に注意して採掘し形狀餘り大ならざるものを選び翌年の種子の用に貯へ置くへし貯藏するには乾燥なる暖所に穴を穿ち濕氣に侵入せられざる様貯ふへし

第七 甘藷一名琉球諸俗稱薩摩藷

甘藷の原産は未だ明確ならずと雖も多分南米の原産ならんと云ふ本邦に渡りしは恰も慶長前の頃呆宗邊より琉球に傳はり漸次九州地方に蔓延せしものなり又一説には元祿の頃已に長崎邊に於て盛んに栽培せしと云ふものあり然る時は元祿以前より九州より傳はりたるものやも計り難し

種類 甘藷には種類甚だ多し之を區別するには根塊の長短、若しくは熟期の遲速、色澤等によりてこれを別つ今左に本邦種中に於ける重なる種類及び西洋種中の有名な

る者の大要を示すべし

白芋、此種は其收穫少きも肉質軟かにして且つ水分多く風味頗る佳なり

赤芋、此種は前種に反し繁殖容易にして收穫多量なるも筋及び鬚根多くして味ひ極めて劣等なり

四十日芋、此種は其色黄色にして白味を帯ひ形大ならずして外觀美しく且つ水分に富み頗る早生なり故に他の作物を植る時變の爲め收穫の望みなきに至り俄にこの芋を作るに適す且つ市上の販賣によろし

カスガ芋、此種は赤色にして外皮滑かに形狀頗る美なり且つ^{アツキ}味多くして生食すべし街頭煮て鬻ぐもの重にこの類なり

インロウビメント(外國種) この種は品質佳良にして且つ收穫多く貯藏するに適す多く北米の西部に於て栽培せらる

サマウザルンクキレ(外國種) 此種は南米より傳はりしものにして北米にて栽培する種類中最も早く收穫することを得る種類なり此根塊頗る大にして皮は白色なり

り蔓茂く葉又大にしてり色濃緑なり品質自好にして收量も又多し

其他琉球諸、三年諸 一名九州諸、屋久島諸、川越諸、高須諸、天竺諸、吉田諸、トソコ諸、三葉諸、コイトセ諸、大師諸、風計諸等も又著明なり

土質 地形は少しく南に傾きたる向陽の地にして烈風を受くること少なく總て雨水の停滯することなきを肝要とす

土質は^{セツツカ}輕軟なる砂質壤土を良しとし水濕多くして雜草の繁茂甚たしきところを不可とす尤も甘藷たるや瘠地と雖も能く生育するものなれば強て肥沃の地を要せざるべし

餘り肥沃に過くれは收穫較々多しと雖も味佳ならず且つ貯藏の際腐敗し易きの傾きあり

苗床 藷を苗床に播くの期はその年の氣候により多少の差ありと雖も先づ三月上旬より四月上旬までに向陽^{ヒムキ}暖^{アタ}和^カの地を擇ひ巾三四尺長さ若干尺に一播付の多少により定む一四圍に杭を立て繞すに藷を以てすその高さは前側を二尺二寸とし後側を二尺五寸となすを常とせりこれに廐肥を入るゝこと一尺位と足にて踏付け濁水と尿と

の混合液を注加して發熱を促す其上に腐壤を盛ること六寸更に少しく粗糠を散布し之れに種薯は横に伏せ(少しく斜にするもあり) 諸の三分の一乃至二分の一を埋め手にてよく周圍を壓し尙ほ葉を以て其上を覆ひ温度の激變を避け暖和なる日には午前八時頃より覆ひたる葉を去て陽光にあて午後三時頃より再び葉を覆ふ又た時々稀薄水尿を施すものとす既にして五月中旬に至れば芽五六寸にも至る斯くて苗床より苗を採るには搔採法切採法の兩法あり

搔採法とは芽の五六寸に伸ひたるを伺ひ之れを搔きとりて本圃に植付くるの法にして芽は數回搔きとることを出るも一回以後のものは植付後の生育良しからすと云ふ但し此法によりて植付けんときは一段歩につき十貫目の種薯の一坪半の苗床を要するものなり

又切採法とは芽の三四尺に伸ひたる頃之れを切りとり各々七八寸の長さに切り揃へ之れを本圃に植付くるものなり但し此法の前法に比し少數の種薯にて足れりさて此二種の採苗法を比較せんに搔採法は生育佳にして早く收穫するを得へし切採

法は稍や生育不良にして收穫晚し只た此法の利とするところは少數の種薯を用ひて多數の苗を得るにあり之れを要するに自家用の甘藷を得んことには切採法によるを良とすへく若し市上へ搬出して高價に賣捌んとするものなれば早生を要とするか故搔採法によるを便とすへき歟

栽培 本圃は便宜麥の畦間を其儘に利用することあれども普通は一度耕鋤して畦幅を二尺乃至二尺五寸となすものなり之れに苗を植付けんには株間を八寸とし可成的淺く植ゆへし深きに失すれば諸を生すること少く且つ收穫の際堀取りに不便なりと云ふ又た或る地方にては苗を横に臥し植ゆれば圓形の諸を生し縦に植ゆれば長形の諸を生すと稱ふ

甘藷はもご生育甚た容易なるものなれば多量に貴重なる金肥を施すことなし只た畦間に條を附し時々屎尿及び灰の混合液を施すのみ若し夫れ早生を要し良好の收穫を得んには本圃を排して畦を作るの際灰六十貫目油粕二斗を一反歩に與へ置くを佳とす

植付後は毎朝之れに灌水すへし但し其内に一度降雨ありたるときは灌水の要なし既に蔓莖萎りに繁茂するときは却て収量を減するの憂あるかゆへ之れを防ぐには數回蔓莖を行ふを良とす除草は一二回にて可なり此他別に手入を要せず

收納 甘藷の收穫期は種類及び地方によりて差異なきにあらざる雖も其内早きものは七月頃より少しづつ掘り取ることを得然れども概ね初霜を期とし掘採るへし而して之を貯ふるには良く最良を除き無傷のものを撰ひて晴天の時暫時日に照らし丘の下又は北方に森林ある處に適宜の穴を穿ちこれに厚く麥稈の如きものを被ひ貯藏すへし但濕氣の少き處を擇ふを要す

第八 薯蕷(ヤマイモ、ナカイモ)

薯蕷は吾邦各地の山野に自生するもの尠からずして古來よりこれを食用に供するもの多く故に之を殊處に培養せずして自然生のもののみを掘り取りて食用となす處ありこれをヤマイモ又はジネンジヨウと稱ふやこれを圃に栽培せしものを長芋と云ふ何れも其根を深く土中に生長し長きは殆んど四五尺に達す此者煮て食ふことあれど

も重に牛鮮の儘摩りて食用となすにありこれをトロ、と稱し風味極めて美なり又この者地上には蔓を生し極めて長く蔓延し其葉液に小塊球を生すこれ即ちやかて熟して種子となるべきものにして餘零子と稱し煮食するときは甚珍らしきものなり

栽培 薯蕷を栽培するには土層最も深き輕鬆の地を宜しとす而して種薯の植付は五月上旬ころ芽出し前筋蒔大小麥の兩側に距離凡一尺許に五六寸位の穴を掘り山間等の流れ込み若しくは河砂の極細砂を取り(この細砂は薯蕷栽培の秘傳の如き大切のものなり)ける五六合宛其穴に入れ種薯の新芽の下向にして植る薄く細砂を覆ふへし

大麥或は小麥の成熟せば刈取り直に肥料施用の準備すへきなり刈取期に至れば薯蕷凡一尺位に長したるころにして蔓をよけ麥株を去り其後を少しく掘り人糞の濃き者を多量(肥料は一度に數回分を施すも亦秘傳なり)に施し刈草等の類を覆ひ置き其後の培養は雜草を除去するのみなるへし但し蔓稍生長せば竹又は樹枝の如きものを交互してこれに纏繞せしむるを要す

收納 採收は其年又は二年目の秋より春にかけ堀接るへし以上の培養法により其年の十一月下旬頃堀取れば充分肥大のものを得へし又種薯は雨水の入らざる地即ち檐ノキ下等の乾きたる處へ其の入るへきたけの空を堀り細砂と混合し貯蔵せは腐敗することなし云ふ

佛掌薯(ツクネイモ) 薯蕷の中に佛掌薯と稱するものあり此もの一名ニギリ芋と稱し其形恰も掌を握りたるか如し故に此名あり其栽培需用等薯蕷に異なることなし但其根塊は深く地中に入らざるを以て前種に於けるか如く殊に深耕せざるも可なり

第九 菊芋

菊芋は南米の原産にして本邦には文久年間外人の横濱に傳へしを以て嚙矢ハシメとすそれより漸次各地に傳播せしものなり然れども未だ全くこれを栽培するもの其尠く從て其栽培法を知るもの又極めて稀なり此芋は何れ葵の一種にして又宿根に葵とも云ふ丈け六尺余に上る葉は尖長にして厚く綠色毛茸あり葉塊恰も芋の如く其花はよく菊に似て黃色なり菊芋の名は蓋しこれによつて附しやるものと見ゆ

其味美良と稱す、能はずと雖も一種の風味ありて肉類と共に煮て食すれば又可ならざるにあらず其調理法は烹焼し又生の儘薄く直截して酢にひたし又は蒸蒸して食ふ概言すれば瓜哇薯と薩摩薯との中間の味なりと云ふも可なり

十質 此作物は氣候、土性を好悪するこま少く大抵の土地には佳良の生育をなす然れども其最も好む土質は空氣及び地味の濕潤に過ぎたる處とす故に馬鈴薯の如きものを培養し能はざる瘠地に栽培するを良策とす

若しこれを肥沃の地へ植ゆるときは却て收穫の少きのみならず味ひも又劣るものなり

栽培 これを栽培するには大概三四月頃二尺五六寸内外の畦を作り之れに二尺又は一尺二三寸の距離に種芋を植付け少量の畜糞又は堆肥と燐肥少許を施し厚く土を掩ふへし夫れより發芽の後追肥として一二回稀薄なる人糞尿を注ぎ株邊の土壌を盛り上くへしさすればよく六尺餘の長さに至り黄色の花を開くへし但し種芋は如何程小なるも決して不可なきものなり然れども馬鈴薯の種薯に於けるか如く切斷したるも

のは不可なるか故に用ゆへからず

收納 此芋は根塊の成熟極めて遅きものなれば莖葉のよく枯死したる後採收すへし又其莖は八月頃刈り採り小片に刻みて畜類の飼料に供し又は乾燥して各間の食料となすに適す

第十 葱

葱は其味旨く一種の香氣を帯ひ日常の副食物として最も需用多く近頃肉食の盛なるに伴へ食膳上欠く可らざるものとなれり就中都會の地にありて之れを需用するところ最も多し

而して在來の本邦種は外國種の葱頭(タマネギ)とは全く其性質を異にし球根を結はず其他の根部は長となりて土中陽光に觸れざる部分は白色柔軟ヤフカとなるこれを培養するには莖を目的とするにあり最も中には根を目的とする處ありと雖も先づ一般には葉を軟白ならしめ食膳に供するにあり

種類 葱の種類も又尠からず現今日本葱にて廣く栽培せらるゝ顯著なるものを舉ぐ

れは千住葱、夏葱、下仁田葱、岩槻葱等なり其他外國種にありてはラーシレットクロ
ープ、エーローデブデブレーズニール等皆有名なり

土質 日本葱は大抵の土地には生育せざると云ふことなし然れども粘重土に於ては其生育良好ならず故に其土質は可成輕鬆にして膏腴なる處を探ふへし又有機物に富みて砂壤土も可なりとす但し此者は舊地に重作するを嫌ふか故に必らず毎年耕地を變換するを肝要とす

苗床 葱苗の仕立方は寒中豫め苗床を撰み土地を精碎し二三回液肥を施し春彼岸過ぎ之に一畝歩四五合の割合を以て種子を條播し薄く土を覆ひ其上に糞殻を撒布すへし發芽して一寸五分位に至りしとき除草引をなし稀糞を注ぐへし八月下旬頃に至りて本圃に移植す是春蒔にして冬季より翌年春季に涉り採收し得るものなり秋蒔は九月下旬頃種子を床に蒔き翌年三月ころに至り本圃に移植し冬季より冬季に採收する者なり寒地にありては厚く糞殻を撒布し蒔又は蒔を以て覆をなし寒氣及び霜害を妨くへし

栽培 これを栽培するには最初土地に再三打起し、畝間の距離を二尺五寸乃至三尺とし深さ一尺位の溝を穿ち此溝中に六七寸の距離に四五本の苗を一株として直立に之を植ゑ其根のみに深く土を覆へ移糞を注ぎ尚ほ少量の磷酸肥料を施すへし一細末骨粉を妙とす一成長するに従ひ時々耘耨培土し二三回前記の肥料を施し覆土は漸次根邊に高く盛り上ぐし、斯くするときには莖身の軟白せる良品を採へし

種子採收 葱は翌年春頃に至り開花し六月頃には種子を結ぶと雖も重に此目的に向つて苗を木圃に移植する際其中に就て形狀整正發育の良好なるものを探ひて他の圃地に二三寸の距離に一本宛栽植し懇篤に肥培し置くときは最も良好なる種子を得へし採收したる種子に一年を経過するときには發芽力を失ふに至るを以て新鮮なる種子に非されは播種すへからざるなり

葱頭(タマネギ) 玉葱は西洋にて甚だ尊重する處の根菜にして其菜花は吾邦の隣に類似すとも全く其性質を異にして土中に頗る大なる球根を生しこれのみを食するものなり

其種類に二種あり一は白色にして一は帶色(赤、黄)なり前者は大抵八月頃播種すれども後者は二月下旬より三月上旬の間に於て播種すこれを栽培するには一尺五寸乃至二尺巾の畦を立て株間六七寸の距離に植ゆへし然れども餘り深植すへからず又播種後は約二回斗り人糞を施し然して後土を被ふよりは寧ろ其覆土を取り除く位にすへし其收穫は春蒔種にありては其年の秋に收むへし秋蒔種にありては翌年春夏の際に採收すへし但し其栽培上注意すへきは此者本邦の葱に比し土質を好悪するの性あるか故に乾燥にして堅き地を擇ふことこれなり若し輕鬆の土地に培養するときには品質の惡劣なるのみならず永く貯蔵に堪へざるものなり

第十一 百合^{ユリ}

百合は大抵花を愛賞するにとまり食用に供するの目的を以て培養するもの未だ稀れなり而して其種類少からされども食品に用ゆへきものは卷丹(ヲニユリ)及び山丹(ヒメユリ)の二種となす卷丹は山丹よりも形狀稍大なり又觀賞花百合即ち近來しきりに外國に輸出せらるゝものは葉液に鱗球なく其鱗片を以て繁殖するものなり

栽培 これを栽培せんと欲せば先づ葉液に生ずる珠芽の充分成熟したものを摘取り適宜の床を作りそれに腐壤を盛り其上に播下し冬季は葉の如きものを適宜に掩へて寒氣豫防の手段を施し置くときは翌年春季に及び嫩芽の發生するか故に其成育を計り床場を耕し二三回油粕の粉末を與ふるときは一ヶ年にして大凡鶏卵大に成長するものあり但し種子には根の小形なるもの若しくは根の鱗片又は食用の爲め鱗片を剥き採りたる心を用ゆるも可なり

移植 これを本圃に定植するには秋季に至り能く土地を耕鋤しこれを油粕、堆肥の類を施して幅凡そ二尺五寸内外の壟を設け八寸乃至一尺の距離に一年生の鱗根を栽植すへし已に本圃に移植したるときは即ち二年目に至れば夏季開花するものなれども其花を開かしむるときは根塊の肥大となること遅緩なるか故に豫しめ莖の心を摘斷するを可とす而して其鱗塊を採收するには秋季に至り其莖葉の枯槁したるとき堀取りて最大なるものは販賣して可なれども其後尙一年間圃地に移植して培養するを宜しとす

第十二 ラツキヤウ

ラツキヤウは長卵形の根^タ根を食するものにして一種の臭氣及び辛味を有す然れども酢藏^{スツケ}又は酢藏^{カスツケ}となすときは久しく貯ふことを得且つ特種の風味を生し食膳の副食物として極めて良好のものなり又煮食するも頗る佳味あり又これを酢漬け鹽漬けになすに其酢鹽等を要することの尠きは他に比を見ざる所なり

故に其費消頗る夥しく就中漁業地等に於て最も歡迎せらるるものなり

土質 此の作物は大概の土質には栽培することを得るを以て果樹園又は桑圃等の間作となすも相當の收量あるものなり然れども其最適地とするは輕鬆なる沖積土となす

栽培 栽培するには八月中旬頃より九月上旬頃迄に一尺七八寸幅の畦を作りこれに凡そ株間四五寸位の距離に球徑二三箇宛を植ゆ其種球餘り肥大なるものを用ゆる時は同し、大形の球根を産すること多けれども收量多からず又小なるものを用ゆる時は球根少にして隨て收穫少し故に種子用には力めて大小適宜形状整正のものを擇ぶ

を要す

已に栽植をなしたる後は二三回の中耕、補肥、除草等をなし置けは良好の發育をなすへし

收納 收穫は五六月より七月上旬頃迄の間にして最好適せるは葉端に黄色を呈したる時なりとす又此者は年々楠るつくへきものにして種用のものは採掘後其葉を束ねて軒下の如き處につるし置くへし

第十三 蒜(ニンニク)

蒜は吾國にては其需用未だ多からされども外國にては多く栽培し種々の料理に供せらる此者根には一種の球根を生し小球より成りて一球をなす而して其味甘辛にして頗る絶性の臭氣を有するを以て一般に食するには適せざるも他の惡臭ある魚鳥獸類の肉類に添へ煮食するときは其臭氣消散して風味の頗る佳良なるものなり獨り然のみならず肉類の臭氣をも能く消滅せしむるの力あり

此植物は元來非常に強健のものなるか故によく大抵の處には佳良の發育を遂ぐるも

のなり故に畑の邊隅又は樹蔭垣根の周圍屋後等に培養し置くを得策とす

栽培 これを作るには殊更に床を設け百合に於けるか如くなすを要せずと雖も其種子は等しく葉に生ずる球塊又は根塊を分解して其小球を植ゆるものにして其畦巾距離等は略は前者に準して設け秋季に栽植すべくして而してそれより發生後は二三回の水肥を與へ又中耕を行ふへしさすれば充分成育し能く球根を結ぶものなり
收納 稍枯葉を出すに至るのころ其球根を取りよく乾燥して貯ふへし
又其葉部を食せずとするには未だ球根タマゴの成育せざる時より採收を初むへし

第十四 薑(セウガ)

薑は辛味の最も上品なるものにして根塊を種々の調理に用ゐる又多く海外に輸出せらる故に冬季これを温床等にて速成栽培若しくは萌を造りて市場に上すときは頗る利益あり且つ乾燥したるものは粉末となし砂糖に混し茶菓とし又は藥劑等に供せる即乾薑これなり

適地 薑は肥沃にして砂交りの濕氣少き陰地を最宜とす陰地なれば夏に炎熱に堪ゆ

るを以て甘品質の良好なるものを得へし

栽培 これを作るには四月下旬畑をよく耕し充分肥料をすきこみ幅一尺五六寸の畦を立て畦株間の距離凡そ三寸乃至四寸位に植ゑ、芽後數回肥料を與へ又耕耘を行ふ其肥料には重に堆肥の如きものをよしとす

又此者は土地の乾燥するを忌むものなるか故に其畦間には常に藁稈又は落葉等を撒布して適宜の濕氣を保たしむへし

收納 收穫は七月下旬頃より採掘して市中に上すと雖其好期は九月下旬頃葉下稍黄色を帯ひたるころ掘取るをよしとすこれを貯藏するには溫暖なる乾燥地に穴を穿ち藁の中に貯ふへし

又溫暖なる處にありては立てるまゝ圃場に置くも敢て妨げなし

第十五 蓮

蓮は重に泥田、沼池等の如き到底他の作物を栽植することあたはざる利用の効少き場所にて培養するに便利なる水菜にして根實共に風味あるを以て貴重せらる此者に

は花の白色なるものと紅色なるものとあり其白色のものは葉根稍小なるも精質多く皮、肉等しく白色なり又紅色のものも風味良好なるも着色少しく鼠色を呈す

又近來は右の外處々に於て支那より傳來したるものは栽培するものあり此種は日本のものに比し肉質頗る厚く從て大なり然れども丈け及び節ともに短かきか如し

栽培 蓮を栽培すには種子の能く成熟したるものを探りてこれを土に混合し沼又は深泥地へ約三尺位宛の距離に下種すへし夫れより發芽生長すれば普通三年目に至り採收し其後は一年毎に堀取るへし其殊更にこれを栽培するには最初一反歩に付人糞凡そ三十貫目を施せば生長殊に著し但種子は播種に際し尖りたる一端の皮を少しく磨り取りて植ゑるをよしとす然らざれば發芽遅きものなり

收納 これを收穫するには十月末に至り葉已に枯槁せしを窺ひ水を排去し掘採るへし初め大なるもののみを探り小なるものを殘し置けば年々採收することを得へし

第十六 慈姑(クハヒ)

慈姑は其根塊を煮食するものにして蓮に次て利益ある水菜なり概して沼池、水田又

は泥土の肥沃なるところ栽植せらる然れども其餘りに泥土の深きは好まず

栽培 は大抵六月中旬頃恰も稻を植ゆるか如く丁寧に整地チカラレをなし且つ每反大凡人糞二十貫許りを施給し然して後約一尺内外の距離に種慈姑を植ゑつけ夫れより五六週間を経て干魚、人糞等を施し且つ二三回の耕耘を行ふへし然れども根の充分伸長したる時には行はざるを利ありとす元來此の作物は一度種子を植ゆるときは多くの鬚根を生ずるか故に採收の際これを五六本残し置くときは又翌年も堀取らざるを得るものなり

收納 これを採收するには秋より翌春迄に能く水を落して行ふへし

又貯蔵するには其堀取したるものを丁寧に洗滌し凡そ半日はかり太陽に照らして乾燥し後床下の如き處に貯ふへしさすれば殆んど五六ヶ月は貯蔵することを得るものなり

第十七 蒟蒻

蒟蒻は直ちにこれを煮食するものにあらずして其根塊を靡り潰し精製して食品に供

するにあり又これを薄く切りて陽乾し白にて搗きて粉末となし然る後食用こんにやくを製する法あり此の如く粉となしたるものは運搬に便利なるのみならずこんにやくに製し頗る美麗なるものなり

土質 は普通の土地には概ね生育をなすものなりと雖其適切にあらずれば品質良好にして風味の美なるものを産せず其好適せるは排水良好なる陰地を第一とす

栽培 これを作るには下種に先たち成るべく深く耕耘をなし堆肥の如き肥料を施用し春季其距離大凡二尺内外に植ゑ付くへし但し冬季は寒氣を豫防せんか爲め其上に充分糞稈の如きものを掩へ置くを要す

これを收穫するには二三年乃至四年目位とす

第十八 葉菜類

葉菜類の種類は甚だ多し従て我邦在來の種類には小松菜、平莖菜、芥菜、三河島菜、高菜等あれども品質大概体菜、白菜、山苣菜等の支那より渡來したる種類に比し遙に劣れり然れども葉菜類は培養懇到にして生育佳良なれば脆軟甜美にして煮食醃藏等に

適し特種の風味あり且つ其成育頗る迅速にして販賣用の目的を以てせざるもこれを栽培するは極めて快樂あるものとす

これ等葉菜類とは専ら葉を需むるものにして莖又は花を資るものをも便宜のためこれに属せしむそのこれに属するものは山東菜、体菜、白菜、小松菜、京菜、高菜、三河島菜、芥菜、蕪菁菜、野蜀葵、芹、紫蘇、高苣、恭菜、商島、韭、土當歸、甘藍、石刀拍、秋冬、襄荷、蕨、筍、蓴等なり今左にこれ等の種類に付其の大要を説述すへし

第十九 山東菜

此種は清國山東省より傳はりたるものにして品質甚だ佳良なるを以て本邦各地其栽培を見ざる處なく培養又困難ならず此者葉は淡綠色にして纖維少く白莖頗る多く形狀稍直立し栽培其宜ろしきを得れば恰も甘藍の如く葉莖を結莖す其結成したる葉莖は純白色にして各穂の調理に用ゐられ特に肉類に副へて煮食するに好適す土質最も沖積土を好み壤土これに次く其播種期は八月中旬頃をよしとす

第二十 白菜

白菜は山東菜に類似せるを以て山東菜の種と稱するも可なり又清國より傳はりたるものにして其色帶黃白色にして葉に缺刻なく縮波多し脆軟恬美にして纖維少く種々の料理に利用せらるること山東菜に劣らず且つ生育の良好なるものは心葉毬形に結成す酢藏に適し又煮食して可なり但し質播種期等山東菜に準すへし

第二十一 体菜(一名杓子菜又サジナ)

此種も又支那より傳來したるものにして其葉は恰も杓子に似葉柄甚だ多肉にして白色を呈し纖維少く柔軟なり最も漬物に供するに宜しく且つ煮食するに適す

第二十二 小松菜(冬菜)

此種は下總小松より産するか故に此名あり恰も高菜の小なるもの、如し而して葉は最小なり其性能く寒氣に堪ゆ故に一名これを冬菜とも稱す大抵十月頃に種を播き冬季採收す又これを春下種して收穫するものを鶯菜と云ふ

第二十三 三河島菜

此種は吾邦仕來種中著明なるものにして能く各地の風土に適し且つ其培養容易なる

を以て廣く地方に栽培せらる然れども近年前者清國種の如き良種の傳はりたるを以て廣く市場に歡迎せられず故に販賣を以て目的とするものは清國種を取るを勝れり

とす然れども此種は收穫多量なるを以て決して棄つべきにあらず

第廿四 京菜(一名水菜又糸菜、千本菜)

京菜には種々の名稱あれども東京邊にては京菜と稱し又京都邊にてはこれを水田に植ゑ時々水を注ぎて培養するか故に水菜とも云ふ又其菜は一株より數百本を生ずるを以て千本菜杯とも稱す

其葉は數多に別れ能く繁茂し一株殆んど貫目以上に達す好んで肥沃にして有機物多き濕地に適生す此種は冬季より春日迄盛かんに培養せらるれども最販賣に適するは決して他の種類に劣らされども特に浸し物、吸物種等に可なり此菜は下種したるまゝ生育せしむるも宜しけれども嫩葉の内に畦巾一尺二寸株間一尺位に三四畦を接して移植し栽植するときは特によく繁茂するものなり

此者九月上旬より十月迄に播種し十二月より翌年三月頃迄は採收す

第二十五 壬生菜

此種は葉片細長糸狀にして缺刻なく又前者の如くよく繁茂す此者京菜の一種にして其需用も敢て前者に異ならず

第二十六 芥菜

此種は濃綠色にして一種強烈なる辛味を有し頗る醇藏するに可なり

此者十月頃種を蒔きて十二月頃より翌春にかけ採收す

第二十七 高菜(大芥)

此種は暖地に最多く培養するものにして其莖葉甚だ太く殊に南部地方にありては最大なるものを産す其葉は紫色を帯ひ三四月頃莖の出つるとき採收す香氣風味共に頗る宜しきを以て世人多くこれを賞用す醇藏となすに好適す重に十月頃苗床に播種し十一月頃本圃に移植し翌春に至り採收す

土質及び肥料

以上の如く畑に作る葉菜類は總稱して菘菜（ハタケナ）と稱し其の多くは稍濕氣を有せる沖積土、壤土、砂塵土等に適生す

是其の必要とする處は葉部にして子實及び根部に要無きものなれど土質如何に肥沃に過るも決して差支ふることなく他の禾穀類等を栽培して莖葉繁茂に過き結實不完全なりと稱せらるゝ處は其尤も好適なる處なり隨て其施用する肥料も主もに魚肥、粕類、人糞尿等速効なる窒素肥料にして只短期間に其葉部發育して纖維少く柔軟甜美なるを希望するものなり播種期は種類に因りて異れども八月中旬より九月下旬迄の間を以て播種するを宜しとす而して此の葉菜類は深耕するを要せされど精細に耕鋤して土地を膨軟にすること最肝要なり土地膨軟ならされは發育悪きのみならず特に嫩幼の時期に於て發育悪しきものなり

一般栽培法

播種法は山東菜、白菜の如く甚しく蕃茂するものは点播となすも宜しけれども多くは條播となし漸次間引きて食用に供し生育最良好なるものを殘して最後の收穫物た

らしむるを宜しとす又芥子菜、京菜等は播種後三四週目にして他に移植することあり

播種するには先づ二尺乃至二尺二寸の畦を以て淺溝を作り腐熟堆肥、人糞尿、魚肥等を施し少しく土を覆ふて後條播す種子は成る可く廣く播種すへきものにして決して一處に集合せしめて播種すへからず一處に集合して播種すれば發芽したる時嫩莖徒らに伸長し勢力乏しくして動もすれば風雨の爲めに害せらる播種後三四日にして發芽揃ふものなれば發芽後四五日の内に一回間引をなし勢力弱きものを除き稀薄なる人糞尿一反歩に對し十荷程を施し中耕をなすへし此頃は晩氣未だ去らず雜草も盛に發生するものなれば除草を注意すること肝要なり又中耕の際は努めて懸にして嫩莖を埋没せしめさること及び嫩莖の根元に粉土を掛くることに注意すへし爾後時に應じて中耕間引きをなし又二三回種肥を施す時は十月下旬頃に至り既に收穫に適する様になるものなり

第廿八 蕪蔘菜（ほうれんさう）

藝菱菜は頗る便利なる野菜にして春秋ともに培養することを得日本種の西南部地方に栽培せらるゝものけ品質稍佳良なれども洋種に比較するときは遙に劣れりこれを培養するには春三月初ころ又は秋九月初ころ種を蒔き春蒔は四月初ころより秋蒔は十一月初ころに掻き取りて食することを得此者葉の柔かなること著しく煮食に適し又は浸し物杯となして極めて妙なり就中舶來種は葉極めて柔軟にして風味從て佳なり且つ性質丈夫にして能く寒氣に堪ゆるの便あり故に栽培せんとするには洋種を採るを宜しとす

第廿九 しんきく

しんきくは吾邦の蔬菜中にて最も優れるものなり其形恰も菊に類似し風味甘くして快よき一種の香氣あり故に浸し物として賞用せらるゝ又煮食によろしく且つ其花は美麗なるを以て觀賞に適す

これを栽培するには三四月ころ又は九十月ころ播種し秋蒔種は翌春早く間引をなし又人糞尿の稀薄なるものを施用すへしまたは四月ころ葉をやす迄採收することを得

得へし又春蒔種は夏季より秋に掛け採收すへし

此作物はフダン草と同じく終年盡くることなきか故に支那にては無盡草と稱すると云ふ但し畦巾は一尺五寸内外を適度とし又施肥は人糞を稀薄となし屢々與ふるをよしとす

第三十 ふだん草

此葉菜は前者苘蒿の如く終年盡きざるを以て不斷草と云ふ其種類に二様あり一は根を採收するを以て目的とし一は葉を採收するにあり外國種は根頗る大にして大さ殆んど櫻島大根程あり西洋にては多くこれを畜類の飼料に供せんか爲めに培養す此の外に砂糖の原料となる一種甜菜(サトウダイコン)なるものあり風味全く佳良ならざれども色澤頗る美麗なるか故に酢漬として食するによろし而して通常栽培する日本種は大抵三四月のころより五月頃迄に種を蒔き付け六月より七月頃迄に採收するものなり其培養法食用法等は他の菜類と大差なし

第卅一 苘蒿(ちしや)

苜蓿の種類少からされどもこれを大別して立苜蓿、球苜蓿の一種となす吾邦昔より培養するものは立苜蓿にして球苜蓿は概ね外國種なり春夏秋共に播種することを得へし

秋播は九月中苗床に下し後數葉を生したるに至り移植すへし立苜蓿は時々下葉より採收して食用に供し球苜蓿は結球せしめたるものを採收す球苜蓿をしてよく結球せしむるには甘藍ダイダイと同じく二三度移植を行ふを可とす春蒔は早く蒔ぬき出つるの憂あれば秋蒔きを可とす肥料は米糠人糞尿何れも可なりと雖人尿は最良の好適肥料なり

第卅二 甘藍ダイダイはばかん又たまな

甘藍は歐州の原産にして概ね溫和の氣候に適し奥羽北海道の如きは最もこれか好適地たり吾邦に於ても近年より次第に需用者増加し來り東京附近に於て稍盛んに培養せらるゝに至れり元來此者春秋兩期に下種するを得れ共春蒔は虫害に罹り易き故秋蒔をよしとす此種は氣候暖かにして成長盛んなる所は數回の移植を行はされは結球し難きも北海道にては、河の移植にて矮性となり球を結ふこと容易なり

栽培 これを作るには九月末より十月上旬頃迄に肥沃なる地を掘みよく耕鋤して仔細に十塊ツヤケレを打碎きて平坦となし疎スルらに種子を蒔き下し更に細土を掩へ如露を以て水を注ぎ其上に藁稈の如きものを薄く撒布して土地の乾燥に失するの患なからしむへし已にして發芽するに至れば覆藁を除き恰も二三葉を出せし頃他の土地に移植して冬を越さしむへし

其後翌春三月下旬より四月上旬の間に於て本畑に移植するを通常とすれ共あまり生育盛んなるものは此間に今一回の移植をなすへし移植の距離は二尺五寸内外とす苗床の肥料は腐熟したる堆肥人糞尿を用ゐる移植地には堆肥過磷酸油粕餅粕等を施し四月下旬の頃補助として人糞尿を用ゆへし移植は晴天の日を以てし早朝になし終るへし然るときは徒らに伸長して花軸をぬき出つることなきものなり種類極めて多く本邦に渡來せるもの數十種に達せり甘藍は軟らかにして甘味を帯ひ肉類と共に養食して或は淪ユカきて酢合とし又は漬物によろし

第卅三 野蜀葵(ミツバ)

野蜀葵は最春需用すへき蔬菜にして重に浸し物となし又吸物等に用ゆこれを培養するには五月頃土地を精碎し幅二尺四五寸内外の畦を設けこれに濃薄の出来ざる様種子を播下し其上に更し細土を薄く覆へ陽光を遮り置くへし

其後程なく嫩芽^{ワカメ}發生するか故に夏季二三回の耕耘を行へ又翌年一月下旬頃にいたり堆肥の如きものを施し土を左右より寄せ掛くへしさすれば二月下旬には軟き根を生す其大なるものは凡そ七八寸位に發育するものなり

此者は元來陰地を好むの性あるか故に成るべく陰地を撰ふをよしとす又蒸窖^ホ内にて萌を作れば時ならぬ際市中に上すことを得へし

第卅五 塘蒿(をらんだみつば)

洋種のミツバは頗る高尚なるものにして價又高し從て洋食流行の今日にありては洋菜中最貴重品の品として尊敬せらるる故に近來地方によりてはこれを栽培するもの續々現はれたるか如し元來此洋菜は二年草にして其葉は恰も芹に似たれども廣く葉柄又大にして異種の香氣を有すこれを食ふには莖の軟化せるものをよく洗ひ古き葉根を

除き何れの洋食店にてもなす如く筆立様のものに立て其柔軟にして白き處のみ鹽に附けて食するを常とす又惡臭ある魚鳥獸等の肉雜に混煮するときは其臭氣を薄くするの力あるか故に生食を好まざる人にも充分味ふことを得へし

土質 濕氣を有し有機物に富める砂質壤土に適し石又は貝殻類を有する土地には不可なり

栽培 これを栽培するには初め巾六尺位の苗床を作り面積二十坪に付種子一台の割合にて春季彼岸頃下種し生長するに隨へ次第に間引をなし移植の際迄には一寸前後の距離となすへし夫れより其葉の長さ五寸許りに生長せば本圃の移植す其畦巾は約八寸位にして株間を六寸となし一本宛を植ゆほし移植後土地余り乾燥せば屢々水を灌き若しくは足にて踏み付け置をよしとす移植約七の間は除草するのみにして八月中旬に至り能く繁茂したる頃土を寄せ掛け十月頃より漸次收穫す

又冬間採收せんとするものは十月下旬頃移植すへし其他土を根際^ニ寄せかけ軟化せしむるはネギの栽培に準して行ふをよしとす

第卅五 土當歸(獨活)

獨活^{ウヅ}は其嫩莖を取りて食し一種の香味ありて頗る高尚なるものなり其増殖は重に根分けによつてするも又播種によるも可なり野生の獨活は其香氣殊に強く佳なれど性質堅くして春に至らざれば需用に適せず

土質 土質は陰地にして膨軟なる處を最もよしとす然れども堅き土地に於ては充分の發育をなさざるへし又京都府下紀伊郡地方に於ては赤色砂土にして小石交りの瘠地よりよく佳良のものを出す

栽培 これを栽培するには四月中旬又は九月下旬幅二尺五寸位の畦を作りこれに堆肥、人糞等をよく混合し溝に施し株間一尺位宛の距離に苗株を栽植すへし又後々精及ひ肥く腐熟したる堆肥とを混和し施せは翌年早く芽を出すへし又冬間蔬菜少きに當り新鮮なるものを出さんと欲せば蒸窖を用ゐて萌しを作るへし

第卅六 石刁柏(マツバウド)

此蔬菜は近年外國より傳はり宿根草にして未だこれを栽培するもの甚だ稀れなり其

葉は稍松葉に類似し性質能く獨活に似たるを以て(マツバウド)の名あり其根際に堆肥、人糞、塵芥等を與へ膨軟すれば漸次發生し其根地中に蔓りて二三年目の春に至れば根部より嫩葉を出す故に其嫩莖の未だ地表に現出せざるものを採掘し能く水にて洗へ一旦湯にて^{ユカ}ゆきこれに胡麻味噌を附けて食す其風味頗る柔軟^{ヤツカ}にして佳なり且つ滋養分多きを以て又煮食するに適す

栽培 施肥等は獨活に異なることなきを以て總てこれに準して行ふへし

第卅七 欸冬(フキ)

欸冬は本邦の原産として知られたるものにして各地の山野に自生のものあり秋田北海道にても非常に肥大なるものを出す有名なる秋田欸冬これなり此者専ら其莖を煮食するを常とす又(フキノトウ)と稱し其蕾を食するものあれども一般に用ゐらるゝは莖なり

土質 陰濕地を最良しとす又輕鬆にして肥沃なる土地には良好なるものを産すへし栽培 これを栽培するには五月下旬ころより六月上旬ころ迄に其土地を深耕してこ

れに幅二尺五六寸位の畦を作り充分堆肥の如き肥料を施し株間七八寸宛の距離に古株を適宜に切斷して植ゑつくへし其の後これに時々堆肥を散布すれば充分肥大のものゝを産すへし但し植付後五六年を経れば再び數多の根蔓延して莖身の生育不完全となるを以て又前述の方法により他の新地へ移植するか若しくは植ゑ替ふるをよしとす

又(フキノトウ)を採收せんとするときは八ツ頭と稱する種類を撰擇して栽植すへし

第卅八 花椰菜(シヨールフル花菜)

花椰菜は花菜の最も高尚なるものにして其風味甘く洋菜中殆んどこれに勝れるものなし故に其價も隨て貴く一個の代價大なるものは三十錢位にして小なるものにあつて尙二十錢降らざるへし

土質 此作物の適地と稱するは沖積土にて稍濕氣を保ちたる剛き處を第一とす砂土若しくは砂質地は乾燥に失することあるを以て嫌ふへし又氣候は性寒地を好むか故に暖地は宜しからず

栽培 これを栽培するには春採收するものは七月より八月頃迄に苗を仕立て八九月の頃本圃に移植す又秋採收するものは春苗を仕立て四月頃移植す

其他栽培甘藍と毫も異ならされはこれにならひて行ふへし

但し甘藍に比し稍大なるか故に畦巾を少しく廣するを要す

第卅九 菊

普通食用となす菊は花の黄色なるものとすこれを栽培するには株根に數多生する幼芽を分ちて假植し置きそれより五月中旬頃に至り本圃に幅三尺内外の畦を作り株間一尺七八寸の距離に穴を穿ちこれに油粕堆肥等少許を施し一株二三本宛を定植すへし而して移植の前後を闊はす餘り勢力の盛んに生長したるものは土際の四寸許り上部より摘除し其後又一回の摘斷を行ふへしさすれば花枝を多く生するを以て開花も從て多きものなり

元來菊の目的とするところは花^{ハナビラ}なれば十月頃に至り花の開くに從へ漸次満開のものより摘み取り其用に供すへし

第四十 蕻荷(メウガ)

蕻荷は能く如何なる土地にも栽培せられ葉は恰も蓋に類似し根は竹の根の如く各節に鬆根を生し四方に分岐し其先端より莖葉を抽出し又花は根部より土を貫きて土上に生すこれ蕻荷たけと稱し種々の庖厨調理に用ひて頗る佳味なり又嫩莖の軟白せるものも各種の料理に供し風味中々佳良なるものなり又養成の時期早きときは市に出たして利益少からざるへし

且つ蕻荷は能く各地の風土を嫌はず特に栽培に意を用ひざるも一度これを植附置くときは能く樹蔭、屋後の如き陰地に繁りて獨り増殖をなすものなり故に堆肥、粕類等の肥料を與ふれば殊に良好の生育を遂ぐ

又これを始めて新地に栽培せんとするときは四月ころ其根株を掘り採り其根株に一、二芋を存して七八寸宛の長さに截斷し肥汰なる陰濕地に地拵を丁寧になし栽植すべし

此際肥料として米糠、木灰及び腐熟、厩肥等を施し特に少許の重過磷酸石灰を與ふ

るときは其發育一層佳良なりかくて後更に土壤を薄く蔽ひ其上に根株を適宜の距離に併列し土を被へ置くへし夏は土用の際餘り乾燥に過くれは風呂水の如きものを注ぐへし斯の如き栽培法によれば蕻荷は充分成育して根株は肥大となるのみならず翌春これを掘り取りて温床に其葉に軟白ならしむるに好適す但し蕻荷は冬季に至り其莖葉共に枯死するか故に落葉等を撒布して保護するを要す

第四十一 蕨(ワラビ) 薇(ゼンマヒ) 芹、蓴

蕨、薇等も野菜の内に指を屈し其風味佳ならざるも又種々の料理に供して人の愛賞する處なり元來此者は殊更に圃場に栽培するものにあらずして山野に自生するものなりこの者春季に至り地中の葉より葉柄を抽出す其狀恰も人のゴブシの如しこれを食ふには其ゴブシの未だ開かざる内にあり

又芹も蕨薇等と同じく圃野又は水流の岸邊等の水濕地に自生するものにして一種の香氣を有し風味頗る佳なるものなり然れども此等は皆山野自生にして敢て人の殊更らに栽培するの要少なく又蓴の如きも水菜中著しきものにて頗る上品なるものなれ

とも沼、池等に自生するものなれば其培養法等を解く必要なかるへし

第四十二 筍

筍も種々の調理に供せられ風味頗る佳良にして其需用最も多し其栽培法等は以下林樹中竹の部に於て一覽すへし

第四十三 茄子

種類 茄子の種類少からされども現今人の最も多く栽培せる重なるものは早生千成茄子、中生茄子、晩生茄子、清國水茄子、熬茄子、大圓茄子、巾着茄子、札幌丸茄子、佐土原長茄子、佛國丸茄子、佛國大長茄子等の各種となす今左にこれ等各種の形状及び特質の概要を掲ぐへし

早生千成茄子 此種は最早生にして收穫多けれども鹹は小さく其色深紫色にして頗る美なり大抵六月上旬頃より收穫するを得へし

中生茄子 此種は最^{ウキオク}醜に好適する一種にして收穫多く味又佳なり形状千成茄子より稍長くして大なり七八月頃收穫するに宜し

晩生茄子 此種は鹹形頗る大にして楕圓形なり其色極めて鮮麗なる深紫色を呈し美味豊産八月頃收穫に適し培養其宜しきを得れば秋末の頃迄盛に結鹹すへし

清國水茄子 此種は色澤紫黑色にして鹹形頗る長く殆んど二尺餘に達し風味又良好なり俗稱これを長茄子とも云ふ

札幌丸茄子 此は最も早生にして形小さく内質緻密種子少なく風味佳色收穫又多し

佐土原長茄子 此種は日向佐土原の産にして鹹形長く七八寸あり種子又少なく極めて良品なり

佛國大長茄子 此種は鹹形甚だ長く直徑三寸長さ七八寸に達し種子なく肉充實し最も調理によろし

フランス丸茄子 此種は晩生にして紫黑色を呈し性質色澤等稍前種に似只形状殆んど正圓なるのみ但晩生種中の佳品なり

適地 土質は餘り瘠はされども濕氣多き處及び陰地等は避くへし又茄子は舊地に重作するを忌むものなれば少くとも三四年間は同地に連作せざるをよしとす但其最適

地と稱するは肥沃なる壤土又は砂質壤土なれども培養懇到なれば砂質地若しくは枯土地に於ても栽培することを得へし

撰種 茄子圃中に於て最も健全にして枝葉茂繁し結實せる茄子の色澤鮮麗にして形狀中位なる者一個限り残り置き充分成熟せしむへし但し種類は二番成を良とす而して成熟したるものは之れを探り皮を去り日光に乾し雨露に逢はざる様にす而して充分乾したる者は手にてよく揉み水を以て種子と腐肉とを別ち日光に二三日乾して空氣流通好き處に貯ふへし

苗床 苗床を作るには先づ寢土を製すへし其の法は一月中田土一斗位を掘り來り灰小屋等に置き而して人糞を一個四分一程を澆き後乾燥すへし然とも「アンモニヤ」の飛散せざる様に之を貯ふへし而して三月上旬に至りて縦三尺横二尺位にして深さ七寸位の穴を掘り周圍に土手形を作り而して其の中に堆肥又は腐熟したる厩肥等を深さ三寸位しきならし其の上に糠を堆肥の見ゆる位に撒布しまた前述せし寢土を一斗程を平にならし手にて田土を押付へし而して其上に周圍七寸位の石を置き石の間

に茄子の種子を播き更に其上に土を一分程振り掛け又其土の上に馬糞を其の土の見ゆる位に振り掛け終日日光に床面を干すへし床面乾燥するも其上に藎を覆ふへからず乾燥したるときは朝夕沿水を床面に撒布すへし

栽培 これを栽培するには前年麥作の畦間を耕し置き移植の地を見定め麥中にて二三回もよく其の土を耕鋤しをき麥を刈り納めたる後一度深く耕し畦巾は通常の中にてよろし其の畦二尺五寸位つゝ隔てゝ穴を掘るへし而して二畦を一所に置き而して一畦をうろぬき又二畦に穴を掘りこれに尿水がよく腐熟したる者を澆き草木の灰等を一握宛施し又其の内に土を盛り鉢形に土を窪め置き茄子の苗を植ゑへし而して土を埋めたる後は大根の乾葉を以て茄子の根を被ふへし之れは茄子の葉の裏面に土の附かざる様にするなり茄子成長して花を生せし頃前に道路として残り置きしを兩方に掘り上げて茄子の根に土をよせ置くへし而して畦二本の中央を又兩方の茄子の根に掘り上げて中央に風呂の下水を流し乾燥に過ぎざる様勉むへし

收納 收穫は缺を以てこれを行ひ必ず夕方にてすへし日中又は早期等に於てすれ

は其樹の勢力を減少せしむるのみならず茄蔬の光澤を損すること極めて大なるものなり又鹹は鹹柄の茄樹に密接したる處より切離すを肝要とす

第四十四 蕃茄(アカナス)

蕃茄は亞米利加の原産にして各國盛んにこれを培養せらる吾邦に於ても輒近少しくこれか栽培を試むるもの現はれ來れるか如し然れども未だ全く稀れなりこれ畢竟一種の臭氣あるか故にこれを嫌ひ且つ其の調理宜しきを得ざる爲めならん然しなから此者は果物野菜の兩用に供するを得るか故に今後其眞味を知るに至らば必ず其需用を増加し一般にこれを培養するに至るや必せり殊に此者は成長頗る迅速にして鹹を結ふこと甚だ多く且つ用法に至りても又單純なるものなり種類 蕃茄には形状の大小あり又扁平なるあり楕圓形なるあり其面の凸凹なるものあり又軟滑なるあり又色澤は赤色なるものと黄色なるものとあり隨て其種類又妙からず然れども當今多く栽培せらるる著明なるものを摘記すればミカト、タイプクイン、キング、フェボリット等なりとす即ち左の如し

ミカト、この種は鹹形大にして色澤赤く結實が非常に多く極めて良種なり
キング、此種は早生にして鹹形扁圓なり肉緻密にして形大きく最も品と稱せらる赤く成熟せるものを採りてこれに熱湯を注ぎ皮を剝き輪切りとなし醬油酢及鹽をかけて食す

フェボリット、この種は豊産にして風味又頗る佳なり
土質、質は余り好悪せず普通の土ゆなれば大抵生育するを見るへし

栽培、これを栽培するには茄子と同しく苗床を作りこれに三四日頃種を下し漸く三四寸に伸びたる頃一旦假植し又五月中旬に至り再び本圃に三尺内外の距離に定植すへし其元肥には堆肥の如きものを施用せは充分にして他に敢て擇はさるも可なり夫れより莖大凡一尺位に伸長せしを計り其半末を摘除すへし若し莖の枯凋の徴候を呈する時は又其枝末を摘取るを肝要とす而して苗の生育するに隨へ竹又は樹枝の如きものを立て、疏離となしこれに匍匐せしむへしかくすれば夏日に至り充分數多の鹹を採收するを得へし

第四十五 蕃椒(トウガラシ)

蕃椒の用途は種々ありと雖も本邦にありては僅かに他香辛類に配合して香辛料となすか又は酢漬の蔬菜等に配合して食するのみなり然るに印度埃及ブラジル、キキヤ等の熱帯地方に生活する人種は極めて辛辣の食品を嗜み蕃椒其他辛味のものを用調理の料に供するを常とす故に年々其需用するの量蓋少しとせず而して各々自國に於て産出せざるにあらす然れども其産足らざるに當りては之を他に仰ぐに至り本邦より輸出するもの亦是等熱帯地方人種の需用に供するもの、如しこの際能く需用供給の如何を考へ適當の栽培をなさは農家副業の一端として其利少からざるを信す種類 種類少からされども輸出に適するものは鷹の爪を最とし八房これに次ぐ其他の種類にありて外人の嗜好に適せず横濱に於ける内商の説を聞くに異形小にして其色真紅色澤宜しく乾燥適度辛辣^{カウマ}しきものは先^{カウマ}く又果形大なるもの、色澤に乏しきもの黄褐色を有するもの、乾燥の不十分なるもの、辛辣烈^{カウマ}からざるもの等は價格大に劣るか故に輸出の爲に蕃椒栽培をなすものは其種類の選擇は勿論以上の諸

點に注意せざるべからず

栽培 二月上旬に日當り良き暖地を撰みこれに巾三尺長適宜にして深さ一尺餘を掘り其中へ七八寸の厚さに藁を敷き後水を充分に撒布し其上に土肥二寸を置き土を均し作るへし此の如き苗床を作れば其苗床を離ること東、西、北の三方は通行し得らるる迄南は充分日光を受くる爲め凡一間を去り四方に藁若くは菰^{コモ}にて垣を作り寒風を防ぐへし而してこの垣の高さは東、西、南の三方は凡三尺五六寸北方は特に六尺餘に作るを宜しとす別に苗床には肥料を要せずして可なり而して種子は二月上旬に五日間水に浸し置き後ち其水をよく垂し木綿切れに包み温熱の室に一週口入置けば發芽するものとす室は火力を以てするも可成塵芥捨^{カウマ}出則ち堆積ある塵土を深く掘り埋むへし若し其適當の場所得難き時火力を以てする時は爐を作り前同様布に包みたる儘入れ置くも可なり然とも右火力を以て發芽をうなかすに於ては一日一回爐より取出し濕布すへし本地登反歩に要する種子は凡五勺にて足るかくの如くして凡一分を發芽するに方り苗床に下種し其上に厚さ五分許りに砂子を布き如^{カウマ}密を以て蔓面に注水

す尙苗床面より五寸許りを高く寒風の入らさく様圍ひを設け油障子にて覆ひ油熱をして生育をうなかし而して移植期迄日毎に一回に覆を取外し床面の乾燥せざる様注水し最も苗も伸長するに従ひ覆を漸次高く作り生長を妨げざる様注意すへし苗已に三寸に伸長すれば覆即ち油障子を取外すへし其取外したる日に限り特に一日六七回爾後二三日間は一日三四回必ず注水し濕氣を保たすへし然らざれば苗の乾燥の爲め枯死するあり而して後凡十日を過くれば移植に適する時期なれば移植に先たち充分水を灌き株土を可成大きく附け移植する様注意すへし本地を移植前に於て四五寸の深さに穿ち經八寸位の鉢を作り根肥として一鉢に對し二三合許り糞灰を施し土と混合す其作り方は多く麥畑に間植すものなれば麥畦一つわきに植ふる距離大凡三尺にして株間に八九寸を適度とす肥料は都て尿十六貫目入擔桶・荷分を水擔桶七荷と混し移植後十日間毎日一回宛施し後根付たるを認めなは其量を増し即ち荷の尿に四倍の水を混したるを適度とす故に爾後日毎に同量を以一回宛施肥すへし而して移植後麥間にあるときは別に手入を要せずと雖も麥刈取後はよく雜草を除き麥株を

耕し土を以て根元に寄せ置くへし

收穫 六月中旬に至れば其實凡長一尺五六分より二寸に生長す之を收穫の期節とし夫より日を経て八月下旬に於て終る尤も最初より隔日には相應採取し得らるゝものとす

第四十六 胡瓜

胡瓜は鹹瓜類の中にて最も早熟するものにして其需用極めて多く都鄙一般に貴重する處なり就中これを速成栽培により時ならざる候に採取し市場に出すときは價頗る高く販賣することを得其利益實に尠少にあらざるへし故に都會附近の農家に於ては殊に半日の遅速を競ふてこれか培養に注意するを要すへし

種類 此種類少からされども現今世人に好評を博したる著しきものを摘記すれば大概左の如し

三枚目節成胡瓜 此種は早生種にして地上三枚目の莖節部より毎節に結實す風味頗佳良にして醃藏生食共に宜しく且つ豊産なり殊に二三回の移植を行へば結實非常に

多し

聖護院節成胡瓜、此種は京都府聖護院村の名産にして最早生種なるか故に他の胡瓜に先んし市場に上すことを得利益多し醃藏生食共に宜し

東京節成胡瓜、此種も早生種にして莖節に夥しく結實す鹹形長大ならずと雖も味頗る佳良にして收穫又多し醃藏に適し生食してまた可なり

大胡瓜、此種は鹹形極めて肥大にして肉質緻密に従て味宜しく培養容易なり

早稻田胡瓜、此種は蔓なくして盛んに花を開き累累々として鹹果を結ぶ品質尤優等に
して且つ栽培簡易なり

支那三尺胡瓜、此種は近頃清國より傳來したる一種にして結實甚だ多く一節を隔て
鹹を結び往々三尺余のものを産す其味頗る佳良にして種子少く品質最優等なり

清國大胡瓜、此種も清國より傳はれたるものにして品質佳良香氣あり終始青色を變
せず味尤も美他類の及ばざる鹹なり

魯西亞胡瓜、此種も等しく外國種にして魯西亞の原産なり各種類中第一の早熟にして

て每葉共に其葉腋に雄雌花を生ず鹹形節成種に比し稍小にして形状二寸五六分より
大ならず品質軟かにして甘く現形の儘芥漬一夜漬杯となすに適す

土質 胡瓜の最も好める土質は砂質壤土なり然れども此のものは餘り土質を撰擇せ
るものなれば水濕強き處若しくは粘土質又は砂地にても能く生育すへし

栽培 此種を培養するには遅くも四月上旬に播種(早きは限りなし)すへし然れども
成るべく早く收穫し得るよう作るを母策となす即ち茄子、蕃茄等に於けるか如く厩
肥を混和したる苗床を設けこれに種を播き立夏の候に至り苗に四五葉を生したる頃
本圃に三尺位の距離に移植すへし此時堆肥、油粕、糠等を混和して施與すへし夫れよ
り漸次蔓の生長するに隨へ竹又は樹枝等を交叉し垣を作り蔓をして登攀せしめ折々
側芽を摘除すへし施肥は登芽後一尿水を施し且つ除草をなし尙開花前能く腐熟した
る厩肥及び人糞等を施すへし

大略斯くすれば七月頃に至り生長せしものを出すか故に漸次採收することを得へし
殊に早稻田胡瓜の如き種類にあつては結實に伴ひ速かに採收すれば其結果最も多か

るへし^{カラムル}蔓を纏絡せしむるは殊史に添竹を立てずして稍生長後其蔓下一面に麥稈を敷きつむるも可なり

第四十七 南瓜(かぼちや)

種類 南瓜は夏間に養食するものにして種類には外皮の縮まらざるものと又縮みたるものとの二様あり而して概ね早種は臙形小なるも晩生種は多く大なるを常とす殊に洋種にあつては頗る偉大なるものあり其種類又頗る多し此内其品質優等なる重なるものを示すへし

菊坐南瓜、此種は果稍大にして花形をなす濃黄色を呈し味極めて甘し

早生小南瓜、臙果小形なるも頗る早熟にして收穫も、且つ美味なり

西京南瓜、一名(鹿谷南瓜)といふ西京の原産なる瓢箪形にして味良好なり

縮縮南瓜、大なる菊形にて皮は具皺縮す濃黄色を帯ひ美麗なり質緻密にして最も優美をて豊産の良種なり

改良大縮縮栗南瓜、前種改良品にて 層大きく且うまし

清國方瓜、形状西京南瓜に似て果面滑かなり大さ中等長さ二尺周圍一尺八寸位味南瓜に類す之を^{ヌカ}糠みそ漬として甚よし

清國芋瓜、方瓜と共に輸入高評を博す臙面白味冬瓜に類す之をぬかみそ漬として甚よろし

洋種ハツバード、形中央凸起し兩端尖り方錐形を爲し其色濃綠色にして肉質緻密栗の如き味を有し洋種中尤も高評なる優等の品なり

全バットマン、前種と相似たり

土質 南瓜に第一深き砂壤土を以て最適とすれども傾斜地、山崖、屋後等の他の作物の栽培に適せざる土地にても好く結實するを以て地方によりてはこれを家屋の傍又は畜舎の近邊等に栽る屋上に^{ハツスル}匍匐せしめ收穫することあり然れども強粘土、墟土等には徒らに莖葉のみ繁茂して結實せず偶結實することあるも其味劣等にして甘味砂地のものに遠く及はざるへし

栽培 南瓜は本圃に直播せずして必ず苗床に播種したる後移植するを要す其苗床の

製法に窒肥上に設けると地上に二尺五寸位の高さに設くるの甲乙あれども其原則に至りては敢て異なるなし堆肥上に設くるには先つ秋冬の候庭の一隅日當りのよき處に高さ三尺長三間幅一間(尤苗床の大小に従ひ隨意なり)位に藁落葉粗穀等にて堆み立つへし春彼岸に至り其上苗床を設くへき堆積に馬糞厩舎の敷藁とを混したる者を一面に撒布し其上に米糠或は油粕を腐熟せしめて施すものあり或は施さざるものあり然る後苗の生育する場所即ち砂の肥料を爲めに黒變したる壤土様なるを厚さ三四寸に載せ其上に播種するものとす苗床の區域は大抵幅四尺長さ適宜なるへし而して家根を設くるを要す

地上に高さ三尺位に設くる法は春彼岸落葉、藁等にて幅四尺長さ適宜に積み立て馬糞と厩舎の敷藁とを混して發熱せしめ其後に凡て甲法と異なる所なし而して甲乙二法とも鶏の侵入と北風の寒感を防く爲め周圍に麥稈等にて高さ二間位の垣を結ぶへし

夫れより床土をのせ終らは先つ一寸五分平方の中心點へ中指を以て五分位の深さに

穴を穿ち一粒宛下種す下種終らは藁を順序よく擴け其上菰蓆など置き熱の放散を防ぐへし其後四五日を経れば發芽す此時藁を除き徐ろに日光に當つへし此際降雨に際するは栽培家の最も困難する所にして數日霖雨に遇ふ時は莖一二寸に伸長し黄色を呈す偶々晴天に復し急に日光を受けしむれば忽ち萎凋シヤレし終に枯死するものなれば最も注意するを要す又床には蓆ミシロなどにて家根を葺き晴天なれば午前九時頃之を撤し午後三時頃再び元の如くす斯く毎日注意し胚葉共四葉位出して時間引きて三寸平方に一本位となす四月十五日前後に至り床内に於て移植を行ひ苗を強健に仕立つ八十夜前十日頃に至り本圃に植ゆ移植前は覆蓋を撤し雨露ウツに曝し本圃と同様の措置をなす而して移植せんとするや下水風呂水等を打ちて濕氣を保たしめ株部に土を附け籠などにて本圃に運搬す

移植 麥畦三條毎に畦落しとなし麥蒔當時より注意し置き株間を四尺位とし晴和の日を選び移植するものとす夫れより移植後二三日を経過し活着せるを見は株の周圍に手を以て穴を廻し人糞尿等を施す二三日後に至り其肥の乾燥せるを見て埋むるな

五四〇
り之を輪廻しといふ輪廻しをなしたる後一週間位経は樹勢頗る振張す此時に當り株の南北を三寸位の深さ(舟底形)(最も東西の畦なれば株の東西)に掘りナカサカス糞粕二合を施す(干鰯の細別したるものを用ふるものあり)之を一番肥又は小木寄といふ其後麥の既に熟せんとする頃に至り畦の東西麥畦の外側に深さ三寸位に掘り(舟底形)糞粕二合を施す之れにて株の四方に施されたる譯なりこれを二番肥又は大元寄といふ而して又此頃より開花するものなれば(雌雄別に開く)開なれば早朝花粉の交接を行ふを可とも且又如何に花粉の交接を行ふとも蔓止めマシメの工台宜しからされは結果少きものなり而して又結果を見て玉肥を施す而してこは麥收穫後なれば如何なる處にても施してよく大概一株一合位を施す之れは都合油滓五合を施したる譯なり此頃より又満圃黃花を以て埋められ未明涼をとる爲め起き出つれば實に一しほの眺なり收穫 一番成りは青熟ものと青物市場に搬出し賣却するなり、二番成三番成は黃熟に至り賣却するなり而して未成を取るには其後一回施肥するを要す

第四十八 西瓜

種類 西瓜は夏の果菜中最著明なるものにして其形の壯麗にして且つ美味なるは到底他の果菜の及ぶ處にあらず故に其需用頗る多く其價又廉ならざるか故に蔬菜類中収益の最も多きものなり従て本邦は從來其栽培盛んなれども特に良種と稱すべきものに乏しく當今市場に歡迎せらるゝものは多く外國種なりとす今左にこれ等二三の品種を略記すへし

早生日本西瓜、形大ならずと雖ども早熟豊産にして味佳なり

内國大西瓜、形大にして圓く皮青く肉眞紅にして甘美良種なり其大なる物は往々四五貫目餘に達す

ユキセルショア、形大ならず洋種中の早熟種にして豊産良種とす

ヲツトルスネツク、形長く皮淡緑の黒條あり肉厚く深紅色を呈し質柔く極めて甘美なり

ゼツラルカ、形圓楕皮暗緑にして大なり通常一果十五六斤の物とす質柔く味又甘美なり

アイスクリーム、洋種は澤山あれども最も佳品美味なるは此種にして皮薄く線淡色にして線條あり肉厚く薄紅色を呈し質^{ヤウツカ}脆柔極めて甜美^{アツキ}なり

マウンテンズウキート、形狀長大にして暗緑に淡緑の虎斑あり豊産佳味前種に次く良種なり

土質 西瓜栽培に好適せる土質は乾濕適度にして空氣の流通宜しき砂質壤土なれども砂土、粘土、墟土、礫土等各種の土質にても充分栽培し得べきなり特に栽培に熟練せるものは新開の山畑鬆粗の砂土地等にて能く美良の結果を得然れども連作は最も嫌ふ者なり氣候は温暖をされ共本州各地にて栽培し得べきか一概に之を言へば砂土にありては鹹形小にして蔓の枯るゝこと速かなれども成熟速かにして味美粘土にありては全く之に反して鹹形大にして蔓の枯るゝこと遅きも成熟遅くして味淡なり又乾地は砂土に類したる結果を生し濕地は粘土に似たる成蹟を現はすを常とす雨大七き時は成熟後れて味淡にして好天氣續く時は成熟早く味美なり森林原野の新開地は多量の肥料を用ゐざるも葉莖の發育盛んにして相當の結果あり且大形の鹹を生する

ものなれども熟爛に比して蚜蟲の害多く且つ皮層部厚く果肉中纖維様のものを生し又肉中白色部を存することあり

播種 さて之を栽培せんと欲する畑地は麥播種の時より準備し置くを要す其法麥の畦幅二尺なれば三畦隔てに一畦つゝ播種せす空地となし置き四月中下旬の頃肥料を西瓜の播種に先ちに施用するなり之を原肥とす原肥を施すには前きに明け置きたる畦の中央に四尺位の距離に深さ七八寸幅一尺四五寸の穴を穿ち肥料を此内に施し能く土壤と混し更に土壤を搔き寄せ堆土して凸形ならしむ而して他日種子を其上に播下するなり

播種は四月下旬五月上旬の交にして種子は先つ一晝夜間温水に浸漬し後藁苞布切等に包み廐肥中に二晝夜間位入れ置き少しく萌芽の兆あるものを播種す一株の種子數は精良のものなれば五六粒にて足るものなり播付くるには先つ手にて地表を平かに少しく押し種子を適宜排列して細土四五分を蔽ひ再び押し付更に切藁或は糊糠を其上に撒布し置くへし種子量は一反歩四五合なり播付けたる種子は丁寧^{テイジン}に土を蔽ひ

決して地上に露出^{アラスカ}し置く可からず

栽培 既に發芽せば粗糠切藁等の嫩葉上にあるものを除くを要す又當時尙寒冷なれば鉢或は藁切莖類を以て保護すへし而して十日前後を経は根元に土を寄せ又發育不良のものを拔去り一株三本位とし同時に中耕をなし稀薄人糞、重過磷酸石灰の混合せるもの少許を施すへし又適宜間引をなし本葉四枚位開發したるとき遂に一株一本となすへし而して葉の六七枚開發したる時摘心して二枝を左右に發生せしむ之より多くの枝を生せしめざる様注意すること肝要なり此際補肥中耕す即第二回補肥なり而して第二回補肥を施したる後蔓の一尺五六寸に伸長せるを見計らい藁敷をなすへし藁敷をなす前には豫め中耕除草等をなし置くを要す之れ藁敷をなしたる後は中耕除草に不便多ければなり第三補肥は桶元三四尺を離れて淺く穴を穿ち此内に施し更に埋め置なり

收穫 西瓜は大抵落花後五週乃至六週間又黒皮を破りてより三週間位にして成熟するものなれども栽培家は多く結鹹したる節の卷鬚の褐色に枯槁すると又弾きて其音

響に因り或は表皮の青色等に因りて識別す然れども未だ熟練せざるものは落花後四十日位に摘採すれば多くは過ち無かるへし

第四十九 西瓜 まくわうり

種類 西瓜は元美濃國甜村より産するを以て此名ありと云ふ此者又菓子瓜とも稱し其味甘く内外共に盛んにこれを培養して夏日の生食に供す其品種極めて多く殊に洋種中には品質風味共に頗る佳良なるものあり今左に此等内外の種類中最も世人に喝采を博せるものを摘記すへし

銀西瓜、此種は鹹形楕圓中形にして淡青微黄白色なり少しく條紋を有し肉質厚く緻密にして美味なり

金甜瓜、此種は其名の如く黄金色の楕圓小形にして肉堅く又香氣ありて頗る美なり各地至る處非常の好評を博し居る良種にして此に東京府下近傍に於て重に栽培せらる

早生同、此種は他種に比し稍小形なれども極めて早生なるが故に早時收穫するを目

的として栽培するに好適す且つ甘味多くして豊産なり

鳴子同、此種は形稍銀話瓜に似楕圓中形にして皮微黄淡青色を帯ひ肉厚く質緻密にして風味最も佳なり

大同、此種は鹹形肥大にして黄淡微青色なり又少しく條紋を帯ひ肉厚く質緻密にして且收穫多し

カタラツブ、此種は外國種中の著明なるものにて鹹形長く黄色にして窪みたる條紋あり概して洋種は本邦種に優り其芳黄あるは日本種の遠く及はざる處なり

土質 土質は排水良好なる石混しりの處をよしとす本邦仕來の話瓜は強へて土質を撰擇せざるも舶來種は粘土質の排水不良なる處に栽培すれば結實の後中途にして落下するの恐れあるへし

栽培 これを栽培するには概ね四尺内外の畦を作りこれに株間凡そ三尺位を距てし苗を仕立つへし己にして發芽し苗凡數葉を出せば芽を摘除し大抵一本の蔓より五六本の枝を出さしむへし而して此枝又數葉を着くるに及んで再び摘芽を行へこれに六

七個位の結實をなさしむへし

斯く摘芽のことは甜瓜の培養上最も肝要なることなれば力めてこれを行へ其^{カゲツル}冗蔓を除き去るを要す但し施肥は三四回にして其後蔓下一面に摘稈を敷きつむへし

第五十 越瓜(しろうり)及び菜瓜(あをうり)

越瓜及び菜瓜はきうりの正に終りを告ぐる頃に至り成熟するを以てきうりの代用品として貴はる加之此者漬物となし胡瓜よりは遙に優等なり即ち奈良漬粕漬等に供するは此類なり越瓜は鹹形稍大にして少しく薄青く又菜瓜は青色を呈し形大なり眞の奈良漬に用ゆるは皆これなり

種類 品種又少なからず其中顯著なるものを擧ぐれば大越瓜、早生越瓜、西京大白瓜等なるへし即ち左の如し

大越瓜、此種は中生にして肉質頗る厚く味又美なり醃藏、奈良漬、粕漬等に好適し用途極めて多し

早生越瓜、此種は鹹形大ならざれども最も早熟なるか故に極めて早時より市に上す

ことを得

西京大白瓜、此種は形狀稍大越瓜に似て味も又良好なり

栽培 普通五月上旬頃播種するものにして其栽培法は大抵西瓜と異ならされは之れに準して可なり

第五十一 冬瓜(とうが、かもうり)

冬瓜は又夏口煮て食するものにして古來より野菜の一に數へられ漢方醫はこれを病人の食品に供するも敢て止めざりしと云ふ而して通常培養する種類に二様あり其一是楕圓形(但し中には長形圓の者もあり)にして形最大ならず皮色淡緑にして白粉を被むる又其一是琉球冬瓜と稱し主もに琉球鹿兒島地方に於て栽培せられ其形頗る肥大にして濃綠色を呈し皮に網狀を漏出するものなり此種其最も大なるものに至りては殆んど五六貫目に達するものあり此外に又清國種にて支那大冬瓜と稱する一種あり性質形狀其琉球とうがんに類似して風味又佳なりと云ふ

栽培 これを栽植するには、南瓜西瓜等の栽植に異ならされは大方これに準して可

なり

第五十二 瓠(扁蒲)及び瓢(へう)

瓠は稍とうがに類似し其扁圓形をなすものを普通とす其肉は切りて細長き薄片を作りこれを太陽に乾して乾瓢となす又生食するも可なり又瓢は瓢箪を意味すれども瓠と同種なり此者完熟すれば皮頗る強堅となり専ら器物に供せられ中には三四斗位の量を容るべきものあり

二種共に其栽培法は前者に準するをよしとす但し株間の距離は南瓜に比し少しく廣くするを要す又肥料には最初堆肥を施せば充分なり

第五十三 糸瓜(ヘチマ)

糸瓜を栽培するは纖維を供用するを以て目的とすれども未だ成熟せざるものは調理して能く食することを得るものなり然れども主として其網狀の纖維を使用するに止まれるか如し而して此者は余り土質を好悪せず大抵の土地には能く生育するか故に高舎の傍又は崖溜の近邊等に植付け置き成長するに従へ其蔓を屋上に登攀せしむる

ときは殊更に多くの手数を要せざるも相應の收穫あるものなり其播種期は通例四月頃を好期とす但苗は苗床に於て仕立ちも又本好に直ちに播下するも可なり又畑に栽培せしものには支枝を立てこれに其蔓を纏繞せしむへし

第四節 工藝作物類

第一 煙草

土質 煙草は地味に因りて種々其性質を變化すと雖も生育繁茂するの点に於ては兎に角同一なりとす一般の植物は地味肥沃の土を好むも煙草は之に反して腐植質に富める砂質壤土若しくは礫質壤土を最も適當とせり

苗床 苗床は冬期より床地を鋤返して土塊を碎き之に人糞を適宜に加へ置き二月下旬頃に至り又起し返し一坪に人糞一荷を施し能く掻き均し日光に曝し乾燥するを待ち兼て貯はへ置きたる種子を藁灰と混合して下種し其上へ藁を敷き毎に水を施し發生するに至り藁を去るへし藁を去るには成るべく日没後を最も良とす一反歩の苗床は三坪乃至五坪位に定め種子は三匁乃至五匁迄を宜しとす發芽後の肥料は藁灰

を時々撒布せば其効力大なり播種より凡三十日を経過し五月下旬頃に至れば三四枚の葉を出し三四寸位に成長すへし此頃に至り本畑へ移植すへし

移植 本地は移植の前日に一反歩に付凡そ五千位の孔を三四寸の深さに穿ち肥料を施せる翌朝又は日没後に至り移植すへし其苗数は一反歩に付五千本にして多くは麥畑に間植するものとす地方に因り相違あるも概ね麥畑なりとす若し麥畑なれば麥畦一つ置きに植へ其距離を三尺位とし株の間は七八寸位を適度となすへし

肥料 從來使用する所の肥料は油粕大豆粕人糞を主とすれども煙草に施し特に効驗あるは鰵粕、油粕、磷酸、窒素肥料等とす鰵粕、油粕を用ひたるものは葉の光澤を能くし香氣強く火附き佳良なり又た人糞は必用ならざるに非ざるも之を多量施用する時は光澤を失へ且つ火附を悪くす恐れあり

移植後管理 移植後麥間にある間は別に手入は要せざるも麥刈取後は直ちに除草を行ひ中耕を終へ隔日位には必ず害虫の驅除に従事する事肝要なり七月下旬に又た一回中耕を施行すへし稈莖已に生長すれば適度の葉を備ふ蓄の生するに至れば摘心を

むしへし君し心を損むなくんは葉の背側に甚たはひすへし心摘の期は煙草の種類に依り異なるれども先づ葉數二十三四枚乃至三十枚を生し蕾の開かざる前に於てすへし雨天ならば之を中止し次日へ遷延するか然らざれば朝露の葉上に残存する間に行ふを良しとす

收穫 收穫の節に至らば煙草は其の下の葉より漸次黄色に變するものにして永く之を放置すれば脱落す黄色に變するは摘心の後五六日目により故に其葉の黄褐色なるに至るを見て直ちに小刀を以て葉幹より削り取り之を繩に挟みて乾燥するなり充分乾きたる後ちに至らば繩より外へ貯ふものとす或は朝露の未だ乾かざる内に植際より鎌を以て伐採し之を藁に包み葉の損傷せざる様注意して乾燥小屋に運搬し直に倒さまに竿に懸けても可なり又葉には上葉、下葉、中葉、天葉あり中葉は上葉又は下葉を採取後五六日を経て黄色を呈すへし之を採取して後ち七日間經過し又た上部の葉黄色に變す採取すること七八枚之を天葉と稱す採取法は別になし

乾燥貯造法 是種々ありと雖も今具一二を舉げんに第一を屋根釣と稱し第二を乾燥

法と云ふ屋根釣は刈取りたる煙の莖を竹釘にて刺し屋根下に釣り置くものにして凡そ五六十日位を経て乾燥を終るものとす第二の地乾法は之を繩にて組み乾燥場に入れて乾燥するなり其の法は普通の繩を長さ二間餘に切斷し其兩端を結びて葉に挟み乾燥場へ入れ置くへし四五日を経て葉色變し水分減少す之を取りて地乾をなすなり地乾は畑の空地に麥稈又は藁を振りまき其上へ順序よく並へ乾すへし成るへく連日の快晴の日を撰ひ著すするを宜しとす快晴ならば五日間にて充分乾燥すへし

第二 蘭草

苗仕立法 苗仕立法に種々あり熟蘭刈取りたる株根に發生したる嫩芽を培養し翌年二三月頃に至り之れを堀起し苗床に移植し發芽したるものを七八月頃に至り根部より三四寸位の上より切斷し苗に使用するものなり之れを春野立と稱す亦た刈取りたる根株を培養し翌年二三月頃に至り之れを堀込み畑床に移植し分蘖せしめたるものを七八月頃に至り之れを堀起し上部を切斷し四五寸の長さとし水田に苗床を設け之れを移植培養分蘖せしめたる者なり之を秋野立と稱し第二の方法即ち秋野立の

苗は本田に於て生育最も佳良にして多少の肥料を減するも他の仕立法の苗に比し最も優良なり故に苗床面積と手数を要すと雖苟も本栽培を爲す以上は秋野立に限るべし故に以下の記述は秋野立と知るべし熟藺は刈取に際し翌年の苗に供用せんとする局部は少しく根際より高刈を爲し其刈株を保存し新芽を發生せしめ翌年二三月頃に至り之を掘起し根株に附着する舊株舊芽を除去しつゝ分割すべし其分割に方り本數をきま少きも共に生育宜しからず概ね八本乃至十本位に分割したる者寒氣の傷害等なく生育佳良なり而して莖は四寸に切斷して畑床に移植すべし畑苗床は日光注射空氣流通殊に北風を受ける位置を擇し土壤を耕起し腐熟したる人屎尿一畝歩に對して二三荷位を撒布し置き四五日間を経て腐熟したる堆肥其他適當の肥料を撒布し幅一間半長さ適宜周圍に平畦を設け水を灌き土と混和せしめ地盤を均ならしめたる上株間五寸一株八本乃至十本位を以て三角形即ち所謂「グノメ」に移植し畑地の乾燥及雜草の發生を防ぐ爲め苗床満面に糊糠又は寸斷したる藁稈等の床土の見ねさる迄に撒布し置き七八日頃に至り又之を掘起し水田の苗床の移植の手續をなすべし

水田苗床の位置も亦畑床と趣きを同くし乾田を良くとす其良地を耕勸し一塊を細粉し適當の元肥を施し水を灌き縦横に攪拌し田盤を平均ならしむる爲め丸太棒等をして塗擦し土とよく混和せしめたる上畑床より掘起したる苗を懇に分割し又た上部を切斷し長さ四五寸と爲し株間五寸一株八本乃至十本位三角形即ち「グノメ」に移植し移植後株根定着する迄十日間位は灌水を爲し其の以後に至りては乾濕の度を計り時々灌水すべし水深かければ苗軟弱と爲り乾燥に過くれは生育不良なり故に乾濕の度に注意すべし追肥として稀薄なる糞尿を時々施給し斷肥の感なからしめ始終青色を帯ひ莖太り稍々剛なるを以て宜しとす經過中葉先赤色を呈すれば斷肥の兆なるを以て追肥を怠るべからず抑も畑床苗は一坪を以て水田苗床十歩内外の分植するものなれば苗の良否に依り凡そ二十歩より三十歩を要す

土質 粘質壤土を最上とす過粘土之れに亞き砂質壤土又之れに亞き土質の如何により藺の性質剛柔草丈の長短線條の均否色澤の良否に關係するは自然の道理なりと雖も栽培法の巧拙施肥管理の時期其の宜きに適するときは土質の如何んに拘らず好

結果を得るもの少しとせす

移植期 通常十二月より翌春一月即ち寒中に移植す山陽支場の試験成績に依れば十二月中に移植するもの利あるか如し然れども其の土地氣候の寒暖により移植期を早晩すべきは勿論なれば各地風土の差あるに依り斟酌すへし

本田整地 本田は稻刈取り後牛犂にて二回乃至三回耕勸し土塊を碎き日光及風に曝し而して移植前に至りて水を灌ぎて攪拌し其の水を排除して元肥として腐熟したる堆肥百貫乃至二百貫大豆粕十貫乃至十五貫位を撒布し攪拌して壤土を能く混和せしめ中太棒を以て懇に塗抹平均ならしむるを要す

移植法 苗を本田に移植するには普通稻を移植するか如く後方に退きながら足跡の凹凸は手を以て塗りつゝ株間四寸若くは五寸一株八本乃至十本深さ一寸位に即ち苗の下部の赤色の葉鞘を見わさる位の深さに挿苗し最も正整直立を要し傾斜屈曲を忌む且つ深植するときは分蘖少なく成育可ならず深植するときは株根定着悪く且つ寒氣に損傷し易し移植は水を耕除し温度の日に行ふ之れ寒冷の期節に作業するか故な

肥料 肥料の種類は地方により自ら差異なきに非らずと雖鯨粕、鰯粕、大豆粕、人糞、堆肥等を用するを良しとす今其標準を示さんに施すは元肥として堆肥の外總肥料の十分の第一回追肥は十分の二第二回は十分の三止肥は十分の四の如き割合に分施し而して其の時期は第一回は刈取りより凡そ百日前第二回は八十日前若くは六十日前に施給するを普通とす

刈株 刈株の期は夏の土用に入つて着手するを宜しとす土用前は尚ほ素質の充實完たからず隨て收量を増加す然れども餘り刈取りを後るゝときは枯質減少し粗剛となると後作即ち稻苗移植の期を失するを以て土用の入三四日より刈採りに着手すへし即ち快晴の日をとり藪田の一端より銳利の磨鎌を右手を把り左手を植部より三四寸の所に逆握するか如くに押し掛け平地の根際より刈りつゝ刈藪と共に立藪に押し充てつゝ刈り凡そ四五株を雙十を以て一束となし手元に置き又前の如く刈取り復た手元に置くに當り上部の三分の位の所を兩掌を以て堅く握り直立して之れを棒て少

しく下部を擴張するか如くして二三回膝頭を打ち短少なる結葉を拂ひ又他の一部を把り前の如き手續を爲し兩部を併せ直径五寸位の一束と爲し泥水に浸し之れを引揚げ根部を地盤に立置くときは水分を去るへ早朝刈りたるものは其の日の中に晩刻に刈りたるものは翌朝より乾燥に着手すへし

第三 菅

土質 菅は大抵の土質に適生し如何なる處にも相應の生育をなすか如し然れども其性深根植物なるを以て肥沃にして排水宜しき深層の砂質壤土を擇ぶを良とす若し重粘土にありては能く其生育を遂くると雖も却て厚肉に過ぎ菅笠製造には其充分を保せず又砂土に在りては丈短く巾狭く品質不良にして收穫多からず

栽培 種類としては別に數ふる者なしと雖も俗に赤種、白種と稱する者ありさて刈り取り後程纏て蒸起しをなし後一週間乃至十日間位にして第二回の耕起をなし爾後九月中下旬頃に至りて三番耕起をなし後攪拌して丁寧均し挿秧に従事するなりされは一畝歩に要する苗は大概に刈り取り後苗を發芽して生育良好なる者を四坪乃至

五坪位を保存し置けは是れりとする處にて九月中下旬頃に至れば苗は漸次成長して八寸内外に至る然るときは灌溉して膨軟ならしめたる後鋤にて苗を掘り取り水にてよく根を洗滌し然る後元を揃へて四寸位の長さに切斷し稻苗の如く束にて挿秧に取り掛るへし

挿秧は稻と其趣きを異にする點は株間は六寸内外にして雜植なり且つ株數を一本宛とし尙又深植となすを宜しとす

施肥は概して窒素質肥料を施すを以て得策とするか如し其施用量及量時期は大概ね植付後百八十日乃至二百日即ち春ひが前後に至り一畝歩に對し人尿尿三荷四月中下旬ころに至り人尿尿四荷位を施し若しくは人尿尿に代へて干鰯二三尾位宛を株本に足にて埋むるものあり此の他時々下水を施肥するなり

收穫 菅は收穫早きに失するときは丈短きを以て製造用に供する能はず又遲きを過ぐるときは脆硬となりて面白からず故に大抵八月土用ころに至れば大に繁茂するを以て天候を見定めて早朝より刈り取るへし而して根際より刈り取りたる物は二三尺

廻りの束となし上下二箇所を結束し庭前に持ち連ひて長短を撰別するなり

第四 麻

麻は苧麻科に属する纖維植物にして中央及び西部亞細亞の原産なりとす本邦に於ては西南は九州より東北は北海道に至るまで盛に培養せられ其栽培區域最廣く隨て産額又尠ならず其用途は衣服、蚊帳、被布、帆布、ジツク類、疊糸、諸糸類、漁網、網類等に使用せられ其他頗る多し故に頻年麻紡績の事業諸所に設立せられ益々事業進歩して其原料の如きも各地に産するものを以てす雖も到底其需用に供給するに足らずして年々外國より購入するのを頼に達す殊に今後漁業、航海の進歩、軍備の擴張等に伴へ益々これか需用額を増進するに至るや必然なり故に該作物の栽培たるや實に將來益々有望なりと云ふへし

種類 麻の種類は余り多からず概ね白色と赤色との二種に分つ赤色種は纖維赤くして頗る強靱なり故に網を作るに貴はれ白色種は纖維白色にして稍軟弱なり重に纖維物用として需用さる

土質 麻はよく本邦の風土に適し各地到處敢て土質を撰はされども其中好適せる土質は砂壤土及び肥沃なる壤土となす

栽培 麻畑は播種數日前丁寧に裏打となし置き而して二月下旬より三月下旬迄の間に於て播種す播種期は一反歩に付一升五合乃至二升とす畦幅は普通一尺以上とす肥料は一定せずと雖も原肥は厩肥と人尿とを施すものも其量亦た一定せず發芽すれば時々中打をなし草を除き又た厚きものを間引取る發芽後二三寸に成長すれば人尿或は腐魚汁等を追肥となす追肥は丈三四尺に長するも尙時々施すを普通とす是成長の速にして重量の多からんことを欲してなり此の如く速効肥料を時々施すを以て施肥毎に成長を進むるは勢ひ免れざるなり

收納 麻の跡作には粟を播種す故に麻の刈取を急ぎ夏土用に入れは刈取るなり麻は竹力を以て葉を薙て小束にして大なる甑に入れ水蒸熱に觸れしむ蒸し終れば水に浸し根元を踏み少しく皮の剥けたるを皮として取上げ直ちに皮を剥き之を竹竿に掛けて日乾す即ち苧草なり

製造法 荒苧五貫目を一釜となす一釜に對する木灰は凡そ一斗五升にして之を灰汁となし石の荒苧と共に釜に入れて蒸熱す蒸熱し終れば緩流なる小川に運ひ筆軸大の丸竹二本にて徐かに扱き粗皮を去る扱終れば克く絞りこれを竹竿に掛けて日乾す是にて全く扱苧となるなり

第五 苧麻

苧麻も等しく苧麻科に属する植物にして其纖維を各種の用に供するものなり此苧麻に比し強靱にして潔白ならずと雖よく水濕洗滌に堪へ日つ光澤を有するか故に夏衣縫箔、手巾等を製するに適しまた専ら帆布、魚網、索綱、製紙料等に用ひらる近世衣類其他の織物類には絹、羊毛の如き動物纖維を使用すること盛大となりたれるも尙綿麻等の土物質纖維は斯くの如く他に需用の途膨大にして却てこれを外邦より供給する有様なれば此種の栽培は益々擴張して充分の純益あるへし

土質 此作物は寒氣の甚しき處には適せず又乾燥濕地ともに宜しからず其適地とするは砂質壤土にして稍濕氣を含める處となす但し土壤堅き處に於ては粗硬なる纖維

を産すへし

栽培 苧麻を栽培するには播種前即ち三月上旬の候に田圃を開墾し其土塊を碎き肥料を散布し其土壤を充分に肥沃ならしめ畦を南北に作り而して其種子を蒔き其上に馬糞に糞を切交せて腐敗せしめたるものを撒布し少しく土を振り掛け置くへし其發芽するに至つては適宜に水肥を施し苗の二三寸位に成長するに至り其勢力の強弱と莖狀の曲直とを検査し曲りたるもの或は弱きもの或は特に其丈の長したるもの又は餘り稠密にして生長したる所は適宜に之を抜きさり再び水肥を施すへし其後の肥料は水肥なれば二回か三回過磷酸肥料と油粕豆粕を混したるものなれば一回未だ其莖の二尺に達せざる間に使用し置くときは其生育充分なるを得へし二尺以上に達したる後と雖も發育の不充分なるもの若しくは稠密に過ぐるものに適宜之を抜き去るへし五六尺に至れば畦の間を掘割し根元に土を積み上げ四方に繩を張り風雨に逢ふて倒れさることに注意すへし

第六 棉

種類 棉の品種は少からされども其最著明なるものは本邦種にありては朝鮮、土佐、青木の三種なるか如し又外國種には「キングスイムブルード」「キング」「ドレーカス、クラスター」「ブアマレスフレンド」「クークスニウコットン」等なり

土質 適地は品種の異なるにより又一様に論すること能はされども本邦種は概して排水良好なる砂壤土を好むか如し又腐植質に富める豊饒なる土質若しくは濕氣多き埴土等に栽培する時は徒に枝葉のみ繁茂に過ぎ結實却て多きものなり或は例令結實するも容易に落脱するの傾きあり

栽培 これを栽培するには四月上旬より五月頃迄に大小麥の畦間を丁寧に耕鋤し一反歩の種量凡五六百目の割合を以て播下すへし但し棉種は外皮硬くして發芽難きか故に攪種前微温湯に浸しこれに灰を擦附くを肝要とす又其種子精播せざる惡劣なるものなれば其量約一貫目位を要すへし

肥料 棉作の肥料は重に窒素質肥料のみ多用せしか如しと雖元來棉作には磷酸及び加里の効最多きものなるか故に人糞、油粕、骨粕、堆糞等に木灰及磷酸質肥料を混和

して施與するをよしとす其施與の分量は窒素一、五乃至二割加里一乃至二倍を適度となすへし

手入 種實發生して嫩芽稍伸長せば濃薄なき様態ろに間引くこと二三回にして遂に三四寸毎に良苗一本宛を残存し生長の機を見計ひ稀薄なる人糞尿を施用し且つ屢々耕耘を行ふへし夫れより漸次生長して開花の頃に至らば莖の頂芽を摘除し且つ其の枝腋に生せんとする芽も總て除去すへし其他土用前後より旱天なるときは桃を結ぶに至るまで隔日若しくは時々灌溉を行ふを良しとす但中耕は成るべく淺きを可とす
 收納 これを收穫するには九十月頃に至り充分開絮せしものより漸次摘收し蓆上に擴けて陽乾す又晩秋に至りて未だ桃の残存するものあるも株と共に採收しこれを能く日に乾して開絮せしむへし

第七 薊實(チーゼル)

薊實は舶來品にして未だ我邦之を栽培するもの殆んど稀なりと雖も此者毛布製造用として欠くへからざるを以て將來必ず有望の植物となるや疑なし抑も本邦に於て此

作物の培養を試みたるは下總遠山村農家の小女東京の或る毛布製造所に職工たりしとき其種子を主人に乞ふて故郷に持ち歸り栽培したるを嚆矢とすと云ふ

播種期 播種期は九月中旬より彼岸中迄を好期となす又春蒔にても良し但し春蒔のものは害蟲に罹り易く秋蒔は其憂少なき傾あるか如し而して其一反歩の播種期は五合前後を適量とす

栽培及び肥料 種子は右の割合を以て普通の床蒔とす床の元肥には一反歩に付糠十六貫と灰凡そ二十四貫目を能く切込み置きて蒔付け翌年梅雨の節に至り曇天又は小雨の日を撰み本畑に移植す本畑は深さ一尺位迄の處を克く切り返し作間二尺に畦を立て元肥として右調合の糠灰肥料を施し又克く土を混合し置きて袖付く移植の時は長さ凡そ五寸位徑一寸位の木の棒を以て凡そ一尺間に苗根の直立する位迄の穴を押し明け直に手早く挿種するなり而して苗根は乾燥せしめざる様注意すること肝要なりとす尤も植付後苗は一般に枯凋する如き觀を呈すと雖も少しも怖るゝことなし一兩日を出てすして根付き能く發育するものなり

又最初より本畑を拵へ作間二尺とす是れハ苗ハ苗ナシ而して翌年移植季に至り本畑は畦中一尺間に一本を残し餘は間拔して他の畑へ移植するもよし但し此法は場所に依り大に便益あり又翌年十月中に糠灰二十四貫目を施す可し植付後は除草作切りを兼ね一ケ年に五度の手入を要す

播種より三ヶ月即ち翌々年の晩春に至り草心より發芽し其幹頭己に穂子一頭發生す是は直ちに切取るを要す又最下に生する一二の枝の穂子も亦た切取るへし花は白色にして爪の間は悉く開花す凡そ七月初旬頃より咲始む先づ薊實の中央に帯の如くに咲き出し而して漸次上部に及び更に下部に開花するものなり

收穫 八月初旬にして土用中より明け際頃を收穫期とす少しく熟練せば穂子の色合にて見分ることを得るなり此鑑定は穂子の青色中凡そ三分通り黄色を呈したるを最上の時とす

第八 黃蜀葵(ねり)

黃蜀葵は一年草需根作物にして其根部には多量の澱粉を含有し製紙用の糊を得へき

特用植物として賞用せらる

栽培 播種期は六月中旬頃にして大小麥の畦間に播種す其法先つ引鍬にて淺溝を作り之れに磷酸及加里肥料を堆肥に調合したるものを平均に施し種子を反當八九合乃至一升位播下す覆土は厚薄に過く可からざるは勿論なるか土覆への際決して種子の上を踏壓すへからず雨順宜しければ八九日にして大抵發芽し十數日にして嫩芽五六を開張す此時を見計らへ一寸乃至一寸五分の距離に間引をなし稀薄にせる人糞を施し中耕をなすへし之を初耕作と云ふ

後二週間を經て再び除草及中耕をなし更に一圃除草中耕をなすなり是等の仕事終らは開花期迄放置す開花期は九月七旬なり開花期に至らば莖元三寸許を残し置き必ず莖を刈り取るへし若し怠る時は只た莖葉のみ繁茂に過き根部肥大ならず纖維のみ多く比較的に成分の薄弱なるものなり

收穫 肥根の收穫は十一月頃にして霜の未だ降らざる前に於てすへし而して收穫したる肥根は日光に曝すこと二三日其少しく乾くを待ち收納して家屋内の空氣の流通

良き處に一把つゝ束ねたるものを竹杵を横架し是れに吊して乾燥す其法最便利なり而して此ねり粉を農家は小麥粉に代用して蕎麥粉に混し打蕎麥として食す味中々佳良なり其製粉の方法は先つ良好なる肥根を採り鬚根莖等を切り去り能く清水にて洗滌し庖丁にて輪形の薄片に截り數日日光に干かしたる後ち臼に入れて舂き碎き又之れを石臼にて挽き細目の篩にて篩ひ細粉となすなり而して此粉は貯へ置き入用の都度取出し生蕎麥粉一升に付三勺位の割合を以て小麥粉と共に混合し微温湯にて捏ね通常蕎麥麵を打つか如く仕上げ製するなり

第九 藍

藍は本邦古くより培養せられ染料中最も重貴なるものにして従て其需用の多きこと植物質染料中これに敵するものなし就中阿波地方に産するものは品質頗る良好にして産出又全國に冠たり輓近外國より輸入の印度藍及「アニリン」染料との爲めに多大の反響を受け一時吾藍作は大に衰微するに至れり然れども此者は現今に於ても尙多少の純益あるのみならず本邦藍は一種特殊の料質を固有するにより其運命も容易

に悉さざるへし故に今後これか培養と製造に改良を加へたらんには必ず其收益を増加し且つ外國藍の輸入を防遏するに至るへし

種類 藍の種類頗る多しと雖これを大別し唐藍、丸藍、高麗藍、鹿嶋藍、蓼藍等となす而して目下重に栽培せらるゝ品種は赤藍小千本百貫等なり

土質 元來藍は他の殊用作物と異にし氣候を擇ふこと良し其適地は濕氣多き如を好むものなれども余り乾燥に失するは宜しからず故にこれを栽培するには有機質多き砂質壤土若しくは沖積土にして下層排水の便ある肥良なる壤土を第一とす就中屢々河水の氾濫して河泥を浸澱するか如き處にありては殊に良結果を得へし

栽培 藍を栽培するには春季早く苗床を設け苗を仕立つへしこの法本圃一反歩に付十坪に作り一坪に付種子量五勺位の割にて播下すへし夫れより發芽後苗の適宜に生育したるとき其の濃薄なき様よく間引して早く健全肥大ならしむへし夫れより苗の七八寸に成長凡そ播種後七十日位する一及んで數本を一株宛となし四月下旬頃より五月下旬頃迄に移植すへし但し畦巾は二尺五六寸内外を適度となし又株間の距離

は一尺四五寸をよしとす

今左に株間距離に付西ヶ原農事試験場にて試験せし成績の概要を掲げて參考に供すへし

試験區別	生葉收量	乾葉收量
一尺二寸	一〇二二、〇〇〇	七三、〇二〇
一尺五寸	八八五、九〇〇	五八、〇一〇
一尺八寸	一〇一六、四〇〇	六三、七二〇

手入 移植後十一二日を経は第一回の中耕をなすへし其法に鋤を以て畦の土を削り落し根邊に培へるにありそれより又三週間計りを過ぎて第二回の中耕を行へ後生育の度を窺へ一二回の耕耘及び除草を行ふへし但藍は生育中乾燥に失するときは完全の發育を遂ぐるものなれば移植後三日目に至り灌漑を行ふをよしとす

又肥料は從來より大抵魚肥主に鱈粕を使用すれども其養分の配合宜しきを得は他の肥料を以てこれに代用するも可なり其施用方法は全量を數回に分け第一回より漸次回

畝に随へて其分量を増加し施すにあり

收納 收穫は各地風土の異なるにより等しからされども植付後七十五六日を經て其葉色の最も濃緑を呈せる時に苜採らは大抵大差なきものなり而して其七月中に採收するを一番と稱し又其舊株を再び培養して八月中に苜取るを二番藍と稱す

第十 水藍

種類 水藍は畑藍と同種にして別段水藍種類なるものなし最も廣く栽培せる種類は丸葉たたく種なり往々丸葉たたく種と縮葉雲州種とを八と二の比例を以て混合し撰種する人あり

土質 水藍は耕地を撰擇すること最甚しき補物にして隨て其培養法も又簡易ならず即ち其栽培ト收益の頗る多きに比し未だ其栽培區域の擴張せざるに依るも明かなるへしこれ蓋し其適地は水質に多大の關係を有するか故なり且つ土質も又最も有機物に富裕なるを要す故に新にこれを栽培せんとし若しくは舊來稻作をなし來れる水田をして始めて水藍田に改めんと欲せば灌水を終始漸減せは一兩年の後よく此種の適

地に化せしむるを得へし故にこれによつて見れば該作物の適地は土質を擇はんよりは寧ろ水質にありと云ふへし

苗床 苗床は栽培地に設けて畑(多く乾田)を借りて仕立つるをよしとす是れ害虫の蕃殖を避くると同時に強固なる苗を得んとするにあり栽培地に於てせば土地肥沃なるかために苗の強固を得難し苗強固ならされは之れを腐壞の如き本田に植ゑて生着遅く植傷甚たしきか故なり

種子量 本田の地味に因りて同しからざるも一反歩に對し七升乃至一斗二升なり苗床の面積は本田一反歩に對し一畝半乃至二畝を要す播種法は畑藍苗床に同し其下種期日は春の彼岸前後にして畑藍に比して二十日ほど早し

肥料は畑藍に比して遙かに節減するを要す是れ強固な・瘦苗を得るを目的とすればなり

苗は移植の當時に於て三寸程に長せるを適度とす

移植 本田のは整地は移植前二回程高底を均平するに過ぎず然れども裏作(慈姑作)

を仕付けざる所に於ては冬間一回打返すを要す肥料は一切施さず又移植期は五月三日頃より十五日頃までにして畑藍に比して十五日程早きをよしとす

移植 株数は一坪に付二三百株にして一株十五本乃至二十本を植ゆへし

栽培法 移植後十五日程を経て蟲漬と稱して水を漲り苗を水中に沈め其儘三日間を放置す此の間苗の軟弱なるものは腐死し易きを以て蟲漬をなす迄は極めて苗の強固を計り回縁せしめざる様注意す故に夫れ迄は灌水をなさず乾燥に過ぎしとするの場合に於て時々水を走入せしむるのみ

除草は普通の場合に於ては蟲漬三日程前に一回行ひ尙蟲漬後四五日を経て一回行ふ其法稻田の除草に同じ

灌水は水藍栽培の技術に於て最も巧拙の存する所なり蟲漬後は水を漲りて苗の半に及ほし極めて緩に水の出入をなさしむ爾後藍の生長するに従て水を深くし又灌水出入の速力を増加す藍の滅田に繁茂するに至て後は灌水出入の速力を極度に達せしめ常に走流せしむるを要す若し速力緩にして滞水温まるに至ては甚たしく藍の發育を

損す元來水藍に用ゆる灌水に温度の高きを最も忌めり

若し灌水不足にして充分に走流せしむるを得ざるか或は發育不良なる場合に於ては半長土の畝に至り斷生落水し乾燥せしめ再び灌水せす之れを俗に干藍田と稱す干藍田は收穫に於ては寧ろ優ると雖も製葉の品質を著るしく損すへければ止むを得ざるに當て處すへきの方便なり

肥料は一般に施さず然れども水尻にして藍の發育不十分なる所に於ては肥料を施すをよしとす其法二種あり一つは半夏生に於て落水し人尿或は鯨骨粕の細粉を撒布し後灌水す一つは鯨アンペラ袋(砂糖の袋)に入れ之れを灌水の入口に沈め置き時々棒を以て振盪し肥分を浸出流入せしむるなり

收穫半土川より土用切きころ迄に刈り取る之れを一番刈とす畑藍に比して十五日程遅し後十五日乃至二十日を経て二番刈を行ふ

一番收穫は一反歩に對し乾葉上作にて四十貫日中作にて三十二三貫日なり二番刈收穫は乾葉五貫乃至十五貫日なり

莖莖は未だ軟弱なる時其莖葉を燒柴に供することあるも主として其種子を壓搾し油を取るものにして其油は重に燈用工藝用等に供せられ油料作物中最欠く可らざるものなり殊に古來は此種の油のみを以て燈火に用ひたるか故に近來に至る迄其栽培は非常に盛大なりしものなり然るに一朝外國との交通以來石油の流行に壓倒され大に其の需用を減却し従てこれを栽培するもの又少きに至れり然れども現今に至りては百般工藝の發達に伴なはれ其需用復た將に舊に復せんとするの現況を呈するか故に農家たるもの宜しくこの機を計り其培養を擴張せはあなかりち收益なしとのみ云ふへけんや殊に今後其耕作の改善に意を用ひたらんには大に收量を増進し多大の純益を見るに至るや必然なるへし

種類 其品種少からされども今世人の好評する處のものは群馬、朝鮮、ハンボルク等の二三種にしてこれ等は一般に能く人の知るところなり

朝鮮油菜、此種は其形状恰も芥子如く莖葉長大莖頗る強くして風雨の害を蒙ること

少く根の蔓延非常に深遠なり

ハボンルク 此種は稍晩熟なれども種實肥大にして油量を多含し品質最良好にして收量又可なり

土質 油菜は普通の土地なれば大抵能く生育をなすものなれども湿地にては生育せず其中適地とするは小麥に最適する肥沃の深土にして又第四期新層に属する深壤土には品質の優等なるものを産すへし

栽培 これを栽培するには秋季先づ苗床を設けこれに一反歩四合乃至五合位の種子を播付け置き冬間に至り本圃に幅二尺内外の畦を立てこれに八九寸宛を距て一株二本宛位に移植すへし(又は秋季直ちに本圃に播下するも可なり然ども移植法に比し收穫稍劣るへし又外國種ならときは株間の距離一尺七八寸に一株一本宛とすへし)其移植に供すへき苗は餘り成長に過たるを除き莖太りて短きものを撰ふへし但し其手入法等は大小麥類と大差なきを以て概ねこれに準して行ふへし然れども摘心法は此種の培養上極めて有効のことなるのみならず其手数の如きも頗る容易なるを以て

其成長の適宜を計り莖枝の先端を摘断して支枝の繁茂を促すへし
 肥料 每反施すへき肥料三成分の用量は種々の場合によりて確論すること能はずと
 雖も大抵可溶窒素二貫五百目、可溶磷酸二貫五百目、加里一貫五百目を摸範とせば大
 差なかるへし

收納 收穫は六七月の候其莢成熟して未だ破綻せざる間に刈採るへし殊に此作物は
 成熟の速度極めて急なるものなるか故に熟期に近寄れば時々これに注意して完熟に
 失せしむへからず

第十二 泊芙蘭(サフラン)

泊芙蘭は古より頗る貴重なる藥品として世人の夙に知悉せる所なり殊に婦人血の道
 の病を治するに欠く可らざるものにして其他男女の諸病にも特效を有し極めて重要
 なる植物となす然れども世上多くはこれか此球根植物の花蕊より採收せらるゝ者な
 るを知るもの少なく況んやこれを培養するものに於ては殆んどなきか如し元來此植
 物は曩に農界の田中芳男氏乃其培養を奮勵せられたるものにして今現に農商務省枝

師服部某の如きは房州に於て専らこれか栽培に従事し居らると云ふ今より農家たる
 ものは大にこれか培養を試み只た一家一身の収益に期するに止まらず輸入購買の途
 を防遏するに勉むべきなり加之今此栽培にして廣く全國に普及するに至らば眞に藥
 學界の一大進歩を見るは蓋し疑なかるへし

植付期節 移植及植付の時節は毎年五月枯萎後に於てし九月(新曆にて)中を最良と
 す十一月に入れば開花あるかゆる遅くも十月初旬迄に植付を了すへし

肥料 としては人糞尿を用ゆへしと雖も植付の際及び植付後は其玉を腐敗せしむる
 恐あるを以て一切施すへからず總て植付一ヶ月以前に於て人糞尿を畑地に撒布し又
 は油粕、干粕等を加へて能く切り交せよて混合し肥料を種球に觸れしめぬ様注意す
 へし

畑地 は畦幅を三尺位とし他日花蕊採收の際に於ける往復通路に便ならしむへし

植付 は必ず濕地を避け斯く施肥し準備したる畑地へ前記の畦畔を設け極々淺く地
 下一二寸に種玉に種玉を挿植すへし其割合は玉と玉との距離を二三寸位とし一尺平

方の地積へ七八個とし細若一球なれば十五六個位とす前後左右は二寸をき位にて可なり

發芽及開花 の期は土地により遅速あれども十月末より十一月初旬にかけ松葉様の小さき葉を出し花咲く者は同時に中央より花梗を抽出し藤紫花の筆狀の蕾となり花開きは六瓣にして優姿艶麗中に樺色雌蕊三本黄色雄蕊三本あり之を盆栽とするも試作の經驗と共に觀賞愛玩の價あり

此期に達すれば畑地に植へさるも箱中にてても發芽或は開花する者なり

採掘期 三月四月の春暖には細葉益々繁茂し四月中旬より下旬ころは其最盛の時にして五月に入れば葉端枯れ次第に黄色を現はし來る此際毎年之を採掘すへし

増殖 採掘すれば其大球の周圍には小球四五個壘々附殖し中球には三四球小球にも一二球の附生あるを以て丁寧に大中小を撰り分け之を乾燥すへし

保存 之を乾燥せしむるは日蔭に於て二三日之を干し數球つゝ天井裏などに吊すか或は又箱詰となすへし箱に入るゝときは充分其温氣を去り置かされは腐敗する事あり

此の如く五月中旬採掘期より九月に至るまで畑地に植置かすして更に差支なしと雖も若し地面の必要なければ六七月に植る付けをくも可なり然れども箱中にてても又地中にてても其發芽即十月末にならされは決して發芽せぬ者たるは心得をくへし

藥料採收 開きたる六瓣花花心の長き濃樺色の雌蕊三本は即ち貴重なる藥料サフランなり

此蕊は開きたる翌々日位に摘採すへし多數を栽培すれば其開花も一樣ならされは日々時刻を定め早咲きより順次に摘み採り之を陰乾とし具乾きたる後は口を硬くし罐中に貯藏すへし斯く採收して黄色の雄蕊を混ぜさるものは從來の舶來サフランに比し藥効遙に強大にして衛生試験所に出すも大醫或は藥劑師と雖も何れも其藥効を確保すへし

第十三 驅蟲菊(又除蟲菊)

除蟲菊は其花(莖及び葉も多少の効あり)を粉末となし種々の害虫を驅除するに大効